

道徳教育の研究 第55集(令和6年度)

道徳教育指導資料集(第37集)

# 道徳教育の実践例

【研究主題】 人としての生き方について考えを深め、  
よりよく生きる児童・生徒を育てる道徳教育の創造

～学習指導要領が求める道徳教育の実践を通して～



夏季研修会 分科会の様子  
(鴻巣市文化センター <クリア鴻巣>)

# 目 次

あいさつ	正籬 洋子 会長	1
1	埼玉県道德教育研究会理事会（総会）・全体研究協議会	2
2	埼玉県道德教育研究会夏季研修会	3
(1)	夏季研修会要項	5
(2)	各分科会まとめ (基礎・基本、小学校低学年、小学校高学年、中学校の指導案・教材吟味など)	6
(3)	指導講評	32
	埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 芳賀 一行 先生	
	さいたま市教育委員会教育課程指導課主席指導主事 宍戸 貴久 先生	
3	考え、議論する道德科の実践 ～多様な指導方法の展開事例～	36
	夏季研修会「分科会」のまとめを受けての授業実践提案	37
○	小・中学年（久喜市立桜田小学校 麦倉 るり 先生）	
○	小・高学年（長瀬町立長瀬第一小学校 吉牟田 里実 先生）	
4	長期研修生報告	47
○	入間市立豊岡小学校 岩原 綾香 先生	
○	寄居町立鉢形小学校 木村 洋介 先生	
○	深谷市立幡羅中学校 鴻野 光伸 先生	
5	埼玉県道德教育研究大会報告（熊谷市立江南北小学校）	61
(1)	研究概要	62
(2)	埼玉県道德教育研究大会熊谷大会概要	66
(3)	研究授業	67
(4)	パネルディスカッション資料	75
(5)	参観者の感想	78
6	研究大会参加者の報告等	79
○	第60回全国小学校道德教育研究大会（徳島大会）の報告	
○	第58回全日本中学校道德教育研究大会（神奈川大会）の報告	80
○	第58回関東地区小学校道德教育研究大会（千葉大会）の報告	81
○	第58回関東地区小学校道德教育研究大会（課題別分科会 第6分科会 提案資料）	82
7	編集委員等一覧・編集後記	86

# あ い さ つ

埼玉県道德教育研究会  
会長 正 籬 洋 子

この夏、日本が海外で開催されたオリンピックで最多の45個のメダルを獲得し、夢と希望を与えてくれたパリ五輪。子供たちはスポーツへの関心を高めただけでなく、勝負に挑む選手の姿や生き方から多くのことを感じ学んだことでしょう。そして私たち教師は、その感動をいかに道德科の授業に生かそうかと考えたのではないのでしょうか。

埼玉県道德教育研究会では、県内各地域の学校や先生方の研究実践や成果を交流し合い、語り合い、学び合いながら指導力の向上が図られる場となるよう各事業を進めてまいりました。新型コロナウイルス感染拡大から5年、研修会の在り方も変化してきましたが、本研究会のよさは、互いに顔と顔を合わせ、熱く語り合い、学びの深まりを実感できることと思っています。夏期研修会では、埼玉県道德教育教材資料集「彩の国の道德」等から教材を選定し、教材吟味と指導案作成に係る演習を行いました。事前に教材吟味を行い研修に臨んだ方もおり、学び合いの深まりを実感しました。埼玉県道德教育研究大会熊谷大会（江南北小学校）では、2つの授業を提供していただきました。授業後には「豊かな心を育む道德教育の充実に向けて」をテーマに、パネルディスカッションが行われ、県内各地域で実践を重ねている先生方が実践を交換し合いました。また、参会者の先生方も積極的に意見を交換し合い、新たな学びを実感しました。

さて、今年度、「特別の教科 道德」は全面実施から小学校では7年目、中学校では6年目を迎えました。各学校におかれましては、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる、道德性を養うための指導方法の工夫など授業改善が着実に進められていることと思います。各種調査の結果や教科調査官の御指導の内容から、道德科授業の「量的確保」や「質的充実」の面では、一定の成果が上がっていると考えられます。とはいえ、将来の変化を予測することが困難な時代を迎え、自らの生き方を育んでいく道德教育は、これまで以上に重要な役割を果たすことが期待されています。そして道德科においても、全ての子供たちの可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、さらなる授業の改善・充実を図っていくことが求められています。まずは、私たち一人一人が道德科の特質を理解し、指導観を明確にして授業を展開すること、さらにICTを有効に活用すること（特に一人1台端末）が大切になります。

今年度、小学校では新たな教科書が発行（中学校令和7年度）されました。注目したいのは、やはり新教材です。子供が考えたいくなる仕掛けがどこにあるのか、どう生かすのか、みなさんが授業づくりへの挑戦を楽しめることを願っています。今後も、本研究会では道德教育に関わる様々な課題に向けて、人と人との関わりを大切にしながらみなさまとともに取り組んでまいりたいと思います。

結びに、平素より御指導を賜っております、文部科学省、県教育委員会、各市町村教育委員会、関係諸機関のみなさまに心より感謝を申し上げますとともに、今後も変わらぬ御指導御鞭撻をお願い申し上げます、あいさつといたします。

# I 埼玉県道德教育研究会理事会（総会）・全体研究協議会



会長 正籬 洋子



感謝状交付



全体研究協議会(講演会)

演題：「道徳教育の指導のスタンス」

講師：十文字学園女子大学 教授

浅見 哲也 先生

## 2 埼玉県道徳教育研究会夏季研修会



会長あいさつ 正籬 洋子 会長



来賓あいさつ 齊藤 隆志 先生  
(鴻巣市教育委員会教育長)



基礎・基本部会 藤澤 美智子 先生  
(帝京大学大学院教授)



小学校低学年部会 松下 元彦 先生  
(さいたま市立岸町小学校教頭)



小学校中学年部会 佐藤 香織 先生  
(川島町立西中学校校長)



小学校高学年部会 後藤 輝明 先生  
(富士見市立富士見台中学校校長)



中学校部会 井野 裕治 先生  
(蓮田市立黒浜西中学校教頭)



分科会の様子



**記念講演**

演題「人としての生き方についての考えを深める道徳科の授業の創造」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

堀田 竜次 先生

## (1) 第35回夏季研修会要項

### 1 研究主題

人としての生き方について考えを深め、よりよく生きる児童・生徒を育てる道徳教育の創造  
～学習指導要領が求める道徳教育の実践を通して～

2 期 日 令和6年8月7日(水)

3 会 場 鴻巣市文化センター<クレアこうのす>大ホール

### 4 内 容

【記念講演】「人としての生き方についての考えを深める道徳科の授業の創造」

講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 堀田 竜次 先生

【分科会】☆共通課題 学習指導案の作成

#### (1) 基礎・基本部会

① テーマ 自己の生き方についての考えを深める道徳科への一歩

指 導 者	帝京大学大学院教授	藤澤 美智子	先生
司会と記録	蕨市立塚越小学校教諭	島藤 和也	先生
	川越市立名細小学校教諭	間田 美穂	先生

#### (2) 小学校低学年部会

① 教 材 名「みんなのニュースがかり」

(出典「小学校道徳 読み物資料集」文部科学省)

指 導 者	さいたま市立岸町小学校教頭	松下 元彦	先生
司会と記録	さいたま市立美園小学校教諭	諏訪 健太	先生
	行田市立西中学校教諭	室田 恭平	先生

#### (3) 小学校高学年部会

① 教 材 名「よろこびはだれに」

(出典「彩の国の道徳 未来に生きる」埼玉県道徳教育教材資料)

指 導 者	川島町立西中学校校長	佐藤 香織	先生
司会と記録	狭山市立柏原小学校教諭	吉野 朱莉	先生
	久喜市立清久小学校教諭	今井 麻耶	先生

#### (4) 小学校高学年部会

① 教 材 名「離れていても」

(出典「彩の国の道徳 未来に生きる」埼玉県道徳教育教材資料)

指 導 者	富士見市立富士見台中学校校長	後藤 輝明	先生
司会と記録	幸手市立上高野小学校教諭	藤原 祐介	先生
	川越市立中央小学校教諭	鈴木 敏之	先生

#### (5) 中学校部会

① 教 材 名「心のパス交換」

(出典「彩の国の道徳 学級づくりの羅針盤

～いま、道徳が「いじめ問題」にできること～」埼玉県道徳教育教材資料)

指 導 者	蓮田市立黒浜西中学校教頭	井野 裕治	先生
司会と記録	越谷市立西中学校教諭	宮崎 里美	先生
	越谷市立光陽中学校教諭	佐々木和宏	先生

## (2) 夏季研修会 各分科会のまとめ

### 基礎・基本部会 自己の生き方についての考えを深める道徳科への第一歩

指導者 帝京大学大学院 教授 藤澤美智子  
司会者 川越市立名細小学校 教諭 間田 美穂  
記録者 蕨市立塚越小学校 教諭 島藤 和也

#### 1 道徳のオリエンテーションの有効性

- ・道徳のよさ、例えば「一人一人が異なる考えをもっている」「様々な考えを認め、学び合うことで新たな学び、新たな気付きがある」ことを、子供たちに理解を深め、道徳授業への心の構えをつくるのが目的の一つである。
- ・オリエンテーションの時間では、
  - ① 子供たちが語り合うことが大事。その際、第一発言者を大切にす。発言者を労うと、その姿が学級全体に伝播する。⇒道徳的風土の醸成につながる。
  - ② オリエンテーションは、主題（教材とねらい）を設定して実施することで1/35時間とすることもできるが、主題を設定しなくても0/35時間という扱いで実施できる。
  - ③ オリエンテーションで伝えたいこと（例）
    - \* 「道徳は生き方を学ぶ時間」先生も子どもも。
    - \* 「一度しかない人生をよりよくするのは自分次第」生き方を学び、ヒントにする。  
……教材を通して生き方の疑似体験をしていく。

#### 2 道徳の授業づくり・実践の身構え

- ・「道徳には間違いはない・正解はない」と言われることがあるが、例えば、人を傷つけるような言葉や人権にかかわるような考え、発言は正してあげることが望ましい。ただし、発言者を傷つけないように発言を受け止めることは大切。「他の言葉はないかな。」など、問い返してあげることが大切。道徳科においての「生き方の解」は、一人一人の心の中にある。「答えは一つではない」。
  - ・道徳性を養うために、道徳的判断力・心情・実践意欲・態度を育てる。  
「判断…善悪を見極める」「心情…善を喜び、悪を憎む」「実践意欲…実現しようとする意思」「態度…具体的な身構え⇒実践意欲より具体性がある」
  - ・実態を見ながら、子供たちにどんな力を育てたいかを考えることが肝要である。
  - ・展開の後段で内容項目を定義づけるような授業ではなく、自分との関わりで考えることを通して自己理解を深め、一人一人が納得解を見付けられるような授業をしていく。そのために大切なことは以下の三点。
    - ①自分の考えを確かめる。
    - ②みんなと比較する。
    - ③よりよいものを見付け、自己の生き方に生かす。
- } 一人一人の納得解へ。

#### 3 道徳的価値と内容項目について

- ・一つ一つの道徳的価値がどのように心の中で組み上がるのかは違う。⇒道徳性も個々に異なる。

- ・世の中にはたくさんの価値がある。学校教育では、よりよく生きるために必要で、人間としての在り方や生き方の礎となり、個々の価値観の形成に必要なものを内容項目として取り上げている。

#### 4 道徳授業の指導のポイント

- ・条件、情況

教材の内容によっては、丁寧に押さえる必要がある教材もある。条件を押さえなかったために、方法論の話合いになってしまうとねらいから離れてしまう。

(例として「手品師」では、大劇場に行くか、男の子との約束を守るかで葛藤して考えるとき、「置手紙で～」「男の子の家に～」「電話で～」など、解決の方法の話合いになってしまうことがある。)

- ・アンケート

道徳的価値について、児童生徒の実態把握に役立つ。それ以外にも、導入に活用したり、そこで掘んだことをもとに意図的に指名して発言を引き出したりするなど、授業に生かすことができる。

- ・めあての設定

めあてを設定することで、言葉の定義を考える授業にならないようにする。

- ・終末

自己の生き方についての考えを深めるための重要な学習活動の時間である。

- ・指導方法の工夫

【主体的な児童の学び「問題解決」「自我関与」「体験的」】

【役割演技・動作化】【ペア・少人数学習】

【ICT機器の活用】【書く活動】【発問】【板書】

……などなど、これらの指導方法の工夫は、あくまでも手段であり、目的ではない。道徳的価値への理解へつなげていくために、どのような手段が効果的かという視点に立って考えるべきであり、「ICTが使いたいから」が先立ってはいけない。

- ・発問

一つの教材にいろいろな道徳的な価値が含まれている。それらを把握することで、「この発問をしたら、こういう風に返ってくるかもしれない。」と予想できる。この予想ができれば、一人一人の考えを大事にできる。(例えば、「はしのうえのおおかみ」では、礼儀「友情・信頼」などの視点で話す子もいるかもしれない。)

また、教師の問いかけを工夫することで児童生徒の反応も変わってくる。

- 【例】
- ①「なぜ許せたのかな」
  - ②「本当に許してよかったのかな」
  - ③「あなたなら〇〇を許すか」

その他にも友達との意見の相違について考えさせたり、主人公の心情の変化について考えさせたりすることも有効である。何を考えさせたいか、どんなことに気付かせたいか、授業のねらいに沿った発問を考えることが大切である。

# 埼玉県道德教育研究会 夏季研修会

基礎・基本 部会

## 自己の生き方についての 考えを深める道德科への第一歩

8月7日(水)  
帝京大学 藤澤

今日の基礎基本部会では・・・



- 1 道德授業への心の構えをつくる  
\* 道德のオリエンテーション
- 2 授業実践をする上で大切にしたいこと  
\* 道德教育の意義と道德科の特質
- 3 自己の生き方についての考えを深める授業に向けて  
\* 一人一人が納得解を得られる授業実践

道德授業への  
心の構えをつくる

道德のオリエンテーション

道德びらき(オリエンテーション)

※ 年度初めの、最初の学びの時間

道德科は

~~教材を学ぶ時間~~

教材を通して生き方を学ぶ時間

子どもと教師の心の  
構えをつくる

生き方を考える大切な時間  
自分事

例えば・・・ 高学年の例

たった1度の自分の人生を  
よりよく生きるために !

① 道德科の時間は、自分事

② 1度の人生、よりよくするのは自分次第

生 ————— 死  
誰にでも平等に与えられている

③ 主人公の生き方を学ぶことで、多くの疑似体験をし、自分の生き方に生かす

オリエンテーションの例

道德の時間は、  
何を学ぶ時間  
なのか

道德の時間は、  
どんな学び方  
が大切なのか

低：心をほかほかにする時間  
：楽しい毎日にする時間  
中：友達と仲よくするために  
何が大事かを考える時間  
高：心を磨く時間  
自分を見つめる時間  
中学：人間としての生き方について深く考える時間

○目と耳と心を合わせて話を聞きましょう  
○答えは一つではありません  
○友達の考えと比べながら自分の考えを深めよう  
○他者の生き方を参考に自分の生き方を見つめよう  
○様々な対話から、新たな自分を発見しよう

## よりよい道徳授業にするための 出会いの演出を！

### オリエンテーションのもう一工夫

- ① 道徳授業の流れを伝える
- ② 主題を決めて話し合う
  - \* 友情・信頼
  - \* 個性尊重
  - \* よりよく生きる喜び
- ③ 教科書の最初のページを用いる
- ④ 教科書の内容を確認する

等



授業実践をする上で  
大切にしたいこと

## 道徳教育の意義と 道徳科の特質

## 道徳教育の目標

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本理念に基づき、人間としての（自己の）生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きる基盤となる**道徳性**を養うことを目標とすること。

小・中学校学習指導要領 第1章 総則第1 2(2)

## 特別の教科 道徳の目標

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる**道徳性を養うため**、**道徳的諸価値**についての理解を基に、**自己を見つめ**、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての（自己の）生き方についての考えを深める学習を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度**を育てる。

小・中学校学習指導要領解説  
特別の教科 道徳 第2章 第2節

道徳性を養わなければならないことは  
わかったけど・・・

### 学校教育における道徳教育の 目標にある**道徳性**とは・・・

- 思考や判断、行動などを通して、**よりよく生きるための営みを支える基盤**となるもの。
- 人間らしいよさであり、**道徳的価値が一人一人の内面において統合されたもの**
- 人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指して行われる**道徳的行為を可能にする人格的特性**であり、**人格の基盤をなすもの**。



学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の**要**である道徳科では・・・

道徳的判断力  
道徳的心情  
道徳的実践意欲  
道徳的態度

道徳性を構成する諸様相

授業を通して、4つの諸様相を育てていくことが目標となっています。

諸様相をもう少し、詳しく言うと・・・

**道徳的判断力**・・・

それぞれの場面で、善悪を判断する能力

- ※ これはよいことだ
- ※ やってよいことが悪いことかちゃんと考えて行動しよう

**道徳的心情**・・・

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

- ※ 善いことをすると、気持ちがいい
- ※ 悪いことをしてしまうと、心が重い

**道徳的実践意欲**・・・

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き

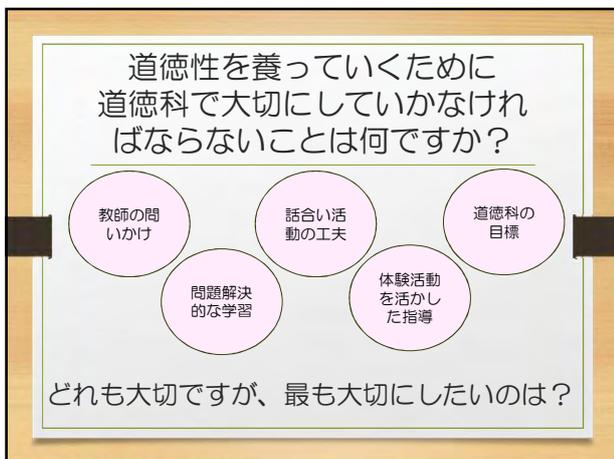
- ※ 挨拶をすることは気持ちがいいことだから、これからはちゃんと挨拶をしよう

**道徳的態度**・・・

道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的道徳的行為への身構え

- ※ これまで、恥ずかしくて挨拶ができなかった交通指導員さんに、明日は進んで挨拶をしよう

道徳科の授業で育ていく心の力です。



- 道徳科の特質を押さえた授業を行うことです。
- ① 道徳的諸価値についての理解を基に
  - ② 自己を見つめ
  - ③ 物事を広い視野から多面的・多角的に考え
  - ④ 自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して  
道徳性を養う
- 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P78

## 道徳的諸価値とは

よりよく生きるために必要とされるもの  
人間としての在り方や生き方の礎となるもの

●今後、様々な問題場面に会った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うためには、道徳的価値の意義及びその大切さの理解が必要になる。

●学校教育では、これらのうち発達の段階を考慮して、児童生徒一人一人が**道徳的価値観を形成する上で必要なものを内容項目**として取り上げている。

## 特質1 道徳的諸価値についての理解を基に

### 1. 価値理解

人間として、よりよく生きる上で大切なことであることを理解すること

### 2. 人間理解

道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること

### 3. 他者理解

道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない。多様であるということを前提として理解すること

価値の内容を理解するだけではない

意義及び大切さを理解する

## 特質2 自己を見つめ

### 1. 価値理解

### 2. 人間理解

### 3. 他者理解

自己理解

自分事として。

自分との関わりでとらえる

自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら考えを深める。

自分で自分をj知ること  
○成長を実感する  
○課題や目標を見つける

## 特質3 多面的・多角的に考える

- ・多様な感じ方や考え方に接する
- ・多様な価値観の存在を前提に考える
- ・他者と対話したり協働したりしながら考える

児童生徒が多様な感じ方や考え方に接することが大切。

こんな考えもあったんだな。

自分と似ているけど、少し違うな。



## 特質4 人間としての生き方についての考えを深める

- ① 自分の気持ちや考え（価値観）を確かめる。
- ② みんなの気持ちや考え（価値観）を出し合い、比べる。
- ③ 多様な気持ちや考えの中から、よりよいと思うものを見つけ、自分の生き方に生かそうとする。

これまでは、〇〇だったけど、これからは〇〇を大切にしていきたい。

自分の考えは間違っていなかった。これからも大切にしていこう。

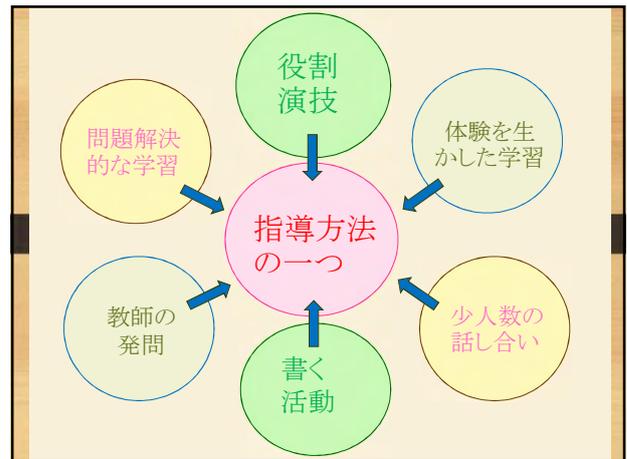
児童生徒一人一人の解  
納得解

自己の生き方についての考えを  
深める授業に向けて

一人一人が納得解を得られる  
授業実践

## 教科化以降の授業を参観して ちょっと 気になること

- 新しい道徳は、〇〇なんですか？◇◇しなければならぬのですか？  
\*指導方法の工夫を先に考えていませんか。
- 教科なので、「めあて」を必ず提示しなければなりませんか？  
\*本当の〇〇を考えよう。◇◇とはどういうことだろう。  
\*児童生徒の納得解ではなく、言葉の定義を考えさせる授業になってはいませんか。
- 終末の振り返り  
\*授業の振り返りの時間ですか。自己の生き方についての考えを深める時間ですか？



指導方法を考える前に、扱う教材の道徳的価値について、教師自身がしっかり理解することが大切です。



Q2

私たちの道徳 1, 2年生  
「はしの上の おおかみ」

にある、道徳的価値（内容項目）  
について考えてみましょう。

- 教師用指導書では、



内容項目 B7  
「親切、思いやり」

他にも、様々な価値  
が含まれている

- 例えば B10 「友情、信頼」  
B9 「礼儀」  
A1 「善悪の判断、自立、自由と責任」

中心となる道徳的価値を決めるときに  
大切なこと

- ※ 簡単に決めつけないで様々な可能性を考えること。
- ※ 学習指導要領の解説をもとに考えること。



- 一つの教材にも様々な価値が含まれている。
  - 教師用指導書にある内容項目だけでなく、そのほかの内容項目がないか教科書を読み込む。
- 一つの事象にも様々な価値が関わっている。
  - 同じ場面でも、友情なのか思いやりなのかそれとも善悪の判断なのか、捉えられ方が様々である。
- 価値観は人それぞれ違う。
  - 個人の価値観ではなく、学習指導要領の道徳的諸価値について、教師自身が理解を深めるようにする。

- 指導方法の工夫1  
「教師の発問を考える」  
「はしの上の おおかみ」



・うさぎを渡してあげたおおかみは、どんな気持ちだろう。

- おおかみの気持ちを考えることを通して、親切のよさを感じ取らせる。
- おおかみの心の変化を通して、親切は自分も相手も喜びを感じることに気づいてとらえさせる。



・なぜ、おおかみは前よりずっといい気持ちになったのだろう。

- 教科書には、答えがない。
- 友達との相違から、多面的・多角的に親切のよさについて考えさせる。

○ 指導方法の工夫1  
「教師の発問を考える」  
私たちの道徳5、6年 B11【相互理解、寛容】  
「ブランコ乗りとピエロ」

・ピエロがサムを許した場面  
「サムをにくむ気持ちが消えてしまったのだ」



○ 指導方法の工夫2  
「問題意識をもたせる」

道徳科における問題解決的な学習とは、ねらいとする道徳的価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら、実現するための問題を見つけ、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の考え方や感じ方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うことである。

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳  
第4章第3節 5(1) P95

○ 指導方法の工夫2  
「問題意識をもたせる」

教科なので、「めあて」を必ず提示しなければなりませんか？

【内容項目 友情・信頼】  
4年生でも6年生でも  
ex「本当の友情について考えよう」

※ 問題解決的な学習もめあてをもたせて学習に臨む方法もあくまで指導方法の一つであり、いかに児童生徒に問題意識をもたせて授業を展開するかが大切です。

○ 指導方法の工夫2  
「問題意識をもたせる」

例えば・・・

- 1 導入の内容から問題意識をもたせる  
※ アンケートや教材の内容
- 2 めあてやテーマを提示する
- 3 教材の主人公の生き方から、問題意識をもたせる

これまでの道徳授業の課題の一つとして、このようなことがあげられていました。

- 資料の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導  
\*～したときの主人公はどんな気持ちだったろう？
- 発達の段階などを十分踏まえず、わかりきったことを言わせたり書かせたりする授業  
\*小学校1年生も中学3年生も「友情は大切だ！」など

これからの先行き不透明な時代に、子ども自らが生き方を選択し、主体的に生きていく力を付けてあげることが私たちの使命ではないでしょうか



新たな社会 “Society 5.0”

VUCAの時代

## 小学校 低学年部会 「みんなのニュースがかり」

(出典：「小学校道徳 読み物資料集」文部科学省)

指導者	さいたま市立岸町小学校	教頭	松下 元彦
司会者	さいたま市立美園小学校	教諭	諏訪 健太
記録者	行田市立西中学校	教諭	室田 恭平

### 1 道徳科の目標

[小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編 P16]

(「第 3 章 特別の教科 道徳」の「第 1 目標」)

第 1 章総則の第 1 の 2 の (2) に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、**道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習**を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

### 2 内容項目

(C 主として集団や社会との関わりに関すること 14 勤労、公共の精神)

[第 1 学年及び第 2 学年] 働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。

仕事に対して誇りや喜びをもち、働くことや社会に奉仕することの充実感を通して、働くことの意義を自覚し、進んで公共のために役立つことに関する内容項目である。

#### ■ 第 1 学年及び第 2 学年

この段階の児童は、何事にも興味をもって生き生きと活動し、みんなのために働くことを楽しく感じている児童が多い。そのような**実態を生かし**、自分たちが行った仕事がみんなの役に立つことのうれしさ、やりがい、そのことを通して自分の成長などを感じられるようにすることが大切である。

指導に当たっては、**学級の清掃や給食などの当番活動、学級生活の充実に向けた係活動、家庭や地域社会での決められた仕事など、みんなのために役立とうとする意欲や態度に結び付けていくことが求められる。**

### 3 授業づくりのポイント

(1) 児童の道徳性の実態を明らかにする

(2) 「明確な指導観」をもつ

(3) 教材分析を行う

(4) 学習指導過程を構想する

- ・ねらい、児童の実態、教材の内容などを基に、授業全体の展開を考える。
- ・児童のこれまでの経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら、さらに考えを深めるための発問を考える。

(5) 学習指導の多様な展開の工夫 [解説 特別の教科 道徳編 P83～86]

- ・多様な教材を生かした指導
- ・体験の活かし方を工夫した指導
- ・各教科等と関連をもたせた指導
- ・心情を表す教材教具の使用

- ・グループ活動や座席配置の工夫
- ・ICTの活用による提示や意見集約
- ・児童の問題意識を高める工夫

※指導の工夫は「手段」であって「目的」ではないことを前提に、ねらいを意識して実践する。

#### 4 指導・助言

##### (1) 教材分析のポイント

- ・授業者による指導観が大切（実態を踏まえて）
- ・教材渡しの工夫（ICTの活用）
- ・行間を読む（記載されていない心情の動き）
- ・勤労という視点を踏まえた発問（主発問から考える）
- ・発問を効果的にするための導入・終末（自分事として捉えさせる）

##### (2) けいすけさんの心情変化を押さえる

- ・ゆいさんとの会話がポイント  
⇒もう書かない→また書く（心の葛藤から価値に近付けていく）
- ・負の感情に共感する ⇒書くのをやめた（人間理解）
- ・みんなのために働いてよかった（価値理解）

##### (3) ワークシートの活用

- ・全ての発問を書かせる必要はない（教科書会社のものは例示）
- ・ワークシートの活用方法を工夫する  
⇒①中心発問で話すために使うメモ、②自己を振り返るために書く活動

##### (4) 話合いのポイント

- ・自分たちのグループ→家庭ではどんなこと→学校ではどんなこと  
⇒小集団から大きな集団へ事象を拡大していく
- ・終末で行う説話の方向性  
⇒①価値を深めるための説話、②大人として多面的・多角的に価値を広げる説話  
例①：「みんな」を意識した動画や写真を紹介することで価値の自覚を深める  
例②：様々な仕事をしている方をゲストティーチャーとして招き、子どもが気付かない多面的・多角的な価値の話の伺う

##### (5) 教材の注意ポイント

- ・主題：「みんなのためになる仕事」
- ・最初にニュースを書く⇒最後にニュースを書く・・・心情の変化を捉える
- ・理由を問う発問で価値を深めていく
- ・「ゆいさん」の存在は大きいですが、心情変化の理由は「ゆいさんに優しくされたから」だけではない。一辺倒にならないように発問の仕方に気を付ける。

⇒「みんな」を意識しながら授業を展開するとよい。「思いやり、親切」や「友情」で終わらないように。

(6) 展開後段

- ・価値の一般化⇒自分の生き方を振り返ることが大切

(7) 導入について

- ・事前アンケート「仕事をさぼったことある？」→その場で言いにくいことは事前に
- ・問題意識をもてない子に対して、自分事に考えさせる
- ・範読1回で伝わるように、条件・状況を短い言葉で板書する

(8) 指導方法の工夫

- ・役割演技

⇒演技をした後の振り返りの話合いが大切。みんなを巻き込んで、切り返し、問い返しの発問を行う

☆実態を踏まえて指導方法を考える。

○学習活動と主な発問	予想される反応	指導上の留意点
<b>〈導入〉</b> ○アンケート結果：仕事をさぼっている人を見たことがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さぼっている人は意外と多い</li> <li>・何でさぼったんだろう</li> </ul>	※面倒な仕事ややりたくない仕事を想起し、仕事への問題意識をもつ
<b>〈展開〉</b> ○教材を読んで話し合う 1あわててニュースをはがしているとき <b>人間理解</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなを喜ばせようと思ったのに</li> <li>・もう書くのやめた</li> </ul>	※落ち込んだ主人公の心情に共感させる
2なぜもう一度ニュースを書くことにしたのか <b>価値理解</b> <b>人間理解</b> <b>他者理解</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆいさんの優しきでやる気が出たから</li> <li>・みんなに喜んでもらいたいから</li> <li>・やりがいのある仕事だと分かったから</li> </ul>	※葛藤した主人公を突き動かした理由を突き詰める
③「みんなのニュースがかり」と言われたとき、どのように答えたでしょう →なぜそう答えたの？ <b>価値理解</b> <b>他者理解</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなに喜んでもらえてよかったよ</li> <li>・みんなのためにこれからも頑張るよ</li> <li>→みんなに喜んでもらえたから</li> <li>→ほめられてやる気が出たから</li> </ul>	※覚醒した主人公の心情に共感させる ※役割演技を通して価値に関わる多面的・多角的な考えを引き出す
○「みんな」を意識して働くためにどんなことを大切にするか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの表情をよく見て働く</li> <li>・みんなが笑顔で喜んでいるか</li> <li>・頑張っている人を応援する</li> <li>・人の嫌がる仕事を積極的に行う</li> </ul>	※ワークシートに書くことで自分の経験と向き合わせる
<b>〈終末〉</b> ○ゲストティーチャー用務員さんの説話を聞く		※身近で働いている方の仕事の苦労と働く理由を聞くことで価値の多角化を図る

# 道徳科学習指導案

小学校・低学年部会

- 1 主題名 みんなのために 内容項目〔C 勤労・公共の精神〕  
 2 ねらい けいすけがみんなに喜んでもらえるニュースが書いたことについて話し合うことをとおして、働くことよさを感じ、みんなのために働こうとする心情を育てる。

教材名 みんなのニュースがかり (出典：文部科学省 小学校道徳読み物資料集)

## 3 主題設定の理由

- (1) ねらいや指導内容について【略】  
 (2) これまでの学習状況及び児童の実態について【略】  
 (3) 教材の特質や活用方法について【略】

## 4 学習指導過程

	学習活動〈主な発問〉	予想される児童生徒の反応	指導上の留意点☆評価の視点
導入	○係活動について考える。	・楽しい ・めんどくさい	・実際に活動している様子の写真や動画を見せる。
展開	○本時の課題を確認する。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     みんなのためになるということは、どういうことだろう。                 </div> ○条件・状況を聞き、教師の範読を聞く。 ○教材について話し合う 1 けいすけさんは、どんな気持ちでニュースを書いたのでしょうか。 ② けいすけさんはどんな気持ちでもう一度ニュースを書いたのでしょうか。 補 けいすけさんに声をかけたゆいさんの気持ち 3 みんなのニュースがかりだねと言われたとき、けいすけさんはどんな気持ちになったのでしょうか。 ○今日の学習で学んだことを振り返る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     登場人物…けいすけ、ひろし、ゆい                      条件・状況…けいすけはニュースがかり昨日書いたニュースを貼った                 </div> ・みんながよろこんでくれるといいな。 ・きちんとみんなのために書きたい。 ・また怒られちゃうかもしれない。 ・みんなが喜んでくれてうれしい。 ・頑張ってよかった。	・誰かを嫌な気持ちにさせようとはしていないことに気付かせる。 ・書くのをやめようと思う気持ちについても触れ、それでももう一度書こうと決めた思いについて考えられるようにする。 ☆みんなのために働くことの大切さに気付いている。(発表・ワークシート)
終末	○ゲストティーチャーの話を聞く。		・学校ボランティアの話を聞く。(ICTも可)

## 5 他の教育活動との関連〈事前指導・事後指導〉

- ・当番、係活動や学級会など

## 6 評価の視点【学習指導過程参照】

## 小学校 中学年部会 「よろこびはだれに」

(出典：「彩の国の道徳 未来に生きる」埼玉県教育委員会)

指導者	川島町立西中学校	校長	佐藤香織
司会者	久喜市立清久小学校	教諭	今井麻耶
記録者	狭山市立柏原小学校	教諭	吉野朱莉

### 1 道徳科の目標

(「第3章 特別の教科 道徳」の第1 目標)

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

### 2 学習指導案作成と教材吟味の手順について

#### (1) 学習指導案作成の手順

##### ア ねらいを検討する

ねらいとする道徳的価値の指導内容を学習指導要領解説で確認し、教師の指導の意図を明らかにする。

##### イ 指導の重点を明確にする

ねらいに関する児童の実態と、それを踏まえた教師の願いを明らかにし、各教科等での指導との関連を検討して、指導の要点を明確にする。

##### ウ 教材を吟味する

教科用図書や副読本等の教材について、授業者が児童に考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討する。

(ア)ねらいとのかかわりで、道徳的価値がどのように描かれているのか。

(イ)ねらいとのかかわりで、児童がどのように感じ、考えるのか。

(ウ)ねらいとのかかわりで、どのようにして道徳的価値の自覚を深めることができるのか。

##### エ 学習指導過程を構想する

(ア)ねらい、児童の実態、教材の内容等を基に、授業全体の展開について考える。

(イ)児童がどのような問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を理解し、自己を見つめ、多様な感じ方や考え方によって学び合うことができるの

かを具体的に予想しながら、それらが効果的になされるための授業全体の展開を構想する。

## (2) 教材吟味の手順

- ア ねらいとする内容項目の視点で教材を読む。(教師の価値観・児童観)
- イ 道徳的価値の自覚を深めるために、どのように道徳的価値の理解を図るのかを明らかにする。(価値理解・人間理解・他者理解)
- ウ ねらいとする道徳的価値にかかわって、児童に最も考えさせたい場面を明らかにし、ねらいに迫るための発問を考える。
- エ 最も考えさせたい場面での話し合いを充実したものにするために、その前後で児童に考えさせることが有効だと思われる場面を考える。
- オ 児童の反応を予想し、話し合いを深めるための補助発問等を考える。
- カ 話し合いが効果的に深まるように、教材提示の工夫や授業への関心が高まるような導入の工夫等を検討する。
- キ ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりして、今後の発展につながるような学習活動を検討する。

## 3 指導・助言

### (1) 授業づくりの様子・発表から

- ・少しずつ違いはあったが、それぞれ考えたこと、方法は間違っていない。
- ・道徳は方向性が様々に考えられるので、ねらいを明確にもつことが大切である。

### (2) 内容項目 (C 集団や社会との関わりに関すること 1 1 規則の尊重)

- ・中学年の児童は、「きまりを守ることは大切である」「きまりは守るべきものである」ことを知っており、きまりを守りたいと考えている。しかし自分対集団や社会の関わりについて、まだ自分事として考えられていないことがあるため、この学習をする意味がある。

⇒ 「なぜ」「どのように」に着目して考えることが大事である。

今後の自分の生活に活かす。

### (3) 学習指導案作成 (ねらいの検討)

A  を通して、 B  しようとする  C  を育てる

A : 何を中心に学習するか

B : 具体的な道徳的価値を取り上げたいのか

C : どのような資質・能力を育むのか

道徳的  
諸様相

判断力を高める  
心情を養う  
意欲を高める  
態度を養う

#### (4) 教材吟味について

- ・ねらいとする内容項目の視点で、教材を3回読むとよい。
  - 1回目：真っ新たな気持ちで
  - 2回目：児童の視点で（児童はどう感じるか）
  - 3回目：教師として児童とどのように話し合っていくかを考えながら
- ・どのように道徳的価値（価値理解・人間理解・他者理解）の理解を図るのか考える。
- ・児童に最も考えさせたい場面＝中心となる場面を明らかにし、ねらいに迫る発問を考える。
- ・中心場面の前後で考えることが有効な場面を考える。
- ・児童の反応⇒話し合いを深めるための補助発問を考える。
- ・導入を検討：教材提示の工夫・授業の関心を高める。
- ・まとめを検討：道徳的価値に対する思いや考えを深める。今後の発展につなげる。

#### (5) 指導の重点

- ・児童の実態と教師の思いを踏まえて、指導の重点を明確にする。

#### (6) 授業について

##### ○導入

時間をかけない。知っていることを聞くだけではない。

(アンケート)「きまりは大切だと思いますか。」→(児童): 大切!

「では、きまりは好きですか。」→(児童): あまり、好きじゃない。  
…あっ!!!きまりは好きじゃないのに、何で守るのだろう。

##### ○発問

- ・たくさんの発問をしたくなるが、時間配分の視点から発問の精選は大事である。  
しかし、さまざまな発問を考え、教師がもっておくことは必要である。児童の反応によって、活用できることがある。
- ・自我関与:「自分だったらどうするか」を問う。  
児童が明らかに他人事として捉えている場合等、教材が示す人間としての生き方を自分の問題として捉える場合に切り込んでいくポイントとして使うとよい。
- ・二項対立…対立する二つの概念を対比させること。  
(例) インターネットに 載せる? 載せない?  
児童がそれぞれの立場で語り、考えを深める。  
→児童が自ら考え、判断する力を養う。

##### ○ICT活用

タブレットの技能レベルは児童によって差があるので、素地を作っておく。

##### ○課題

- ・きまりを守ることが大事だと分かっていない児童が多い。  
「きまりはどうしてあるのか。」
- ・きまりを守ることが大事だと分かっている児童が多い。  
「きまりを守るためにどんなことが大切なのか。」

##### ○教師の立ち位置

卓球型の授業⇒バレーボール型の授業へ転換

(教師)「○○はどうして○○したのだろう」

(児童)「○○○」

(教師)「〇〇さんは、～と考えているけれど、どう思いますか。」

(児童の考えを、他の児童につなげる。)

※教師は、話し合いをよりよく導くための‘ファシリテーター’となり、児童に寄り添う。

\*

# 道徳科学習指導案

小学校・中学年部会

- 1 主題名 きまりを守るために 内容項目〔C 規則の尊重〕  
 2 ねらい インターネット上のルールやきまりについて考えることをとおして、きまりの意義やよさに気付き、相手や周りの人たちの立場に立ち、より良い人間関係を築く心情を育てる。

教材名 よろこびはだれに（出典：「彩の国の道徳 未来に生きる」埼玉県教育委員会）

### 3 主題設定の理由（略）

- (1) ねらいや指導内容について  
 (2) これまでの学習状況及び児童の実態について  
 (3) 教材の特質や活用方法について

### 4 学習指導過程

	学習活動〈主な発問〉	予想される児童の反応	指導上の留意点☆評価の視点
導入	1 知っているきまり、ルールについて考える ・日常の中で知っているきまりやルールはありますか  2 きまりやルールが守られているか聞く ・きまりを守ること、は、できていますか	・廊下は走らない ・ゲームは30分まで ・交通ルールを守る  ・廊下を走ってしまうことがある ・守れていない	○事前アンケートを活用する。 ○ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。  ○児童がイメージしやすいように身近なものから考えられるようにする。
きまりを守るために大切なことは何だろう。			
展開	3 条件・状況を知り、教材を読む 4 教材を読んで話し合う (1) 新記録が出たとき、わたしは、どんな気持ちになったでしょうか  (2) 自分が「わたし」だったら動画をのせますか？のせませんか？  (3) 先生の話聞いたときわたしはなぜときどきしていたのでしょうか（課題に戻って振り返る）	条件・状況 ・うれしい ・動画を見たおかげだ  動画をのせる ・自分たちも動画を見て新記録が出たから自分たちも役に立ちたい 動画をのせない ・周りに迷惑がかかるから  ・周りに迷惑かけなくてよかった ・やっぱりやらなくてよかった	○わたしの気持ちを考えるようにする。 ○わたしの嬉しい気持ちに共感させる。  ○みんなのために動画をのせたいが、迷惑が掛かってしまうことがあると悩むわたしの気持ちをおさえる。 ☆児童にそれぞれの立場で語らせることにより、多角的・多面的に理解を深める。 ○ときどきの種類にふれる。 ○最初は動画をのせたいと思っていたわたしの気持ちなぜ変わったのか考えさせるようにする。
終末	5 自分の生活を振り返る ・きまりやルールを守れたとき、よかったなど思うことは何ですか		☆課題に戻り、本時の学びとこれからの自己の生き方をつなげて考えられるようにする。 ・事前アンケートを提示する。

# 「離れていても」

(出典：彩の国の道徳「未来に生きる」埼玉県教育委員会)

指導者	富士見市立富士見台中学校	校長	後藤 輝明
司会者	幸手市立上高野小学校	主幹教諭	藤原 祐介
記録者	川越市立中央小学校	教諭	鈴木 敏之

## 1 「特別の教科 道徳」

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

- ・道徳科の時間とは… 教師としてどのように答えるか。例)鏡を見る時間  
道徳科に対する授業イメージを明確にしておくことが、授業をする上で大切なポイントである。
- ・①道徳的諸価値の理解、②自己を見つめる、③物事を多面的・多角的に考える、④自己の生き方について考えを深める→これらが道徳科の授業に求められる要件となる。

## 2 「考え、議論する道徳」とは

- ・「考え」＝「自分が考える」主体的に、自分との関わりの中で
- ・「議論する」＝「友達と議論する」多様な感じ方や考え方との出会い、交流を通して
- ・「考え、議論する道徳」→道徳科における「主体的・対話的で深い学び」

問題意識をもつ  
自分との関わりで捉えている  
自らを振り返る

多面的・多角的に考える

自己の生き方について  
考えを深める

## 3 道徳科の授業づくりについて

### (1) 教材分析

- ①ねらいとする道徳的価値観で教材を読む。
- ②最も話し合わせたい場面を特定する。
- ③話合いのきっかけを効果的に投げかけるための発問を考える。
- ④話合いにおける児童の反応を予想する。
- ⑤話合いの前提となる場面・条件を明らかにし、前後の発問を検討する。

### (2) 発問の工夫

- |         |                                  |   |                                    |
|---------|----------------------------------|---|------------------------------------|
| ①共感的な発問 | 例：「〇〇は今、どんな気持ちだろうか」→低・中学年では重視する。 | } | 高学年以降では、これらの発問も取り入れながら授業をアレンジしていく。 |
| ②分析的な発問 | 例：「〇〇の行動を支えたものは何なのか」             |   |                                    |
| ③批判的な発問 | 例：「この□□(価値)をどう考えるか」              |   |                                    |

## 4 指導方法の工夫と手立て

- ・心の中を問う発問(共感的な発問)を大切にする。→自分自身の内側と語り合う
- ・登場人物の葛藤、変容、成長…心の中や何がきっかけなのか。→教材分析
- ・広がる発問、深まる発問、多様な返答や意識が期待できる発問→教材分析
- ・「分からないふり」→教師は素晴らしき演技者でなければならない。

- ・「沈黙」→ 一度発問したら発言があるまで待つ覚悟をもって子供たちに投げかける。
- ・書く活動のメリット →自分の考えをまとめることができる。安心して話し合える。  
デメリット→時間的制約。話し合いが大事なので軽重をつける必要がある。
- ・板書の工夫→ いろいろあってよい。柔軟に考える。
- ・プラス思考の「はひふへほ」→ 教師の「あたたかな受け止め」

## 5 こんな授業を目指そう

(1) 横を向く授業

(2) 理解者は友達、そして自分自身

友とたくさん話して、授業が終わったときには、心の中に明るい光が灯るような授業を！

## 6 指導・助言

(1) 授業に臨む心構え

- ・意見を言って終わりにするのではなく、様々な意見を出すような授業展開が望ましい。
- ・意図的指名などの指導技術を活用しながら、**子供の考えを広げ授業をより豊かにする。**
- ・同じ内容項目に二つの言葉が並列されている場合は、授業者としてどちらに重きを置くか**教師の指導観を明確にしておくことが大切**である。

(2) 導入でのアンケートについて

- ・教師も子供も全体の傾向を把握することができ、共通理解を図った上で授業を行うことができる。(テキストマイニング、グラフ等)
- ・めあてや課題を立てることではなく、**問題意識をもたせる**ことが重要である。
- ・その場で提示して、分析させるような活用の仕方は子供にとって難しい。数日前から提示しておき、問題意識を高めさせてから授業に臨むというような活用の仕方が考えられる。
- ・導入場面だけではなく、終末場面でも提示することで、自分の考えの広がりや深まりを比較させる手立てにもなりうる。

(3) 役割演技について

- ・役割演技は、演技者ではなく**聴衆の言葉を引き出すための手立て**として有効である。
- ・役割を与えるので「役に没入させること」と「役を解くこと」が必要不可欠。

(4) 登場人物のスイッチングについて

- ・高学年ならば、実践可能。ただし、発達段階や学級の実態を考慮する。
- ・頭で分かっているだけではできない人間的な弱さである人間理解を深めたり、物事を多面的・多角的に考えさせたりする手立ての一つとなりうる。

(5) 終末での教師の説話について

- ・1週間に一度、教師の思いや体験を伝える貴重な時間＝**子供たちにとって教師を理解する時間**にもなる。
- ・教師の失敗談も有効だが、失敗談から学んだことなどの「**より良くなるための道筋**」をつけるような話であれば、より教育的効果は高まる。
- ・名言や旬な話題、ゲストティーチャー、心のノート(文科省HP参照)なども活用の余地はある。

(6) 学校全体の道徳教育を更に充実させるための要としての道徳

- ・SNSの利用について
- ・学級活動(2)との関連で
- ・目の前の子供たちのために

# 道徳科学習指導案

小学校・高学年部会

- 1 主題名 真の友情 内容項目[B 友情、信頼]
- 2 ねらい 離れていても友達を続けられることに気付いた「ぼく」の気持ちを考え、話し合うことをとおして、信頼し合うためには、お互いを思いやる気持ちが大切であるということを理解し、いつでもどんな状況でも友達を信じてよりよい関係を築いていこうとする態度を育てる。

教材名 離れていても（出典：彩の国の道徳「未来に生きる」埼玉県教育委員会）

3 主題設定の理由（略）

- (1) ねらいや指導内容について  
 (2) これまでの学習状況及び児童の実態について  
 (3) 教材の特質や活用方法について

4 学習指導過程

	学習活動（主な発問）	予想される児童の発言	指導上の留意点☆評価の視点
導入	1 友達について考える。 ・友達とはどんな存在ですか。	・一緒に遊ぶ。 ・一緒にいて楽しい。 ・何でも相談できる。	○事前アンケートを活用し、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
展開	2 条件・状況を知り、教材文を読む。 3 教材を読んで話し合う。 (1)ただ黙って仁を見ていた時のぼくはどんな気持ちだったのだろうか。	【条件・状況】 ・仁の言う通りだ。 ・離れていたら友達ではなくなるのか。	○「友情は近くにいないと成立しない」という仁の捉え方を明確にする。
	(2)父の言葉を聞いて、ぼくは仁に何を伝えたのだろうか。	・離れても大丈夫。 ・オンラインでも繋がれる。	○相手を信頼し、大切にすることがあれば友情は壊れないということを考えられるようにする。
	(3)離れていても友達で続けるために大切なことは何だろう。	・相手のことを信頼し、考えることができるのが友達。 ・距離ではなく、相手を大切にしたいと思えるのが親友。	☆主人公に思いを託して自分の考えを表出している。 ○最初の気付きとの違いや、友達との繋がりについて考えを深められるようにする。
	4 今までの自分を振り返り、よりよい生き方を考える。		☆これまでの自分を振り返りながら、どんな状況でも友達を信じられていたかを考えている。
終末	5 教師の説話を聞く。		○信頼し合える友達関係を築こうとする意欲を高める。

## 中学校部会 「心のパス交換」

(出典：「彩の国の道徳 学級づくりの羅針盤  
～いま、道徳が「いじめ問題」にできること～」埼玉県)

指導者	蓮田市立黒浜西中学校	教頭	井野裕治
司会記録者	越谷市立西中学校	教諭	宮崎里美
司会記録者	越谷市立光陽中学校	教諭	佐々木和宏

### 1 道徳科の授業が成立する機能～学習指導要領の道徳科の目標より～

- ①授業で扱う道徳的価値について理解する
- ②自己を見つめる
- ③物事を広い視野から多面的・多角的に考える
- ④人間としての生き方についての考えを深める

→これらの4つの学習活動をとおして、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度のどれかが養われている＝道徳科の授業が成立する機能（授業を組み立てる際に意識する）

### 2 ねらいと主題の設定～指導の意図を明確に～ ねらい＋教材＝主題

- ①ねらい→道徳科の内容項目を基に、ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相を端的に表したもの
- ②教材→教科書や授業で用いる副読本等（教材の主人公は人間としての生き方のモデル）
- ③主題→ねらいと教材で構成し、授業内容が概観できるように端的に表したもの  
※指導の意図を明確にするのに外してはいけないもの＝生徒の実態

### 3 教材吟味の手順

#### ①主題とねらいを考える。

・生徒の実態を考慮し、何を考えさせ、どんなことを身に付けさせたいか（＝指導の意図）を明確にする。

#### ②登場人物について確認する。（主人公・相方・周りの人物の関係）

・主人公は誰か、周りの人物との関係、主人公の置かれている立場や状況を確認する。  
・相方＝主人公の生き方に大きな影響を与える人物

#### ③スタートの条件・状況を考える。＝最初に生徒に説明する内容

・一度の範読で教材の内容を理解させるため、あらかじめ内容を説明する。

#### ④発問につなげたい場面を考える。

原則＝道徳的価値についての主人公の心の成長を追う

- ・人間としての弱さが表れている場面（＝人間理解）
- ・主人公が思い悩む、葛藤する場面（＝他者理解）
- ・望ましい生き方に気付く、または変容する姿が現れている場面（＝価値理解）

#### ⑤発問の文言を考える。

- ・どのように発問するか。（登場人物の心情、行動の理由、生徒自身の生き方、道徳的価値に対する考え方など）
- ・補助発問を考える。（考えさせる内容について視点を変えたり、生徒の発言を学級全体に広げたりする）

#### ⑥導入や終末の検討、ワークシートの記述内容を考える。

#### 4 タブレット端末の活用について

導入でのアンケート結果を提示する、場面絵を提示しながら範読を行う、生徒のワークシートの記述内容を提示して学級全体に広げるなど、生徒の実態や道徳科の特質に応じて効果的な活用方法を検討する。

#### 5 指導・助言

##### (1) 道徳科の目標と授業が成立する機能

###### 道徳科の目標

(省略) よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳科の目標に、4つの学習活動が示されている。この4つの学習活動を通して道徳的判断力、心情、実践意欲と態度のどれかを育てる、これが道徳科の授業が成立する機能になる。授業を組み立てるときは、これらの4つの学習活動が入っているかを確認しながら組み立てることが大切である。役割演技も多面的・多角的に考える学習活動である。

##### (2) 視点別 教材吟味のポイント

###### 視点別 教材吟味のポイント

- A 主として自分自身に関すること
- B 主として人との関わりに関すること
- C 主として集団や社会との関わりに関すること
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

今回の教材「心のパス交換」はBの視点になっている。Bの視点の教材吟味のポイントは以下の内容。

###### 2 視点別 教材吟味のポイント

###### Bの視点は、「立場」を変えてみる

【内容項目の考え方】 = Bの内容項目は2タイプ

- ・深める = もともと関係性があった者同士の関係性がさらに深まる
- ・広げる = 登場人物の行為行動をとおして他者との関係性ができる

###### 1 道徳科の目標と授業が成立する機能

道徳科の目標 ~ 4つの学習活動~

- ①道徳的諸価値について理解する
- ②自己を見つめる
- ③物事を広い視野から多面的・多角的に考える
- ④人間としての生き方についての考えを深める

4つの学習活動を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度のどれかを育てる。



道徳科の授業が成立する機能

A、B、C、Dの視点の教材吟味のポイントは以下の内容になっている。

2 視点別 教材吟味のポイント

**Aの視点は、「葛藤」を探す**

- ・価値葛藤＝正価値と正価値のぶつかり合い  
例：「家族愛」と「生命尊重」どちらを大切に  
にするか（＝モラルジレンマ）
- ・心理葛藤＝正価値と反価値の綱引き  
例：・困った、どうしようという迷い  
・挫折体験に伴う自責の念  
・善と悪の間で悩む

↓

葛藤の中身を考えた後に「なぜその葛藤に打ち勝てたのか」  
あるいは、「なぜその葛藤に負けたのか」を考える

2 視点別 教材吟味のポイント

**Bの視点は、「立場」を変えてみる**

例：主人公が登場人物に親切にした場合

2 視点別 教材吟味のポイント

**Cの視点は、「所属意識」を大切に**

※傍観者になってしまうと、話合いが浅いものになってしまう

【Cの視点の授業のしかけ】

- ① 当事者意識を持たせる
- ② 少し早めに教材から離れる

2 視点別 教材吟味のポイント

**Dの視点は、「心が動くところ」を考える**

【Dの視点の特徴】＝相手は「人」ではない

- ① 葛藤場面や心情の変化が少ない
- ② 心情の変化はあえて言うなら・・・  
「プラスの心情→プラスの心情→大きなプラスの心情」
- ③ 扱っている価値がマイナス部分をつけにくい  
・命を軽んじたり、自然なんてどうでもよいと考える  
ことはまずない。

(3) 発問の組立て方 ～多様な考えを引き出すための工夫～

発問の組立て

- 人間理解＝弱さ
  - ・道徳的価値は大切であってもなかなか実現できない人間の弱さなども理解すること
- 他者理解＝多様さ
  - ・道徳的価値を実現したり、実現できなかつたりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること
- 価値理解＝価値のよさ
  - ・人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること

道徳的価値を実現したり実現できなかつたりした場合の、考え方や感じ方は一つではない、人それぞれにあり、多様であることを理解させることが大切である。そのためには、児童生徒に「考え方は人それぞれ」と言い聞かせるのではなく、教師が多様な考え方が出る発問を用意して、実際に自分と違う考え方に触れさせる場面を作る。時には、他人の考え方についてどう思うかという問いかけをする、(否定にならないように)ワークシートの自己評価の欄に他の人の意見を聞いた感想として記述させる、あるいは「自分にはない考え方に気付いた」「自分も同じ考えをもっていた」「今後の参考にしたい」「自由記述」等、選択肢を提示して当てはまるものに○をつけさせる工夫もよい。

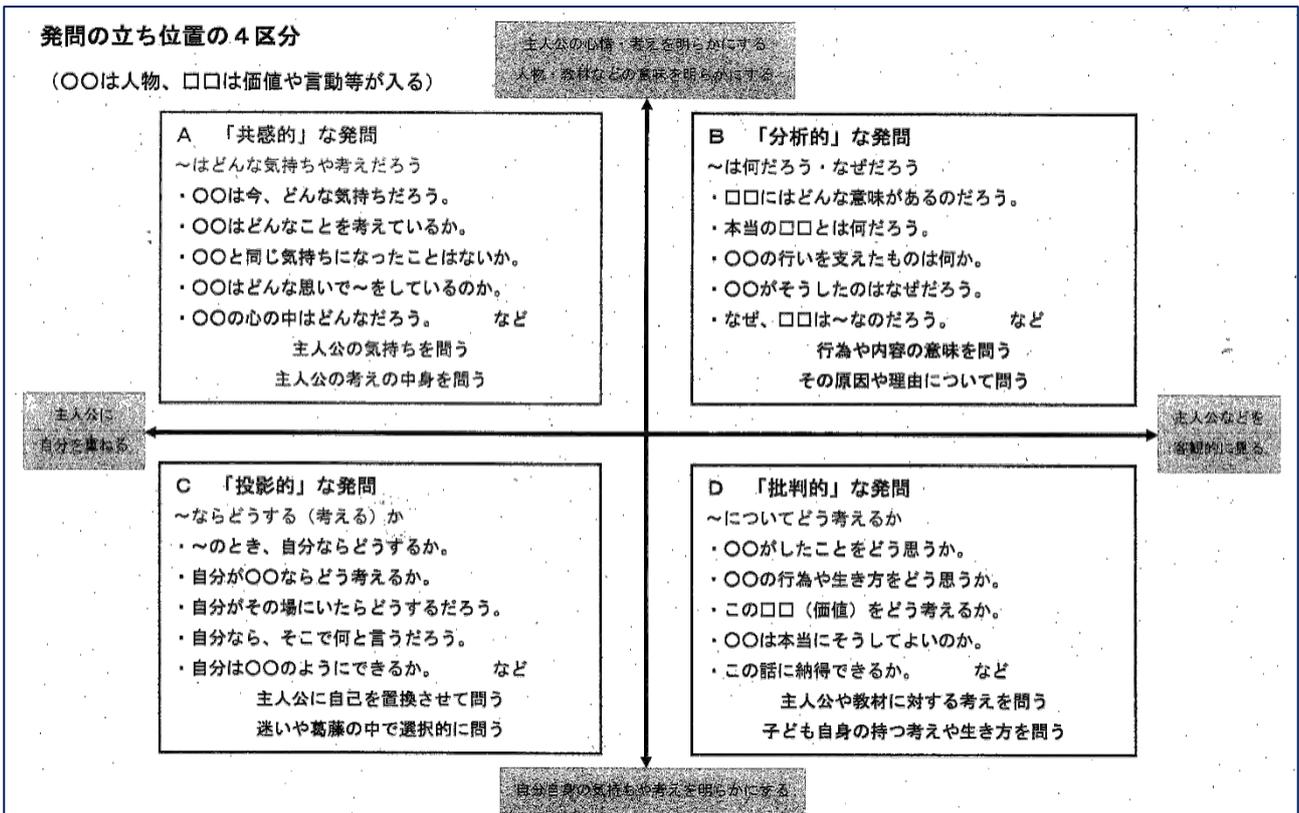
道徳科の授業では、友達のことを聞いて自分にはなかった視点に気付いたり、自分と同じ考えをする人がいることを知って、自分の考えに自信をもったり、友達の考えを自分の生き方に取り入れたりという「児童生徒の新たな気づきや学び」を大切に

(4) 『心のパス交換』の発問の組立て (例)

【参考例】発問の組立て

- ① みんなの言葉を聞きながら、康太はどんなことを思っただろうか。  
 ② 心のパスが届いていると知った康太は、何を考えただろうか。  
 ③ 電話を手にした康太は、勇人に何を伝えたいのか。

- ① 康太がみんなから勇人に対しての意見をいろいろ言われる場面を取り上げ、「みんなの言葉を聞きながら、康太はどんなことを思っただろうか」という発問をする。ここで、康太の多様な思いを引き出す。「みんなの言うとおりに、勇人が悪い」という心の弱さ、「勇人を放っておけない」という心配や同情の思い、「副部長として何かをするべき」という責任感、「柱を2本失った部活をどう運営していくか」という自分の立場など、たくさんの考え方が出ること想定している。また、康太の心の弱さと責任感を葛藤させた役割演技(二重自我法)を取り入れることも可能である。  
 視点を変える発問としては、「勇人はどうして謝らなかつたのだろう」「責められる勇人を見て、直也は何を思っただろう」など、それぞれの登場人物の立場から発問することが考えられる。
- ② 直也の話の聞いて、「心のパスが届いていた」と実感する場面を取り上げ、「心のパスが届いていると知った康太は、何を考えただろうか」という発問をする。ここで、自分が認められた、自分のやってきたことは間違っていなかったという康太の思いを捉えるだけでなく、副部長として何をしなければならぬか、直也や勇人の考えや立場に気づき始めた康太の心情を捉えさせる。ただ、「心のパスが届いていると知った康太は、どんな気持ちだろうか」と発問してしまうと、「心のパスが届いて良かった」としかならないので、「何を考えたか」という発問にして多様な考えを引き出す。
- ③ 康太が電話を手にした場面を取り上げ、「電話を手にした康太は、勇人に何を伝えたいのか」という発問をする。予想される反応としては、「今まで何もしてやれなくてごめん」という謝罪や、「一緒に大会に出よう」「学校においでよ」という誘い、「直也から聞いたよ、尊敬なんて照れるけれど」という謙遜等がある。もし、生徒の思考が止まるようなら、補助発問として、「自分が康太だったら、勇人に何と言いますか」と言うように、視点を変えて、より自分に近い形で考えられるようにする。



(5) 国語科と道徳科の違い

国語科と道徳科は違うと言われるが、具体的には何が違うのか。国語科と道徳科の相違点を中心に以下のように取り上げてみた。

【参考資料】

国語科と道徳科の共通点と相違点

【共通点】

- ① 教科書に載っている教材を読んで学習する
- ② 範読中に必要に応じて難解語句の説明をする  
→特に道徳科は一回の範読で内容を理解させる必要があるため、丁寧に説明する
- ③ 教材の内容理解では終わらせない

【相違点】

	国語科	道徳科
教科の特質	・言語能力を育成する	・道徳性を養う
目標	・国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する	・よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う
学習活動	国語を使って ・表現された内容や事柄を理解する(読む、聞く) ・内容や事柄を適切に表現する(書く、話す) ※上記の2つを支えるのが言葉に対する知識	・道徳的諸価値の理解 ・自己を見つめる ・物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える ・自己(人間として)の生き方についての考えを深める ※上記4つの学習活動を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度のどれかが養われていることが、道徳科の授業が成立する機能である
「自分ならどうする」という発問	・文章読解で発問しない ※国語は文章の登場人物に児童生徒自身を重ねて考えることはしない。	・ねらいに迫るために必要に応じて発問する
登場人物の心情や行動の理由などを考えるときの子供の思考の根拠	・文章に根拠を求める(=〇ページの〇行目に〇〇と書いてあるから、登場人物の心情は〇〇である) ※国語科は登場人物の心情や行動の理由を文章(=教材)から読み取るが正しい	・子供自身の経験や見聞(=生活経験)や子供が持つ価値観を根拠に自分なりに考えられる ※道徳科では、「〇ページの〇行目に〇〇と書いてあるから登場人物の心情は〇〇である」という指導はしない
ワークシートの扱い	・(自分の考えを分かりやすく表現する工夫、文章の書き方、誤字脱字など)文章を構成する力や言葉の使い方の指導に重点を置く	・文章を構成する力や言葉の使い方の指導に重点を置かない ・子供の考えを教師が理解し、評価につなげる材料の一つとする

	国語科	道徳科
教材を扱う必要性	・文章教材を通して(他の文章にも応用できる)文章の読み方を学習する 例:登場人物の心情の読み取り方 筆者の主張のとらえ方 指示語・接続語の使い方 など	・(内容項目についての生活経験が異なる)子供たちを同じ土俵に乗せる ・(内容項目について)望ましい生き方のモデルを示す ・教材の主人公に託して自分の考えを発言する ※人間の心の弱さに迫る発問ほど主人公に託すことが必要になる
授業のねらい(テスト問題や教師の質問の意図)から外れたときの対処法	※国語ではテスト問題や教師の質問の意図(つまり不正解だったときの指導法) ・文章の内容を確認させ、再考させる。児童生徒の理解度に応じてキーワード等を提示し、正答を導き出せるように指導する。	※道徳では授業のねらい(内容項目) ・一度はねらいを戻すことを試みて補助発問などを活用するが、深追いはしない。  例:本時のねらいは国際理解だが家族愛にがずれた ・国際理解がねらいだが、家族やお母さんへの思いが児童生徒から出てきた。そこで止めればねらいは家族愛にずれるが、教師が「日本の家族と外国の家族の違いは何だろう、共通点は何だろう」と切り返せば、ねらいは国際理解に戻る。それを試みた上で、児童生徒が「家族やお母さんへの思い」を発言すれば、それがその子の価値観であり、見方・考え方になるので否定はしない。(否定すると、その子は次の授業から何も発言しなくなる可能性があるから。)

# 道徳科学習指導案

中学校部会

- 1 主題名 相手の立場に立って (内容項目 B 相互理解、寛容)
- 2 ねらい 康太の気持ちの変化を考える活動をとおして、多様な考えがあることに気づき、互いに認め合い尊重し合える態度を育てる。
- 教材名 「心のパス交換」(出典：彩の国の道徳「学級づくりの羅針盤～いま、道徳が『いじめ問題』にできること」埼玉県教育委員会)
- 3 主題設定の理由 (略)
- 4 学習指導過程

	学習活動〈主な発問〉	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 自分の日常生活を想起する。 ・他人に誤解されてしまったと感じたことはあるか。		・本時で学習する道徳的価値への興味関心をもたせる。
展開	2 条件・状況を説明する。 3 範読を聞き、話し合う。 ①先生から「勇人についてもよろしくな、康太!」と言われたとき、康太はどんな気持ちだっただろう?  ②直也から「勇人を頼むよ、康太!」と言われたとき、康太はどんな気持ちだっただろう? 【中心発問】 ※僕はどうして胸の奥の方がドキンとしたのだろう? 【補助発問】 ③康太は勇人に電話でどんなことを話すだろうか。康太になったつもりでセリフを考えよう。  4 本時の学びから振り返る。 ・康太、直也、勇人のやりとりを通して、どんなことを感じたか。	・よろしくと言われても、どうすればよいのか。 ・みんなの言うとおりに、勇人が悪いんだ。 ・勇人、大会に出てくれないかな。 ・やっぱり自分が何とかしなければいけないな。 ・自分のやってきたことは間違ってたんだ。 ・直也、勇人のそれぞれの考えがあるんだ。 ・勇人の気持ちに気付かなかった。 ・今まで何もできなくてごめん。 ・一緒に大会に出よう。 ・学校においでよ。  ・その人なりの考え方や立場があることが分かった。	・部員の勇人に対する厳しい言葉に共感する思いと、「勇人を何とかしなければいけない」という思いで揺れる康太の葛藤を捉えさせる。  ・自分が認められた喜びだけでなく、直也や勇人の考えや立場に気付いていく康太の思いを捉えさせる。  ・勇人の立場を慮れるようになった康太の心情を捉えさせる。  ・相手の立場に立った言動ができるように自己を見つめさせる。
終末	5 自己を見つめ、振り返る。		・人間としてのよりよい生き方を考えさせる。

### (3) 令和6年度埼玉県道德教育研究会夏季研修大会 指導講評

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事

芳賀一行先生

本研修会も35回目ということで、正籬会長をはじめとする埼玉県道德教育研究会の関係者の皆様には、長年にわたり、こうした研修の機会を設けてくださっていることに深く感謝申し上げます。また、会場の至るところでスタッフの方々が献身的に支えてくださっているおかげでこうした素晴らしい研修会が行えていると思います。ありがとうございます。

そして、何よりも、道德科を要とする道德教育への理解を一層深め、ご自身の指導力の向上を図ろうと、本研修会にご参加された先生方に心から敬意を表します。本県の道德教育が充実している背景には、先生方のこうした御努力があることを再認識した次第でございます。

各部会にお邪魔させていただき、先生方がご協議をされている様子を拝見いたしました。研究主題「人としての生き方について考えを深め、よりよく生きる児童・生徒を育てる道德教育の創造」～学習指導要領が求める道德教育の実践を通して～のもと、道德科の授業づくりについて、多くの先生方が関心をもち、授業の質を高めようとされていることを改めて実感いたしました。

ご参会の先生方におかれましては、参加された分科会で取り上げられた教材をどう活用し、どのように「考え、議論する道德」づくりを行うか、本日の演習・協議で得られたこと、そして非常に豪華な指導者の方々からの指導・助言は、今後の実践に生かせる財産となったことと思います。ぜひ、ご自分のものだけにせず、所属校の先生方等にもお伝えいただければ幸いです。

また、分科会でご指導いただいた内容とも重なりますが、今年度の教育課程研究協議会でも話題にさせていただいた、道德科の目標の理解や道德の特質を生かした道德科授業については、改めて確認していただきたいと思っております。指導方法の工夫やICTの活用はもちろん必要ですが、その土台になる部分をしっかりと押さえた上で工夫を図る必要があります。道德性は内面的資質です。改めて、道德科の特質等を確認していただけたらと思っております。

本研修会においては、「彩の国の道德」から教材を選定していただき、その御配慮についても深く感謝申し上げます。特に、小学校中学年部会と高等学校部会で使用していただいた「未来に生きる」ですが、情報モラルや現代的な課題に特化したものとして作成いたしました。おかげさまで、年間指導計画に位置付けていただいている学校が増えてきているとお聞きしています。

昨年度には、「未来に生きる」の実践事例を作成し、県のホームページに掲載しております。ぜひ、この機会に教材等をご覧いただき、年間指導計画に位置付け、授業で活用していただければ幸いです。

また、中学校部会では「彩の国の道德 学級づくりの羅針盤」を使用していただきました。各種調査から、いじめの問題等についてたいへん痛ましく憂慮すべき状況であることが示されております。

いじめの未然防止、早期発見には、児童生徒一人一人の内面的資質としての道德性を主体的に養っていく時間、道德科は欠かせないものとなっております。道德科の特質を踏まえて、道德科の授業を着実に実施していくということが大変重要です。

埼玉県の郷土の偉人、渋沢栄一翁が肖像となった新一万円札が7月3日に発行されました。ぜひこの機会に改めて「彩の国の道德」を活用した道德教育の充実をお願いします。

また、道德科の授業の充実とあわせて、子供たちの豊かな心を育むためには、家庭の協力は不可欠です。引き続き、家庭用「彩の国の道德」等を活用いただき、学校と家庭が同じ視点に立って指導できる環境の整備を進めていただければ幸いです。

さて、先生方の学校、学級の規律ある態度の状況はいかがでしょう。規律ある態度は、基本的な生活習慣や学習習慣の中からこれだけは必ず身に付けさせたい内容、12項目となっています。なお、近年の最重要課題は、話を聞き、発表する、整理整頓、あいさつ、です。引き続き、規律ある態度を身に付けさせる取組もよろしく願いいたします。

最後に、今年度は、11月27日（水）に、埼玉県道徳教育研究推進モデル校でもある熊谷市立江南北小学校におきまして、埼玉道徳教育研究大会が開催されると伺っております。こちらも、多くの先生方に御参会いただき、有意義な御研究となるよう期待しております。

先生方お一人お一人の実践の積み重ねが、埼玉県の子供たちの心を着実に育てて参ります。引き続き、道徳教育の積極的な推進・充実をお願いさせていただくとともに、本日ご参会の先生方の御健勝・御活躍を祈念申し上げ、指導講評といたします。本日はありがとうございました。

### (3) 令和6年度埼玉県道德教育研究会夏季研修大会 指導講評

さいたま市教育委員会教育課程指導課主席指導主事

宋 戸 貴 久 先生

さいたま市では、「指導訪問」という取組を行っております。これは、指導主事が全ての学校（小学校104校、中学校58校）を訪問し、全ての先生の授業を参観して指導・助言を行うものです。私も小学校の道德科の授業を多く参観しますが、参観して感じるのは、道德教育の課題の一つとして言われてきた「量的課題」が確実に改善されているということです。

まず、先生も子どもも道德科の授業に慣れているということ。道德科の授業の基本的な流れが子ども達に定着し、「話し合い」「役割演技」「振り返り」等の活動に抵抗なく取り組んでいる姿がどの授業でも見られます。ICTを効果的に活用する授業も増えてきています。また、学習の記録が蓄積されているということ。ノート、ワークシート、タブレット、形は様々ですが、形に残るものからも週1時間の授業が確保されていることが分かります。

7月に参観した授業は、どの授業も10時間目を超えるものばかりでした。これら、授業の中で表れる先生や子どもの姿、学習の成果物等から、「量的確保」が図られていることが分かります。

さいたま市が独自に行っているさいたま市学習状況調査の「生活習慣等に関する調査」の、「道德の時間の話し合いは楽しい、あるいは、ためになると思いませんか。」という質問項目の肯定的な回答の割合はどの学年（小1～中3）も90%前後ととても高い。「人が困っているときには、進んで助けていますか。」という質問項目の肯定的な回答の割合はどの全ての学年（小1～中3）で90%を超えている。この結果も、先生方が一所懸命に授業に取り組んでいることの現れなのではないでしょうか。

一方で、「質的課題」については、さらなる改善が必要であると考えます。道德科の目標にも「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して」とありますが、そのような学習になっていない授業がまだまだ多く見られます。道德教育は、道德科の授業を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであることから、道德科の授業改善は最も重要な課題であると言えるのではないのでしょうか。

先日、さいたま市では「教育課程説明会及び研究協議会」を行いました。各学校の道德教育推進教師等が参加し、文部科学省からの行政説明について伝達するとともに、研究協議を行いました。各学校からの参加者が事前に分かっていたので、どのような研修内容にするか考えるため参加者の教職経験年数や校内での役割等を調べてみたところ、経験年数が少ない先生も多く含まれていることが分かりました。

また、学校の規模や事情により（同日、同時間帯に複数の部会を開催しているため）、道德教育推進教師ではない先生も多く含まれていることも分かりました。そこで、「道德教育と道德科の関係性」「道德教育の全体計画、別業、主題配列表の構成や役割」といったかなり基本的な内容について取り扱いながら伝達と研究協議を行いました。

参加した先生方の感想を読みますと、経験年数の少ない先生、道德教育についてあまり研究されていない先生からは「全体計画、別業、主題配列表がどういったものかが分かった。」、経験年数の多い先生や道德教育推進教師からは、「自校の重点目標や各学年の重点目標が何か、改めて確認する機会になった。」「重点目標が分かったが、それに関連する内容項目を取り扱う時間が足りないことが明らかになったので、見直しをしたい。」「現在の子どもの実態と重点目標が合っていない。」「地域や家庭とも連携などの感想が寄せられ、参加した先生方にとっては学びのある研修会になったのかなという実感はありました。また、私自身、道德教育に関するさいたま市の実態を改めて知る機会になりました。

しかし、こういった声も聞かれました。「研修会に参加して自分自身は勉強になったが、これを自校の先生方にどう伝えればいいか。時間がない。」という声です。令和3年度道徳教育実施状況調査の調査結果でも、道徳教育を推進する上での課題に関する設問において、「学校の道徳教育の重点や推進すべき方向について教師間での共通理解や連携を図るための機会の確保」に課題を感じていると回答した学校の割合が最も多い結果となっています。

本日の研修に参加して多くの学びがあったことと思います。「2学期の道徳科の授業に生かしたい」「2学期の道徳科の授業が楽しみだ」という気持ちになっているのではないのでしょうか。本日参加された先生方は、道徳教育推進教師という立場の方もいれば、そうでない方もいらっしゃると思いますが、本日の学びを、どうすれば職場全体で共有でき、学校全体で道徳教育を推進できるのか、そのための具体的な方策についても合わせて考えていただければ幸いです。

### 3 「考え、議論する」道徳科の実践 —多様な指導方法の展開事例—



(埼玉県道徳教育研究大会・熊谷大会)

#### 夏季研修大会分科会のまとめを受けての授業実践提案

○小・中学年 (久喜・桜田小 麦倉 るり 先生)

○小・高学年 (長瀬・長瀬第一小 吉牟田 里実 先生)

## 道徳科授業実践提案

指導者 久喜市立桜田小学校 教諭 麦倉 るり

- 1 主題名 きまりはだれに 内容項目 [C 規則の尊重]
- 2 ねらい 動画をのせようかと悩んで踏みとどまったわたしの気持ちを話し合うことをとおして、きまりは気持ちよく集団生活を送るためにあるものだと気づき、集団や生活をするうえで、約束やきまりを守ろうとする心情を育てる。

教材名 「よろこびはだれに」(出典:「彩の国の道徳 未来を生きる」埼玉県教育委員会)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいや指導内容について

4年生のこの時期では、気の合う仲間や集団の中にきまりをつくり、自分たちの仲間や集団及び自分たちで決めたことを大切にしようとする傾向がある。また、一人一人が身近な生活の中で、約束やきまりと公共物や公共の場所との関わりについて考えることは少ない。指導に当たっては、そのような発達の特性を生かし、一般的な約束や社会のきまりのよさについて理解し、それらを守るように指導していくことが大切である。さらに、社会集団を維持発展する上で、社会生活の中において守るべき道徳としての公德を進んで大切にできる態度までに広げていく必要がある。特に、集団生活をする上で、一人一人が相手や周りの人の立場に立ちよりよい人間関係を築くことや、集団の向上のために守らなければならないきまりを十分考えることが必要である。そして、具体的に集団や生活をするうえで、約束やきまりを守ろうとする態度を育てることが大切である。

#### (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、明るく快活な児童が多く、男女仲良く穏やかに過ごしている。その中には、配慮を要する児童や、まだ幼く、自分の思いつきのまま行動してしまう児童もいるが、子どもらしい素直な児童が多い。学級として規範意識が高まり、まとまりも見られるようになってきたところである。朝の会と帰りの会では、「今学期の重点目標と今月の生活目標」の確認と振り返りを行っており、学校の約束やきまりを守る児童も増えてきた。また、その場の雰囲気や状況に左右されたり、利害に基づく自分の思いが強くなってきたりしている。問題が起きた時は、子どもたちの話を傾聴しながら、共に、解決策を考え、お互いのよいところを認め合いながら、クラスが1つにまとまっていくように指導してきた。アンケート結果は以下の通りである。

#### 1・学校で生活しているときどんなきまりがありますか？

- 「ろうかとは右側を静かに歩きます。廊下は走りません。」6人
- ・時間を守る。学習に関係ない事はやらない。ほかのもので遊ばない
  - ・学習に関係ないものは見ないなど授業中になにか変なことなどをしないこと
  - ・20分休み以外学習に関係ないことには使わない
  - ・授業中に関係あること以外は喋らない
  - ・学校のタブレットで関係ないものを見ない 休み時間だからって大きな声で騒がない
  - ・知らないサイトを見ない。 ・先生の話をよく聞く。 ・素早く移動する。
  - ・桜田小学校の中のルールや決まりを知り、そのルールを守る。

- ・いじめをしない 危ないことをしない 暴力をしない 暴言を吐かない
- ・給食の時間テキパキと動く。

アンケートの結果から、基本的な約束はきまりを理解し、守ろうとしていることも分かっている。しかし、普段の生活を見ていると、きまりやルールの意味や意義についてまで理解している児童は少なく、自分の行動が周りの人にも影響することまで考えている児童も少なからずいる。また、各教科・領域の学習では話し合い活動の時間をほぼ毎時間設けることで、自分と友達の意見を比べ、友達の考えのよいところを取り入れながら自分の考えを深めるようになってきている。そこで、この授業を通して、きまりは集団を気持ちよく生活するためにあるものだと気づき、集団や生活をするうえで、約束やきまりを守ろうとする心情を育てたい。

### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合うことにする。

- ① 新記録を達成し、「みんな」で喜び合ったところで「わたし」はどう思ったのかを考える。
- ② タブレットを見てのせよか悩んで踏みとどまった「わたし」はどんなことを考えたのかを考える。
- ③ 教師の話聞いて自分のしようとしたことをどんな気持ちで思い出しているのかを考える。
- ④ これまでの自分を振り返り、約束やルールはなぜ必要なのか、そして、今までみんなのために踏みとどまった時のことについて考える。

## 4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	・指導上の留意点 ◇評価の視点
導入	1 学校のきまり、インターネットやタブレットを使ううえでの約束、「動画やYouTubeなどの利便性についてのアンケートをもとに話し合い、本時の課題を提示する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームが攻略できた。</li> <li>・料理ができた。</li> <li>・調べたいことが分かった。</li> <li>・難しいことが分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のきまり、インターネットやタブレットを使ううえでの約束、「動画やYouTube」の利便性についてのアンケートをとり、本時の話し合いの方向性を位置づける。</li> <li>・自分の考えを自由に発表できる雰囲気を作る。</li> </ul>
展開	2 教材「よろこびはだれに」の読み聞かせを聞き、話し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔登場人物〕わたし 学級のみんな 母 兄 先生</p> <p>〔条件・状況〕わたしは、学級の友達と一緒に長縄の練習をしていた。タブレットを使い、インターネット上につけていた長縄の跳び方を練習していた。新記録を達成したわたしは、インターネットで共有したい気持ちにかられるが、踏みとどまる。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>約束やきまりはなぜ必要なのでしょうか。</p> </div>
	(1) 新記録が出た時、「わたし」はどんな気持ちになったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とてもうれしい。</li> <li>・動画を見たおかげだ。</li> <li>・誰かに見せたいな。</li> <li>・誰かに頑張りを伝えたいな。</li> <li>・みんなががんばったから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面絵を効果的に使って読み聞かせを行い、興味関心を高め、内容理解の手助けをする。</li> <li>・「わたし」の気持ちを中心に話し合う。</li> <li>・努力の末の新記録達成に歓喜し、</li> </ul>

	<p>(2) タブレットを見てのせようか悩んで踏みとどまったのは、なぜでしょう。</p> <p>(補助発問) 自分が「わたし」だったら、動画をのせますか？のせませんか？</p> <p>(3) 教師の話聞いて自分のしようとしたことを思い出しながら、わたしはどんなことを考えているのでしょうか。</p>	<p>のせたいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰かの役に立つかもしれないから。</li> <li>・のるのはこわいな。</li> <li>・のせても消せばいいんだよ。</li> <li>・消しても残るよ。</li> </ul> <p>のせたいな。でも、こわいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしたちも動画で上手になったから、のせたいけれど、迷惑かかるかな。</li> <li>・のせるのはこわいな。</li> <li>・一度インターネットにのせてしまうと消せない。</li> </ul> <p>のせる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちも動画を見て新記録が出たから、自分も役に立ちたい。</li> <li>・のせて有名になりたいな。</li> <li>・他の人も知ってほしい。</li> <li>・この動画が役に立つかもしれないな。</li> <li>・のせたいな。でも、こわいな。</li> <li>・わたしたちも動画で上手になったから、のせたいけれど、迷惑かかるかな。</li> </ul> <p>のせない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・のせるのはこわいな。</li> <li>・周りに迷惑がかかる。</li> <li>・きまりだからやっちはいけない。</li> <li>・一度インターネットにのせてしまうと消せない。</li> </ul> <p>のせなくてよかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪いことだったんだな。</li> <li>・やらなくてよかった。</li> <li>・学級みんなや周りの人にも迷惑をかけるところだった。</li> <li>・自分の思いだけではなく、相手のことも考えなくてはいけないな。</li> <li>・自分のことばかり考えてしまった。</li> <li>・みんなのことを守る。</li> <li>・幸せになるため。</li> </ul>	<p>新記録が達成できたのは、動画の手本があったからだという気持ちにも触れる。その喜びや感謝の気持ちをインターネットで共有したくなる「わたし」の気持ちを共感的に考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ハートの数直線」など用い、自他の考えを視覚的にとらえ、友達と理由について話し合う。</li> </ul> <p>悩んで踏みとどまった「わたし」の葛藤を考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットが悪いものにならないように、インターネットの利便性も大切にする。</li> </ul> <p>◇動画をのせようかと悩んで踏みとどまったわたしの気持ちを話し合うことを通して、自分を投影して考え、約束やきまりを守るよさについて多面的・多角的な視点から考えている。 (道徳スライド・ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守ることは、みんなが気持ちよく生活するために必要だと気付いていく「わたし」の気持ちを道徳的価値とつなげていく。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの友達と話し合い、その後、全体で交流する。</li> </ul>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	(4) 約束やきまりはなぜ必要なのでしょう。		
	3 自己を見つめ生き方について考える。 これまでの自分を振り返り、約束やきまりはなぜ必要なのか、そして、今までみんなのために踏みとどまった時のことについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで自分が良ければいいと思っていたけれど、きまりは、自分を守るだけでなく、友達や周りの人も守るためにある。</li> <li>・インターネットを使う時はきまりや約束を守りたい。</li> <li>・これからは、自分だけではなく、周りの人のことを考えていきたい。</li> </ul>	<p>◇約束やきまりがあつてこそ、みんなが気持ちよく集団生活を送ることに気付き、進んで約束やきまりを守り、よりよい人間関係を築いていこうとする大切さを自分との関わりで深めている。 (道徳スライド・ノート)</p>
終末	4 インターネットの長所と短所がわかる事例を紹介する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・様子を思い浮かべやすいように、写真などで示し、児童が約束やきまりを主体的に守り生活していこうという気持ちをもてるよう余韻を残す。</li> </ul>

## 5 他の教育活動との関連

事前指導 3週間前の朝の時間	「インターネットの活用」と「規則に関する」意識調査
毎日の朝の会・帰りの会	朝の会では今月の生活目標・今学期の重点目標の確認 帰りの会では今月の生活目標・今学期の重点目標の振り返り
週1回のスライドを使ったの振り返り	週1回の自分の生活の中での頑張り、生活目標の振り返り、今学期の重点目標の振り返り
事後指導	週予定表に、「今週の道徳」で、子ども達の感想を載せる。

## 6 評価の視点

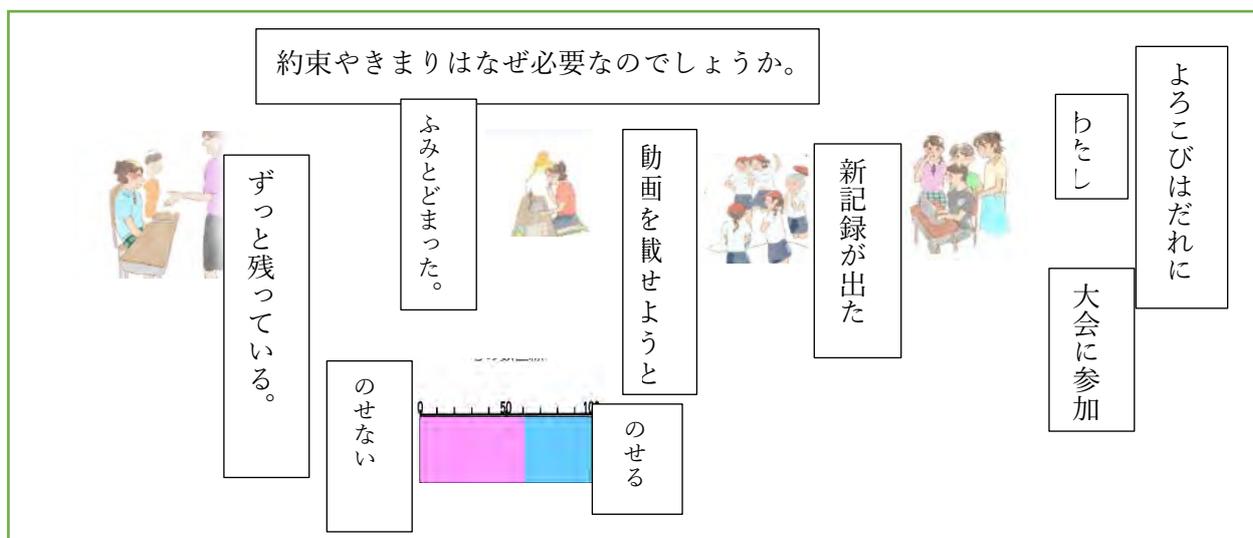
### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・動画を載せようかと悩んで踏みとどまったわたしの気持ちを話し合うことを通して、自分を投影して考え、約束やきまりを守るよさについて多面的・多角的な視点から考えている。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・きまりは集団を気持ちよく集団生活を送るためにあるものだと気付き、集団や生活をするうえで、約束やきまりを守ろうとすることの大切さについて、自分との関わりで考えを深めている。

## 7 板書計画



## 8 授業後の考察

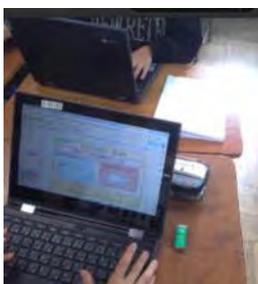
本校は、3年生4学級、4年生4学級あるので、他の7学級で授業を行わせてもらった。また、久喜市では、タブレット学習が進んでおり、本校は文科省の指定のリーディングdxの推進校でもあり、タブレット端末の学習は、毎時間行っており、情報モラルについての学習も毎月、その学年に応じた学習を行っている。今回の主人公のわたしの行為は悪いことだと理解している。そのうえで、子ども達が自分事として捉えることができるように工夫をした。

### (1) 導入

- ・情報モラルの教材で、「規則尊重」を考えるので、最初に「学校で生活しているときどんなきまりがありますか。」「インターネットやYouTubeを使うときにどんなきまりがありますか?」「インターネットやYouTubeなどを使ってよかったなと思ったことがありますか?」というアンケート結果を出し、情報モラルで規則尊重について話すことを提示、話合いの方向性を示した。ICTだけにしぼらず、社会の中の規則について考えるようにしてみた。
- ・インターネットやYouTubeの悪いことばかりではなく、楽しみについて話をし、子ども達の本音を話合いで出せるように工夫をした。

### (2) 展開

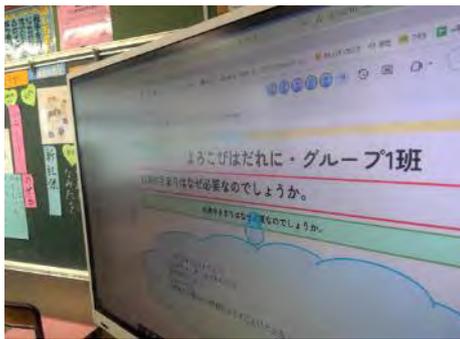
- ・どのクラスでも主人公の「わたし」に「自分」を重ねて、わたしの行動や言葉で心に残ったところに、線をひくように、「自分だったら、どうするか。」と補助発問をして、自分事として捉えるようにした。
- ・場面ごとに、「よろこびはだれにあるの?」と聞き、動画をのせる意味について考えさせるようにした。
- ・Google スライドで作成した心の数直線を使い、「どうしてその考えにしたのか?」を聞くことで踏みとどまった意味について考えさせた。本校の児童は、情報モラルについて分かっている。分かっているけれどのせてはいけないという気持ちについて考えさせた。また、主発問の「なぜ、踏みとどまったのでしょうか」では、内面的なことしか出ないのではないかと考えてわたしの正直な気持ちを素直に発表できるように、心の数直線を使い、心の中が「のせる」「のせない」ではどれだけの比率になっているかを友達に説明し、「きまりの大切さ」について考えるようにした。



- ・心の数直線を使うことで、子ども達の素直な気持ちが表れていたように思う。自分の学級に関しては、導入のところで、「インターネットの約束を守っている人がいて素晴らしいね。」と称賛し、楽しさについては軽くしてしまったことで、のせてはいけないという考えが多くなってしまった。

### (3) 終末

- ・「約束やきまりはなぜ必要なのですか？」を全体で考えた後、個人に返したことで、自分なりの納得解を持つことができたように思う。個人に返したことで、一人一人の「約束やきまりはなぜ、必要なのか。」について自分の考えを出し、素直に表現することができた。自分の学級では、全体で聞き、グループで話し合い、発表し、個人の振り返りのページに自分の納得解を書いた。



- ・子供たちの振り返り後に、インターネット等の危険などの自分自身の体験を話し、身近にあることを実感させるようにした。

### (4) 子どもの振り返り

**よろこびはだれに・振り返り**

**約束やきまりはなぜ必要なのですか。**

約束やきまりはなぜ必要なのですか。

守るとみんなが楽しくはったり、トラブルが起きないから

今日の学習を振り返りましょう。これからどうしていきますでしょうか。今日のなっとくかい

今日は約束と決まりについて考えました。わかったことは約束や決まりを守るとトラブルなどを避けることができます。安全に暮らせることがわかりました。これから、約束やきまりの重要性を考えて振り返ります。

考えたこと  
グループで話し合ったり、発表したりして、自分の考えを発表しました。

**よろこびはだれに・振り返り**

**約束やきまりはなぜ必要なのですか。**

約束やきまりはなぜ必要なのですか。

気持ちよく生活できる。  
安心・安全に暮らせる。

今日の学習を振り返りましょう。これからどうしていきますでしょうか。今日のなっとくかい

今日は約束と決まりについて考えました。わかったことは約束や決まりを守るとトラブルなどを避けることができます。安全に暮らせることがわかりました。これから、約束やきまりの重要性を考えて振り返ります。

考えたこと  
なぜ約束を破ってはいけないのだろう。友達や自分が傷ついてしまうから。

**よろこびはだれに・振り返り**

**約束やきまりはなぜ必要なのですか。**

約束やきまりはなぜ必要なのですか。

喧嘩になったりしてしまうから

今日の学習を振り返りましょう。これからどうしていきますでしょうか。今日のなっとくかい

みんながいやがることは嫌なので守らなければいけません。きまりは大切なことだからです。

考えたこと  
約束やきまりがなくなるとみんなが楽しく生活できなくなるから。

**よろこびはだれに・振り返り**

**約束やきまりはなぜ必要なのですか。**

約束やきまりはなぜ必要なのですか。

守ると安全で楽しくなるから

今日の学習を振り返りましょう。これからどうしていきますでしょうか。今日のなっとくかい

今日の学習を通して約束「守るとよい」ということがわかりました。決まりを守って楽しく生活します。

考えたこと  
約束はなぜ破ってはいけないのだろうか。守ると、安全で楽しい生活になる。

## 道徳科授業実践提案

指導者 長瀬町立長瀬第一小学校  
教諭 吉牟田 里実

### 1 主題名 互いを思いやる【B友情、信頼】

- 2 **ねらい** 父の話聞いた主人公の気持ちの変化を考える活動を通して、友情を深めるためにはお互いを思いやる気持ちが大切と理解し、いつでもどんな状況でもお互いを思いやりよりよい人間関係を築こうとする態度を育てる。

**教材名** 離れていても (出典：彩の国の道徳 「未来に生きる」 埼玉県教育委員会)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいや指導内容について

本主題は、高学年の内容項目 B〔友情、信頼〕「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと」である。児童にとって、友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否か方向付けられることも少なくない。「真の友情」とは、たとえ距離が遠くても、相手のことを思いやり、認め合い、共に高めることであるということに気付かせ、友達と「真の友情」を育んでいこうとする態度を育てていきたい。

#### (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、1年生から5年生まで単学級で生活をしてきた。今年度から学校の統合により2学級になり、新しい人間関係を構築し、笑顔で過ごすことができている。一方、同じ趣味や習い事での閉鎖的な友達関係が構築されており、決まった友達関係の中のみで生活している児童が多い。学級が違くと話す時間や関わりが減るので、仲の良い友達ではなくなると考えている児童もいる。「真の友情」とは、自己中心的なものではなく、友達を思いやり、認め合ったり、高め合ったりすることで育まれることに気付かせるように指導していくことが大切である。

#### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公「ぼく」が転校をすることになり、そのことを友達の仁に話すと、仁から「友達ではない」と言われてしまう。その後、オンライン会議をしていた父と話をし、仁に電話をするという教材である。

- ① 仁の後ろ姿をただ黙って見ていた場面では、それ以上言えず黙ってしまった「ぼく」に共感させるとともに、仁がなぜそのようなことをしてしまったのか考えさせ、距離が遠くなると友達ではいられないと考える心の弱さに共感させる。
- ② オンライン会議をしていた父と話をする場面では、自分だったら仁にどのように電話をするのか役割演技を行い、道徳的価値を多面的・多角的に考えさせる。
- ③ オンラインで仁とやり取りをする場面では、友達でいられた「ぼく」の気持ちを考えさせるとともに、タブレットやスマホの有無ではなく、距離が遠くてもお互いを思いやることで友達としてより深い関係になれることに気づき、道徳的価値についての理解を深めさせる。

以上の理由から本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される反応	・指導の留意点☆評価の視点
導入	<p>1 生活を見つめ、これまでの経験を想起する。</p> <p>・「大切な友達」とは、どんな友達ですか。</p> <p>(アンケート結果の提示)</p> <p>・近くにいないと「友達」と言えないでしょうか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストマイニングを使い、学級の傾向を確認する。</li> <li>・自分にとって友達や親友を確認することでねらいとする道徳的価値への方向付けを図り、アンケートの結果から物理的距離や共に過ごす時間の違いによって、「友達」とは言えなくなるのかという問題意識をもたせる。</li> </ul>
展開	<p>2 教材「離れていても」について知る。</p> <p>・登場人物 ・条件 ・情況</p> <p>○登場人物 ・ぼく ・仁 ・父 ○条件・情況 転校をすることになった「ぼく」は、そのことを一番の親友の仁に伝える。すると仁に、「離れていたら、友達を続けるのは無理なんじゃないか。」と言われてしまう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくと仁は一番の友達であることや、ぼくは仁に最初に転校のことを伝えたことを押さえ、二人の関係性を理解させる。</li> </ul>
	<p>3 教材を読み、話し合う。</p> <p>(1)ただ黙って仁の後ろを見つめていたぼくは、どんな気持ちだったか。</p> <p>・教室を出て行った仁はどんなことを考えていたのでしょうか。</p> <p>(2)お父さんの言葉を聞いて、ぼくは電話で仁に何と伝えたか。(中心発問)</p>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・このまま友達でなくなっちゃうのかな。</li> <li>・転校したくないな。</li> <li>・これからも友達でいたい。</li> <li>・転校してもタブレットで連絡を取り合えば、友達でいられるよ。</li> <li>・遠くにいても、仁のことを考えているからね。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>T「近くにいないのに、友だちでいられるのかな。」 C「お互い思い合っていれば、友達でいられるよ。タブレットもあるから、すぐに話もできるよ。」</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況やキーワードを捉えやすくするために、ICT を活用し読み聞かせをする。</li> <li>・転校をしても友達でいたいぼくと、距離ができてしまったら友達ではいられないと思う仁の両方に共感させる。</li> <li>・仁役を教師が行い、仁に電話をかけたときのぼくの言葉を役割演技する。</li> <li>・即興的な演技になるように、演技の初めと終わりを定める。</li> <li>・役割演技をしてもらった後、学級全体でも話し合わせることににより、自分と友達の考えを比較しながら、多面的・多角的に教材について考えることができるようにする。</li> <li>☆友達でいるためには、お互い思いやるのが大切だということに気づき、友達の考えと比較しながら自分なりに仁に対してどのように声をかけたらいいのか考え、話し合っている。(発言、役割演技)</li> </ul>

	<p>(3)仁の笑顔を思い浮かべていたぼくは、どのようなことを考えていたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットやスマホがないと友達とは言えないのでしょうか。</li> </ul> <p>4 今日の学習をもとに、課題について自分自身を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたにとって「大切な友達」とはどのような存在でしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達でいられてよかった。</li> <li>・友達に距離は関係ないな。</li> <li>・お互いのことを信頼し合える存在。</li> <li>・思いを伝えられる友達。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理的な距離に関係なく、相手を思いやることが真の友情を構築するために大切だということを明確にする。</li> <li>・アンケートを基に生活経験を振り返り、「友達」とはどのような存在なのかについて改めて考えさせる。</li> </ul>
終末	<p>5 学習の振り返り、よりよい生き方について考える。</p> <p>6 教師の説話を聞く。</p> 	<p>中学校時代の友達との写真と、最近の写真を見せた。「離れていても、大切な友達。」という話をした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの自分自身を振り返る活動を通して、今後の実践意欲を高める。</li> <li>☆これまでの友達との関わり方を振り返り、友達との関わりは距離や時間ではなく、お互いを思いやることが大切だということを、自分との関わりで考えている。(記述)</li> <li>・距離が離れても大切に思っている友達について話を聞き、思いやることが大切だという余韻をもたせて終わりにする。</li> </ul>

## 5 評価の視点

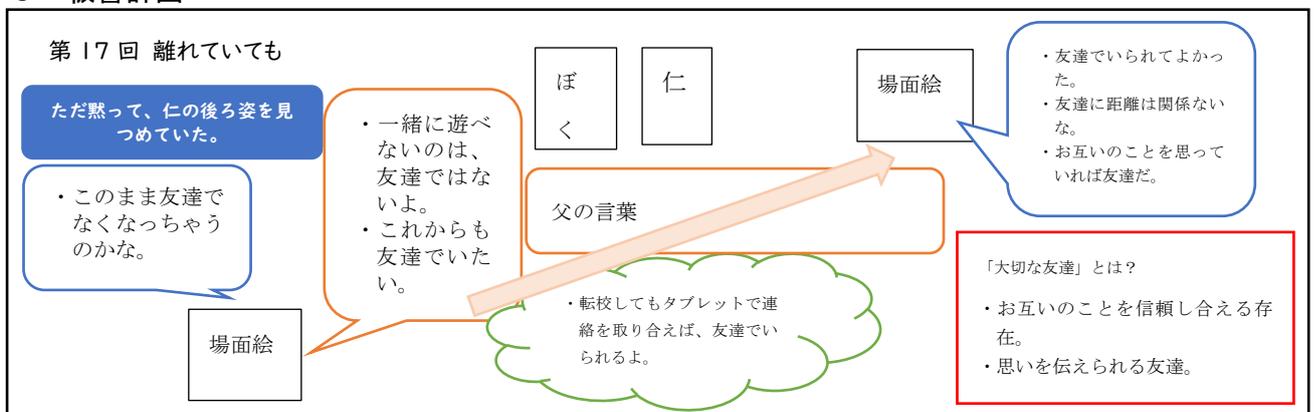
【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・友達でいるためには、お互いを思いやることが大切だということに気付き、友達の考えと比較しながら仁に対してどのように声をかけたらいいのか考え、話し合っている。

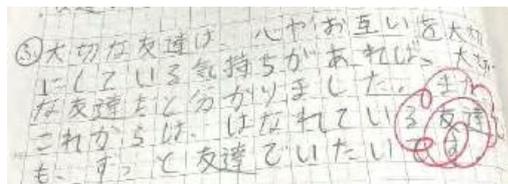
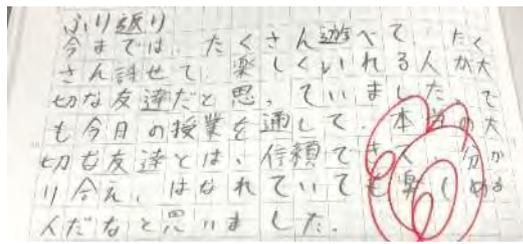
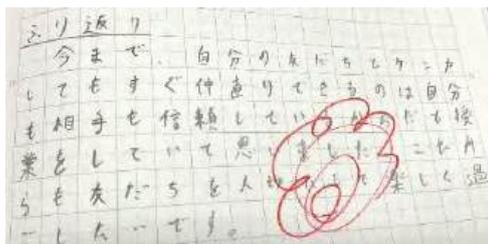
【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・これまでの友達との関わり方を振り返り、友達との関わりは距離や時間ではなく、お互いを思いやることが大切だということを、自分との関わりで考えている。

## 6 板書計画



## 7 児童のノート



## 8 考察

### (1) 導入

事前にアンケートをした「大切な友達とは、どんな存在ですか？」の結果をテキストマイニングを用いて示した。その中の、「遊ぶ」や「一緒」という言葉に注目し、「遊べたり、一緒にいられたりしないと『大切な友達』とは言えないのかな。」と問うことで、問題意識をもって展開を考えることができた。

### (2) 展開

大型テレビに注目してほしいキーワードを出しながら読み聞かせをしたことで、児童一人一人が教材を理解し、登場人物に自我関与ができた。(1)の発問では、転校してしまうけれども、友達でいたいと思う主人公と、近くにいられなくなってしまったら友達でいられないと考える仁の両方考えることで、どんなに仲がよくても近くにいられないと友達でいられないという気持ちに共感させ、人間理解を促した。

(2)の中心発問では、役割演技を取り入れた。教材が、電話をかける場面で終わっているため、その後の会話を役割演技することでより価値理解に繋がると考えた。当初は、数名の児童のみに役割演技をさせ、その様子を見て話し合わせようとしていたが、先行授業を実施した結果、一人一人が自分の言葉で話すことがよりよいと考え、ペアで役割演技をすることにした。役割演技の様子を見て、意図的指名を行うことで、より道徳的価値の理解に近づくような発言をしている児童に全体の前で役割演技をさせることができた。

(3)では、タブレットやスマートフォンなどとの関わりについて補助発問をし、タブレットなどがなくても相手を思いやるのが友情を深めるためには大切であると気付かせたかった。しかし、児童たちにとってスマートフォンの活用は切り離せないものである。「スマートフォンがなくても」ではなく、「スマートフォンを上手に使うことで」よりよい関係を作ることができるという流れになり、より児童が自分事として考えられた。

### (3) 終末

担任の中学校時代の写真と今の写真を提示したことで、児童たちは食い入るように話を聞いていた。児童たちにこの1時間の内容の余韻を残せる、とても効果的な説話であったと思う。

### (4) 授業を振り返って

授業づくりシートをもとに授業を組み立てたことで、児童たちに考えさせたい軸がぶれることがなく、道徳的価値の理解につながったと考えられる。今後はICTの活用についても研修を進め、「考え、議論する道徳」の授業へ授業改善を進めていきたい。

## 4 長期研修教員報告

- 入間市立豊岡小学校                      岩原 綾香 先生
- 寄居町立鉢形小学校                    木村 洋介 先生
- 深谷市立幡羅中学校                    鴻野 光伸 先生



# 幸せになるために

～自己の生き方に繋がる道德教育を通して～

入間市立豊岡小学校 岩原 綾香

(十文字学園女子大学 浅見 哲也 研究室)

## 1 主題設定の理由

世界中を錯乱させたコロナウイルス感染症の流行後の今、世界中で求められていることは、持続可能で、レジリエント性を有し、多様な価値観を受容できる社会像である。また、総務省「ウィズコロナにおけるデジタル活用の実態と利用者意識の変化に関する調査研究」によると、経済的な成功よりも生きがいや健康に楽しく生きることを優先させる Well-being への志向が高まっているということが分かった。画一的ではなく、多様な幸せが実現されるような社会の形成が必要である。

また、埼玉県学力・学習状況調査や学校独自で実施をした道德アンケートの結果から、本校の児童は、道德科の学習は好きであるが、夢や希望をもっている児童が少ないということが分かった。週1時間の道德科の授業を含めた道德教育が、自己の生き方と繋がっていないことが考えられる。

したがって、他者や社会全体の幸せを願いながら、自己の生き方について考えられる人を育成していくことが大切であり、その基盤となるのが道德教育であると考えたため、本研修主題を設定した。

## 2 基礎研究

### (1) 幸せとは何か

研究の主題である「幸せ」とは何かをまず考える必要がある。歴史的、文化的背景や社会的立場によって個人差があることは念頭に置きながら、西洋哲学と東洋哲学の二つの側面から考えていく。

西洋哲学の代表的な考え方の一つとして、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』から考える。アリストテレスによれば、人間にとっての究極の目的は幸福であり、幸福とは人間がもっている本来の固有の能力を発揮することである。その能力を十分に発揮するためには、外的な幸運を生かすための内的な力である「徳（アレテー）」を身に付けていく必要がある。つまり、人間のあらゆる行動には目的があり、その目的を追求していくと幸福にたどり着くことができ、幸福になるためには倫理的徳を身に付けることが重要であるという考えだ。人間としてのよさや可能性を最大限に開花させることが幸福な生き方に繋がると考えたのではないだろうか。

東洋哲学からは、孔子の『論語』から考えていく。「老人には安心され、友達には信ぜられ、若ものにはしたわれる」と記されていることから、孔子は生活の中での平安が望みであったことが分かる。『論語』では、個人のことだけでなく、どのように国を治めたらよいかという理想の政治についての言及が多い。刑罰で統制していくのではなく、道德で導いていくことの必要性が記されている。徳が対人関係を円滑にするだけでなく、理想的な社会の形成に繋がるという考えである。

二人の哲学者から、西洋哲学では個人の理想の追求が、東洋哲学では個人の理想と社会の理想の調和が重要視されていたということ、どちらの哲学においても徳が人生や幸福観に大きく影響を与えていることが分かった。

## (2) 日本型のウェルビーイング

幸せや心の健康を指して英語では、happiness と並んで well-being という言葉が使われることが多い。ウェルビーイング(well-being)という言葉が初めて使われたのは、1948年に発効された世界保健機関(WHO)の憲章においてだと言われている。日本 WHO 協会の仮訳によると、以下のように示されている。

Health is a state of complete physical, mental and social **well-being** and not merely the absence of disease or infirmity.

健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態であることをいいます。

日本では、2019年から内閣府による「満足度・生活の質に関する調査」が実施され、「我が国の経済社会の構造を人々の満足度(well-being)の観点から多面的に把握し、政策運営に活かしていくこと」とされている。また、教育政策としては、令和5年6月に閣議決定された第4期教育振興基本計画において、2つのコンセプトの一つとして、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられた。「ウェルビーイング」ではなく「日本社会に根差したウェルビーイング（以下、日本型ウェルビーイングという）」とは何かを考えていく。これは、内田由紀子(2023)がウェルビーイングを考える際の注意点として、「それぞれの国や集団、地域での文化的価値につながる『ウェルビーイング』のあり方考える必要がある」と述べているように、文化的背景が大きな影響を与えているからである。日本的幸福と北欧的幸福を比較しても大きな違いが見られることが分かる。(下図)

	日本的幸福（協調的幸福観）	北欧的幸福（獲得的幸福観）
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幸福の「陰と陽」（幸せすぎるのもよくない）</li> <li>・他者とのバランス</li> <li>・人並み志向（普通がいい）</li> <li>・まわりにまわって自分にも幸せがやってくるという信念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の自由と選択（自己決定）</li> <li>・自己価値の実現と自尊心</li> <li>・競争の中でもまれる</li> <li>・それらが翻って社会を豊かにするという信念</li> </ul>
指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う</li> <li>・大切な人を幸せにしていると思う</li> <li>・平凡だが安定した日々を過ごしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私の人生はとても素晴らしい状態だ</li> <li>・大体において、私の人生は理想に近いものである</li> <li>・これまで私は望んだものは手に入れてきた</li> </ul>

内田は、日本は世界的にみると幸福度が低いと言われているが、協調的幸福感尺度を使用すると、平均値が他国とだいたい同じになると述べている。そのうえで、これからの日本型ウェルビーイングを考えていく上では、協調的幸福観と獲得的幸福観の二つの要素が上手くバランスを取り合うことが大切であると考えている。そのために、協調性と独立性という二つの自己意識が必要である。協調性は、元来日本で大切にされてきたものであり、人と協調し、他者の幸せを考えるものであり、独立性は、近代社会の中で重要視されてきた個性の重視や自己実現など、近年様々な形で教育の施策がとられてきたものである。

### (3) 自己の生き方について考えを深める学習とは

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編 第2章2節 2 道徳性を養うために行う道徳科における学習には以下のように示されている。「児童が道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して形成された道徳的価値観を基盤として、自己の生き方についての考えを深めていくことができるようにすることが大切である」。また、浅見哲也(2020)は、自己の生き方について考えを深めるとは、「授業では、ねらいとしている道徳的価値について感じたことや考えたことを通して自己を見つめ、自分自身の生き方について考えられるようにする。」と述べている。

したがって、ただこれまでの生き方を振り返ったりこれからの生き方を考えたりするのではなく、その授業や活動でねらいとする道徳的価値について考えることを基に、自己の生き方についての未来への展望を考えていく必要がある。また、浅見は「道徳性は1時間でそう簡単に養えるようなものではない。」と述べていることから、1 単位時間の道徳科の授業においてだけではなく、児童の実態を大切に授業を1年間を通して計画的に行ったり、他教科等や他の教育活動と関連付けて行う全教育活動における道徳教育を意識的に行ったりしていく必要がある。

## 3 仮説

### (1) 自己の生き方について考えるための学習活動の設定

自己の生き方について考えを深めるためには、児童自身が問題意識をもって自我関与しながら学習に取り組むことが必要である。そのために、問題意識をもつことができるような問いや導入が大切であると考え、手立てとして以下の3点を提案する。

- ・問題解決的な学習や体験的な学習の設定

児童の考えたいことからの学習課程の設定、役割演技等の活用

- ・登場人物の心情理解に偏らない「児童が考えるに値する問いや発問」の作成

道徳的諸価値の理解を大切にしながら、中心発問や補助発問における場面発問やテーマ発問の効果的な活用

- ・「日本型ウェルビーイングの視点」を取り入れた授業のねらいや問いの作成

協調性と独自性を意識したねらいや発問の生かし方

### (2) 学習指導課程終末の工夫

1 単位時間で学習したことをその時間だけで終わらせるのではなく、今後の学習や自己の生き方につなげるためには、学習指導課程の終末にも工夫が必要であると考え。児童が、「今日の学習で考えたことや気がついたことが、今後の自分の人生において大切なことの一つになるかもしれない」という未来への展望や可能性を見出すことができる授業を行うことで、自己の生き方について真剣に考え、深めることができる学習になるのではないだろうかと考え、手立てとして以下の3点を提案する。

- ・ 自己を見つめる活動では、十分な時間的確保をし、指導の個別化の視点も取り入れる  
児童の表現の方法を一つに絞らず、ワークシートや ICT の活用等複数用意する
- ・ 発達の段階を踏まえた自己の見つめ方の工夫  
自己を見つめる際の問いかけ方や活動方法について
- ・ 教師の説話等の工夫  
ねらいとした道徳的価値の一般化と汎用性の重視

### （３） 他の教育活動や他教科等との関連を生かした道徳教育の工夫

学習指導要領の理念を実現するための方策として「主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善」と共に挙げられているのが、学校における「カリキュラム・マネジメント」である。カリキュラム・マネジメントは、学習指導要領前文に記されている「社会に開かれた教育課程」を実現する具体的な方策であり、児童の様々な学びを繋ぎながら、その学びを実生活や社会に繋ぐことができると考えられている。カリキュラム・マネジメントの視点を大切にしながら教育活動を行うことが、自己の生き方に繋がる道徳教育になると考え、以下の３点を手立てとして提案する。

- ・ 学校や地域の実態・特色を生かした計画  
グランドデザイン・年間指導計画・単元配列表等を作成し、活用する
- ・ 既習事項(道徳科・他教科等)を生かした学習活動の設定  
道徳科や他の教育活動で学んだことを相互に効果的に生かす活動を設定をする
- ・ PDCA サイクルの活用  
道徳科の授業や1年間の道徳教育を PDCA サイクルを活用し、授業改善を図る

## 4 研究の今後

以上の基礎研究及び、それに基づく仮説や手立てをもとに学習指導案の作成や検証授業を行っている。授業に関わる事項は、今年度中に成果と課題を整理しまとめ、道徳教育全体に関わる事項は、来年度以降も見据えて継続して研究を行っていく必要があると考えている。(2024年12月現在)

金谷治（訳注）『論語』岩波文庫，1963年

大石繁宏『幸せを科学する 心理学からわかったこと』新曜社，2009年

日本WHO協会「世界保健機関(WHO)憲章とは」<https://japan-who.or.jp/about/who-what/charter/>

内田由紀子 中央教育審議会委員「計画ポイント解説～ウェルビーイング編」

<https://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/content/000177757.pdf>

浅見哲也『こだわりの道徳授業レシピ』東洋館出版社，2020年

浅見哲也『道徳科 授業構想グランドデザイン』明治図書出版株式会社，2021年

荒木寿友，藤沢文『道徳教育はこうすれば<もっと>おもしろい』北大路書房，2019年

# 問題意識をもち、自己の生き方についての考えを深める道徳教育

～好奇心を育み、主体的に学ぶ指導法の工夫～

寄居町立鉢形小学校 教諭 木村 洋介

(十文字学園女子大学 浅見 哲也 研究室)

## 1 主題設定の理由

これからの社会は、日々のテクノロジーの進歩に伴い、変動が激しく予想不可能で複雑な問題を抱える VUCA 時代になっていくことが予想されている。VUCA 時代を担う現代の子供たちには、変化に対応し、持続可能な社会を実現できる能力が求められている。道徳教育には、そのような社会の変化に対応しその形成者として生きていくことができる人間を育成するうえで重要な役割をもっている。

しかし「令和3年度道徳教育実施状況調査」では、道徳科において「教科書の発問例に依存し、児童生徒や学級の実態を踏まえた授業展開が行えていない場合がある。」との課題が挙げられている。道徳性を養うべき児童の実態を踏まえた授業が展開できず、児童が自分との関わりで問題を捉えられていないということが考えられる。

そこで、特に道徳科において、児童の実態を把握し、問いの場面や実態に適した言葉を精選して投げかけることで、児童が問題意識をもって授業に取り組み、自分との関わりで自己の生き方についての考えを深めることができるのではないかと考えた。

## 2 基礎研究

### (1) 「問題意識」とは

小・中学校の道徳の学習指導要領等の記述において「問題意識」の使用頻度は右図のようになっている。現行の学習指導要領からその回数が大きく増加しており、道徳科の授業において、児童が問題意識をもって学習に取り組むことの重要さがうかがえる。

では、一体「問題意識」とは、どのようなものだろうか。言葉の意味について、以下のような説明がされている。

- ・「ある事態などに対し、その重要性を見抜いて、主体的に関わり合おうとする心のもち方（デジタル大辞泉）」
- ・「ある現象、ある事態に対して、主体的に関わりあうような心のもち方、心的態度（精選版日本国語大辞典）」

このことから一般的な「問題意識」とは、「ある事態（＝問題）」における「主体的なかかわり（＝意識）」だといえる。

浅見・安井（2023）<sup>1</sup> は、「問題意識をもつことによって子供たちは意欲的に考え、主体的に話し合うことができるようになる」と論じる一方で、「留意すべきこととしては、道徳科における問題とは道徳的価値に根差した問題であり、単なる日常生活の諸事情とは異なる」ことを指摘している。

つまり道徳科では、「問題」は何か、問題に対する「意識」をどのようにもたせるかを明確にすることが、自己の生き方についての考えを深めることにつながると考える。

年・位置づけ	小学校	中学校
平成元年 (道徳の時間)	1回	0回
平成11年 (道徳の時間)	1回	0回
平成20年 (道徳の時間)	6回	1回
平成29年 (特別の教科 道徳)	10回	10回

※児童生徒の学習の文脈で用いられるものみの集計  
平成元年度版までは「指導書」

## (2) 道徳科における「問題意識」について

道徳科における問題意識についての捉えを明らかにするために、「問題」と「意識」に分けて考えることとする。

まず、道徳科で取り扱う「問題」について、浅見 (2021)<sup>2</sup> は次の3点を挙げている。

### ①身近で切実な問題

- 例 ・友達からよくない遊びに誘われると一緒にやってしまう  
・ゲームを夜中までやってしまい、朝、自分で起きられない

### ②社会的な問題や現代的な課題

- 例 ・いじめをなくすためには  
・人工知能の進化により変化する社会において人間はどうあるべきか

### ③教材の中に描かれている問題

道徳科の授業では、こういった問題に対して、教材の内容の理解に終始せず、教材を活用して生き方を学ぶ時間にする必要があると指摘している。

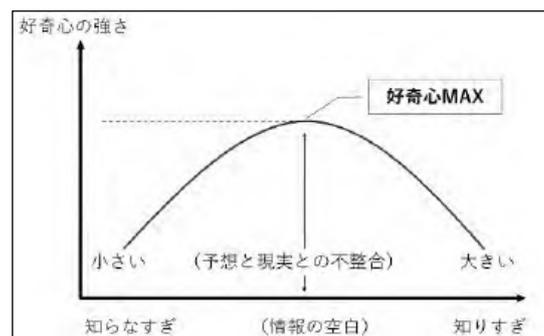
また浅見は、「意識 (=主体的な関わり)」については、「自我関与」をキーワードとし、自分との関わりで考える授業の重要性について論じている。児童自身が自分の心からわき上がってくる主体的なものを大切にしなければならないとしている一方で、主体的な学びについて、特別な指導方法があるわけではないことにも触れており、児童の実態を把握した教師の工夫が必要であることがうかがえる。

イアン・レズリー (2016)<sup>3</sup> は、主体的な学びについて、後述の2人の考え方から「知的好奇心 (=知識と理解を深めたい欲求)」が重要であると論じている。ジャン・ピアジェの考え方によると「自分の予測と現実の間に『不整合』を発見したとき」に発生するものだとしている。また、ジョージ・ローウェンスタインは、「知りたいこととすでに知っていることの間」に存在する空白が好奇心を抱かせる」と提唱している。

つまり、右図のように「予想と現実の不整合」、

「情報の空白」の2つの条件が程よく整ったとき、知的好奇心が最大になると考えられる。

これらのことから、児童の好奇心を育むことが、主体的な学びに対する意欲となり、その意欲が問題意識の醸成につながる。この過程を経ることで、自己の生き方についての考えを深められるようになるのではないかと考える。



「予想と現実の不整合」、「情報の空白」と好奇心の強さとの関係

## (3) 知的好奇心を育むための教師の役割

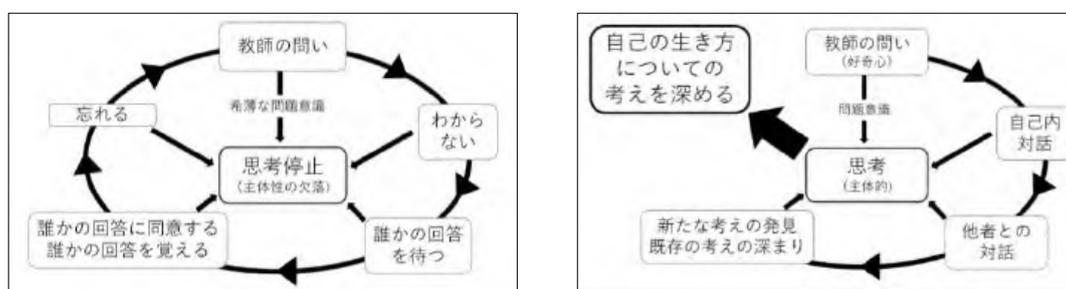
イアン・レズリーは、人間のもつ好奇心として次の3つのタイプを記している。

- ・拡散的好奇心 (いろいろな方向に発生する「知りたい」という欲求)
- ・知的的好奇心 (知識と理解を深めたいという欲求)
- ・共感的好奇心 (他者の考えや感情を知りたいという欲求)

特に「知的的好奇心」について、鹿嶋・石黒 (2020)<sup>4</sup> は、拡散的好奇心 (=広く浅い好奇心) がもっとも基本的としており、知的的好奇心 (より深い好奇心) へと進化を遂げる (=「予想と現実の不整合」、「情報の空白」の2つの条件をそろえる) ことが教師の役割だと指摘している。教師は、児童が知的好奇心を育むため、表のような意識をもたせることが重要である。

児童にもたせたい意識	具体例
認識との不一致に気付く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の常識との不一致</li> <li>・自分のイメージとの不一致</li> <li>・自分の予想との不一致</li> <li>・自分の欲求との不一致</li> <li>・既習事項・既有知識・既有体験との不一致</li> </ul>
違和感に対して疑問をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの違いが気になる</li> <li>・経過の違いが気になる</li> </ul>
なりたいたい自分になる・未来への期待	・何をすればなりたいたい自分になれるのか

授業においては、教師の働きかけにより上記の意識をもたせることで、児童は左下図のような思考停止状態から、右下図のような思考をもつことができるのではないかと考える。



「知的好奇心の無い授業 (左)」と「知的好奇心を育む授業 (右)」の児童の思考のサイクルのイメージ

以上から、「好奇心を育み、主体的に学ぶ指導法の工夫」を副題とし、後述の2つの仮説をもとに検証を行う。

### 3 仮説

以上の基礎研究から得られた知見に基づき、以下の2点を提案する。

#### (1) 教師が児童へ投げかける問題意識をもたせる問い

浅見 (2024)<sup>5</sup> は、道徳科の授業において、児童の考えに深まりのあるものになるためのポイントとして、次の2点を挙げている。

- ・導入において、児童が問題意識をもてるような発問をする
- ・他者理解と価値理解の間で、児童がねらいとする道徳的価値の自覚を深められるような発問をする

これらの2点を踏まえ、学習指導過程に整理したものが右図である。

そこで性質ごとに発問を分類し、上記の2点のタメのポイントにおいて児童や学級の実態に適した言葉を精選して投げかけることで、児童が問題意識をもって授業に取り組み、自分との関わりで自己の生き方についての考えを深める

ことができるのではないかと考える。

段階	段階の目的	教材の活用	指導上の留意点
導入	・実態や問題を知る	日常生活で考える	・道徳的価値について、問題意識がもてるようにするために…
<b>ポイント① 問題意識をもてるようにするためのタメ</b>			
展開	・道徳的価値の理解をもとによりよい生き方を考える 人間理解 他者理解	教材で考える	・自分自身との関わりで考えられるようにするために… ・多面的・多角的に考えられるようにするために… ・自己の生き方についての考えを深められるようにするために…
<b>ポイント② 道徳的価値の自覚を深めるためのタメ</b>			
	価値理解 ↓ 自己理解		
終末	・よりよい生き方をしたいこうとする意欲を高める	日常生活で考える	・自己実現への思いや願いを深められるようにするために…

浅見の提案する「道徳科の学習指導過程の例」をもとに筆者が作成

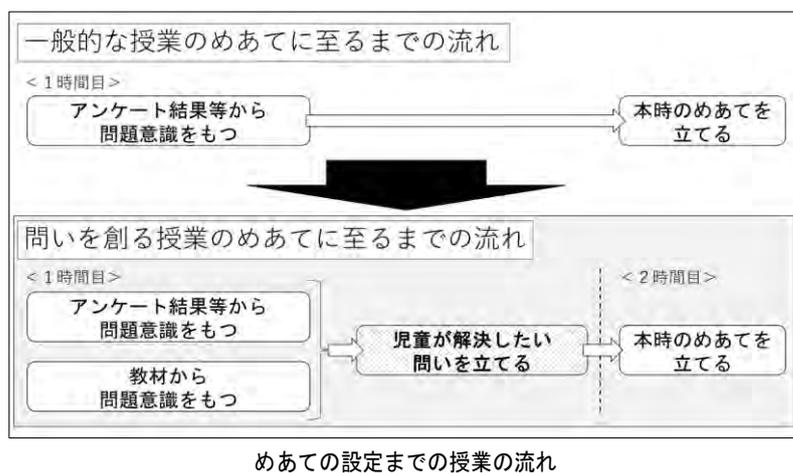
## (2) 児童自身が問いを創り問題意識をもてるようにする学習

平成29年告示の「小学校学習指導要領解説総則編」では、「これからの学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。」とされている。

それを受け、鹿嶋・石黒は、『『新たな価値を生み出す力』や『情報を再構築する力』などを子どもたちに身に付けるためには、『問う力』を育成するものでなければならない』としている。

そこで、問題解決的な学習を参考に、複数時間で展開する道徳授業を提案する(右図)。

第1時では児童の興味や疑問から解決したい問いを創り、第2時ではその問いからめあてを導いて授業に展開していく。これにより、児童一人一人の自分の立てた問いが本時のめあてにつながること、より教材に自我関与でき、問題意識をもって主体的に考えることができるのではないかと考える。



## 4 研究の今後

以上の基礎研究およびそれに基づく仮説をもとに検証授業とその分析を行う。授業者の意図によって投げかけた問いによる問題意識、児童自身が問いを創ることで生まれる問題意識について、児童の様子や発言記述、アンケート等から分析し、その効果と課題についてまとめを行う。また、道徳科の授業だけでなく、全教育活動を通じて行う道徳教育について、問題意識をもち、自己の生き方についての考えを深められるような方法を模索する。

- 1 浅見哲也・安井政樹『道徳授業の個別最適な学びと共同的な学び ICTを活用したこれからの授業づくり』 明治図書, 2023年
- 2 浅見哲也『道徳科 授業構想グランドデザイン』 明治図書, 2021年
- 3 イアン・レズリー著 須川綾子訳『子どもは40000回質問する あなたの人生を創る「好奇心」の驚くべき力』 光文社, 2016年
- 4 鹿嶋真弓・石黒康夫『子どもの言葉で問いを創る授業 小学校編』 学事出版, 2020年
- 5 浅見哲也『道徳科の指導のさらなる質的向上を図る』(『道徳教育』12月号より) 明治図書, 2024年

# 生徒が主体的に考え、協働して学ぶ道徳教育の工夫

～自らよりよい生き方を考える生徒の育成を通して～

深谷市立幡羅中学校 教諭 鴻野 光伸  
(十文字学園女子大学 浅見 哲也 研究室)

## 1 主題設定の理由

道徳教育は、「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」を目標としている。VUCA の時代を生きる生徒には、人としての生き方、社会の在り方について、様々な価値観を前提として、多面的・多角的に向き合うことが不可欠である。しかし、要となる道徳科の指導について、令和3年度道徳教育実施状況調査によれば、50%以上の中学校が「議論して考えを深める指導」、「物事を多面的・多角的に考える指導」に課題があり、80%以上の中学校が「教科書発行者が出版している指導書や参考資料等」を指導に活用している。この2点から、生徒の実態に応じた授業展開、対話を通して多様な考えを共有し、道徳的価値の理解を通して自分事として考える点に課題があると考察した。そこで、生徒の実態と発達の段階を踏まえた授業構築、効果的な対話場面の設定を通じた自分事として考える工夫を行うことで、生徒が主体的に考え、仲間との対話を通して、自己の人間としての生き方について考えを深められると考えた。

## 2 基礎研究

### (1) 教師が育て、生徒自身も養う「道徳性」について

道徳教育、道徳科双方の共通目標は「道徳性を養う」ことである。「道徳性」については、「中学校学習指導要領(平成29年告示)総則編」で以下のように説明している。

- ・「思考や判断、行動などを通してよりよく生きるための営みを支える基盤となるもの」
- ・「人間として本来的な在り方やよりよい生き方を目指して行われる道徳的行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすもの」
- ・「人間らしいよさであり、道徳的価値が一人一人の内面において統合されたもの」

この目標を達成するためには、生徒が他者との協働を通して、主体的に自分の生き方について考えることが不可欠である。まずは道徳教育で、「主体的に考える」ことについて考察していく。

### (2) 道徳教育で「主体的に考える」ことについて

「主体的に考える」とは、どのようなことか。論語「為政第二第十五」に次のような言葉がある。「学びて思わざれば則ち罔し」。これは「学んでも、自ら考えなければ身に付かない」という意味である。このことから「考えること」は「学ぶこと」を前提として、到達するものと捉えることができる。

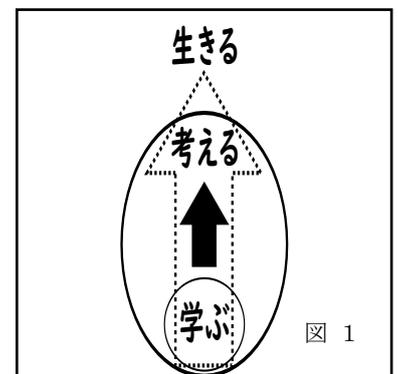
では、「主体的な学び」はどのようなものなのだろうか。

浅見・安井(2023)<sup>1</sup>は、主体的な学びについて、それぞれの学を区別して、一つの学習状況で例えることは難しいとした上で、「問題を自分事として捉え、自分との関わりで考えていくこと」と述べている。

永田(2024)<sup>2</sup>は、道徳科を要とする道徳教育について、「主体的に学ぶことが主体的に生きることに繋がる」と述べている。

つまり、「主体的に考える」ためには、生徒が問題意識という学びを出発点として考え続けていくことが大切であり、その過程が、主体的に生きることへと続いていくものであると考えられる。

(図1)

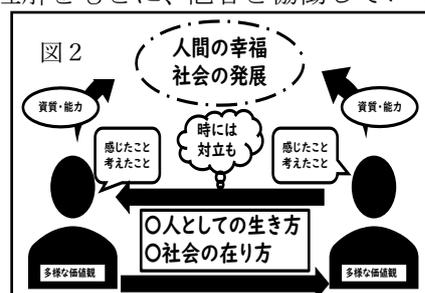


(3) 道徳教育で「協働して学ぶ」ことについて

「協働」について中学校学習指導要領解説(平成 29 年告示)特別の教科 道徳 第 1 章総説 1 改訂の経緯」には以下のように説明されている。

今後のグローバル化がさらに加速していく状況の中で、多様な文化や価値観を背景とする人々と共に、人間の幸福と社会を発展させていくことが必要であることを踏まえ、「人としての生き方や社会の在り方について、時に対立がある場合を含めて、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に重要であり、こうした資質・能力の育成に向け、道徳教育は、大きな役割を果たす必要がある」。

つまり、多様な価値観について、尊重しながら道徳的価値の理解をもとに、他者と協働していくことは、直接自己のよりよい生き方を考えることにつながるものであると考えられる。(図 2)次に、よりよい方向を目指す資質・能力の育成を道徳教育で実践し、協働するためには不可欠である「対話」について考察する。



(4) 道徳科における「対話」について

学習指導要領解説を確認すると、「対話」の言葉の表記が急速に増えている(表 1)。いずれも小学校より中学校において数の優位が認められる。以前の表記と比較すると中学校の道徳教育における「対話」の重要性は増していると言える。

表 1

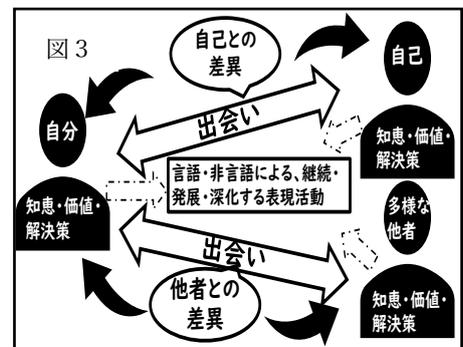
「対話」の表現	小学校	中学校
平成 29 年	22	28
平成 20 年	6	13

では、「対話」とは、どのような性質を持つものなのか。「対話」の持つ性質や「対話」が及ぼす影響について以下のように整理した。(下線部筆者)

O. F. ボルノー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「対話においてのみ人間の人間性は完成される」<sup>3</sup></li> <li>・「対話は、人間の到達可能な最高の完成」<sup>4</sup></li> <li>・「人は発言行為そのものによって道徳的責任を持つ人格となる」<sup>5</sup></li> </ul>
M. ブーバー <sup>6</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「対話をしているかのように見える饒舌な二人が、実は独白を交換しているだけだということがよくある。結局のところ、自分の中で出来上がった物語を交互に語っているだけで関心のあるのは自分であって、相手ではなく、自分を語るために相手に向かって(しかし実は自分自身に向かって)語っている」</li> <li>・ 対話とは「<u>他者に向かって出て行くこと</u> Zum-Andern-ausgehen」</li> </ul>
P. フレイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「対話」とは、<u>出会い(原文ママ)</u>であり、<u>対話者同士の省察と行動</u>がそこで一つに結び付いて世界の変革に向かうもの」<sup>7</sup></li> <li>・「一方の主体の思考内容を他方の主体へ移し入れることを『伝達』と呼び、<u>思考する諸主体が思考される対象を見つめつつ、互いにコミュニケーションし合い、お互いの考えをお互いにとって意味のあるものにしようとする努力</u>」を対話と述べている。<sup>8</sup></li> </ul>
M. バフチン <sup>9</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「文化はもう一つの文化のまなざしに照らされてはじめて、より完全に、より深く自らを明らかにする。<u>一つの意味は、別の〈他者の〉意味と出会い、触れ合うことで深みを増す</u>。両者の間でいわば対話が始まるのであり、対話はこれらの意味や文化の閉鎖性と一面性を克服するのである」</li> </ul>

M. ピカード <sup>10</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「沈黙は単に人間が語るのを止めることによって成り立つのではない。単なる『言語の断念』以上のものである」</li> <li>・「沈黙はその人間の中心なのである。人間のうごきは、一人の人間から直接他の人間に働きかけるものではなく、<u>ひとりの人間の沈黙から他の人の沈黙に働きかけるものである</u>」</li> </ul>
-----------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

以上のことから「対話」は、道徳的責任を自覚させるものであり、自分が他者と出会い、互いが省察と行動することに効果があるものと言える。その過程で他者のもつ多様な価値観に触れ、沈黙を通じて更なる対話が発生し、物事を多面的・多角的な視点に広げ、自分事として考えることをとおして、最終的に人間性の完成へとつながるものということになる。では、対話の中で「他者」のどのような点に注目するべきなのであろうか。自分との比較をした際に生じる差異について考察する。



多田(2017)<sup>11</sup>は、バフチンの思想に出てくる「他者との差異性(ズレ)」に着目し、対話を「自己および多様な他者やさまざまな対象と語り合い、差異を生かし、新たな智恵や価値、解決策などを共に創り、その過程で創造的な関係を構築していくための言語・非言語による、継続・発展・深化する表現活動」と定義している。(図3)この差異に着目した「対話」を道徳教育の中で実践していくことにより、生徒が与えられた問いだけでなく、自ら問いを持ち、他者と共に探究していくことが、自らよりよい生き方を考える生徒の育成につながると考えられる。

### 3 仮説

#### (1) 道徳科における「対話」の成立要件

基礎研究から、道徳科の授業における「対話」の活動を以下の3点に仮定する。

- ① 生徒が自己や他者との出会いによる差異に気付き、それに基づく話し合い活動があること。
- ② 教師の明確な指導観のもと必要に応じてファシリテーションが使い分けられること。
- ③ 受容的な雰囲気であり、だれでも発言しやすい雰囲気があること。

②のファシリテーションは、「生徒の考えを受け、その考えを明確化し、他の生徒へ広げる役割だけでなく、生徒の意見の中から差異性を見つけ出し、本質に迫る問いかけ」を行うことと定義する。

#### (2) 学習指導過程の工夫

浅見(2024)<sup>12</sup>は、「道徳科の一般的な学習指導過程の例」を提示している。さらに、指導過程の中で導入、展開後半での「タメの発問」を行うことで生徒がより自分事として考える工夫を紹介している。(図4)

この学習指導過程を多田(2018)<sup>13</sup>の「深い思考の6つの要件」で捉え直した。道徳教育の工夫を実践し、さらに生徒が問題意識や切実感を持ち、自ら問いに向かっていくことができると考えられる。多田が示す「深い思考の6つの要件」は「気付き・発見」「分類・整理」「探究」「統合・総合」

段階	学習活動・主な発問	予想される児童生徒の発言	指導上の留意点
導入	・実態や問題を知る。	図4 <b>日常生活で考える</b>	・道徳的価値について、 <b>問題意識</b> が持てるようにするために…
展開	・道徳的価値の理解を基に よりよい生き方を考える。 人間理解 他者理解 価値理解 ↓	<b>教材で考える</b>	・ <b>自分自身との関わり</b> で考えられるようにするために… ・ <b>多面的・多角的</b> に考えられるようにするために… ・ <b>人間としての</b> 生き方についての考え方を深められるようにするために…
総括	・よりよい生き方をしていこうとする意欲を高める。	<b>日常生活で考える</b>	・ <b>自己実現</b> への思いや願いを深められるようにするために…

「汎用・応用」「継続」である。道徳科の授業に当てはめたとき、「気づき・発見」を2つの場面に分けて捉えることとした。(図5)

(3)「ドクサの発見」について  
 学習指導過程の中で、気づき・発見1は道徳科の授業では、導入にあたる。この導入は後の学習過程上非常に重要な位置付けである。服部(2024)<sup>14</sup>は学びのある道徳科授業の要件の一つに「子供自身が道徳的価値に関して知らなかったことを知ること」と述べている。生徒が「知っている」ことの視点を変えて問うと、「知らなかった」ことが見つかる場合もある。ソクラテスが行ったドクサの吟味に重なる部分も多い。村井(1972)<sup>15</sup>はこの「ドクサ」について、「人間の通俗的な思い」と表現している。導入の段階で生徒が自分自身の持つ通俗的な思い、つまり「思い込み」を発見することで、問題意識を持ち、主体的に問いと向かい合えると考えられる。(図5)



(4)「哲学対話的問答」について

「哲学対話」の多様な形態について町田(2024)<sup>16</sup>は、以下のように示している。(表2)

名称	哲学カフェ	ソクラティックダイアログ	子どものための哲学(P4C)	子どものための哲学(p4c)	本質観取
国	フランス	ドイツ	アメリカ	ハワイ	日本?
創始者	マルク・ソーテ	レオナルド・ネルズン	マシュー・リップマン	トーマス・ジャクソン	フッサール現象学をもとに、西研、竹田青嗣、苫野一徳が方法化
特徴	決まった方法や振興方針はない。主催者によって多様でよい。教育目的で構想されたわけではない。	政治教育の一環として構想された。厳密な手続がある。一週間かけて哲学対話をする。答えを出す(全員の合意がある)全員の合意がないと先に進めない。	目的は「自分たちが自ら考えられるようにすること。教室を探究の共同体に。しっかりとしたカリキュラムがある。教科書と指導書がある。各学年のプログラムがある。	目的は「自分で考える能力を育み、責任をもって能力を使えること。」「知的に安全な場所」と「探究の共同体」。コミュニティを探究の振り返りがある。最低週2回はp4cを。P4Cのようなカリキュラムはない。	人間の体験一般に共通するものをあきらかにする。参加者で共通理解を創る。対話コミュニティ(安全性、尊重態度)を大切に。P4C、p4cよりも問いはシンプル。
学習過程	主催者によって異なる	1 テーマを決める。 2 参加者の経験から問う。 3 その経験を問いつながら考える。	1 M.Lipmanが作成したテキストを読む。 2 問いづくり、問いを決める。 3 対話をする。 4 練習問題を行う。 5 振り返りする。	1 資料を読む(ないこともある。) 2 問づくり、問いを決める。 3 ルールを確認する。 4 対話をする。 5 振り返りする。	1 問題意識を出す。 2 事例を出し合う。 3 共通性を抽出する。 4 簡明に本質を表す。 5 最初の問題意識に応える。
文献	表2	堀江剛(2017)『ソクラティックダイアログ』大阪大学出版会	・M.Lipman.(1988) Philosophy Goes to School. Temple University Press ・M. Lipman (2003) Thinking In Education (2nded.).Cambridge University Press	Jackson(2001) Gently Socratic Inquiry, Arthur L. Costa (editor), published in,Developing Minds: A Resource for Teaching Thinking (3rd ed.)=中川雅道(訳)(2013)「やさしい哲学探究」『臨床哲学』14巻2号 pp.56-74	苫野一徳(2017)『はじめての哲学的思考』ちくまプリマー新書 ・西研(2020)「本質観取をどのように行うか」竹田青嗣・西研編『現象学とは何か』河出書房新社pp61-120

道徳的価値の理解が、自己をしっかりと見つめることへとつながる。そのために、価値理解の場面から、自己理解の場面へ向かう際に、再度その道徳的価値の理解を様々な面から確認し、自己や他者の意見から感じたことや考えたことを振り返ることで、道徳的行為に向かう一助になると考えられる。「子どものための哲学」の創始者であるトーマス・ジャクソンの提案する「The Good Thinker's Tool Kit WRAITEC(哲学者の道具箱)<sup>17</sup>」を生徒への問い返しに活用する。(図6)和訳から問い返しを発問を整理した。(図7)

図 6

The Good Thinker's Tool Kit  
WRAITEC  
Developed by Dr. Thomas Jackson

Good Thinker's Letter	What is it used for?	Question Stems & Claim Starters
<b>W</b> What do you mean by...?	Seeking clarity - "W" is essentially meant to capture the aspect of thinking that involves sensitivity to complexity, possible ambiguity, and multiplicity of meanings. "W" questions are clarifying questions.	<ul style="list-style-type: none"> <li>What do you mean by...?</li> <li>What does the author mean by?</li> <li>What is the...?</li> <li>What have I forgotten to ask?</li> <li>What else do I need to know?</li> </ul>
<b>R</b> Reasons	Thinking about why - "R" reflects that for a philosophical thinker it is not enough to simply offer an opinion. Opinions need to be supported by reasons. Are some reasons better than others? When we want to know WHY we ask reason questions.	<ul style="list-style-type: none"> <li>Are reasons being offered to support claims?</li> <li>What are the reasons...?</li> <li>One of the reasons...</li> </ul>
<b>A</b> Assumptions	Acknowledging/making clear what we take for granted - "A" recognizes that an important part of philosophical thinking is becoming aware of and making explicit assumptions that underlie a discussion, position, argument or presentation. Identify assumptions, recognize how those assumptions are influencing what we are seeing and judging, and identify other assumptions that can be made.	<ul style="list-style-type: none"> <li>Is it reasonable to assume...?</li> <li>Are we aware of and identifying key assumptions being made?</li> <li>An assumption embedded in this argument/claim is...</li> <li>The author is assuming...</li> </ul>
<b>I</b> Inferences	Thinking about "if...then" - "I" represents "if...then...," inferences, and implications. IF, for example, we do, or don't pursue a particular line of action, THEN what follows? What are the consequences? Inferences have a starting point (something seen, heard, smelled tasted or touched) and an ending point (to "place" the mind "over" to that beyond what was presented at the starting point). I may see a person frown (STARTING POINT) and infer they are sad (ENDING POINT).	<ul style="list-style-type: none"> <li>Is it reasonable to infer... from...?</li> <li>If... then is it reasonable to infer...?</li> <li>From... I infer...</li> </ul>
<b>T</b> Truth	Thinking about what is true, and the implications of what we think is true - "T" concerns is what's being asserted in fact true? How can we find out? What we take for granted as true must meet certain standards? What are those standards? How do we measure what's true? Even if we aren't sure if something is true can we imagine what might be the implications if it is true?	<ul style="list-style-type: none"> <li>Is what's being said true, and what are the implications if it is true?</li> <li>If... is true, then what does that imply?</li> <li>If... is true does that imply...?</li> <li>When... is true it implies...</li> </ul>
<b>E</b> Examples Evidence	Offering evidence to prove a claim is true - "E" is one way in which clarification of a position or assertion can be accomplished. It is a way of making a general claim specific or testing a claim by presenting an illustrative example. Equally important is the offering of evidence to support assertions. What is the evidence? Evidence looks different depending on the discipline you are in. What does evidence look like in science? Social studies? Math? Language Arts?	<ul style="list-style-type: none"> <li>What are some examples of...?</li> <li>Are EXAMPLES being given or is EVIDENCE being offered to support or illustrate claims?</li> <li>... is an example of...</li> </ul>
<b>C</b> Counter-Examples	Offering counter-evidence to prove a claim is not true - "C" reflects the important task of testing the limits of a claim or position by searching for a way to prove it false or at least to test the limits of the claim.	<ul style="list-style-type: none"> <li>What are some counter-examples to...?</li> <li>Are there any COUNTER - EXAMPLES to the claim being made?</li> <li>... is a counter-example to...</li> </ul>

図 7

- 1 意味を問う  
(それはどういう意味ですか)
- 2 理由を問う  
(その理由を教えてください)
- 3 前提を問う  
(それは～を前提としていませんか)
- 4 推論を問う  
(もしそうだとすると、～ということになりませんか)
- 5 真実を問う  
(それは本当でしょうか)
- 6 例を問う  
(具体的な例を挙げてくれますか)
- 7 反例を問う  
(それには～のような例外もあるのではないですか)

#### 4 研究の今後

本研究では、仮説として「道徳科における対話の工夫」に取り組み、検証する授業を実施してきた。生徒の発言や振り返り、生徒へのアンケート結果から分析を進めている。今後は検証された実践の効果や課題点を整理し、研究のまとめを行っていく。

- 1 浅見哲也・安井正樹『道徳授業の個別最適な学びと協働的な学び～ICTを活用したこれからの授業づくり～』, 明治図書, 2023年
- 2 永田繁雄 東京学芸大学「上廣道徳教育アカデミー道徳授業パワーアップセミナー 研修資料」, 2024年
- 3 O. F. ボルノー 浜田正秀訳『人間学的に見た教育学』, 玉川大学出版部, 1996年
- 4 O. F. ボルノー『O. F. ボルノー講演集 対話への教育』, 玉川大学出版部, 1974年
- 5 同上
- 6 吉田敦彦『ブーバーの対話論とホリスティック教育』, 勁草書房, 2007年
- 7 P. フレイレ『被抑圧者の教育学』, 亜紀書房, 1979年
- 8 P. フレイレ 里美実・楠原彰・桧垣良子訳『伝達か対話か』, 亜紀書房, 1982年
- 9 桑野隆『対話的流動性と創造的社会—バフチンの社会学の今日的意味—』, 岩波書店, 2002年
- 10 M. ピカード 佐藤利勝訳『沈黙の世界』, みすず書房, 1993年
- 11 多田孝志『グローバル時代の対話型授業の研究』, 教育出版株式会社, 2017年
- 12 浅見哲也「道徳教育B」講義資料, 2024年
- 13 多田孝志『対話型授業の理論と実践』, 教育出版株式会社, 2018年
- 14 服部敬一 東京学芸大学「上廣道徳教育アカデミー道徳授業パワーアップセミナー 研修資料」, 2024年
- 15 村井実『ソクラテスの思想と教育』1972年. 玉川大学出版部
- 16 町田晃大『哲学対話(p4c)の道徳』(『道徳教育12月号No. 798』, 明治図書出版, 2024年)
- 17 <https://p4chawaii.org/wp-content/uploads/PI-Good-Thinker%E2%80%99s-Tool-Kit-2.0.pdf>

## 5 埼玉県道徳教育研究大会(熊谷大会)報告

第63回埼玉県道徳教育研究大会熊谷大会

会場：熊谷市立江南北小学校

### 《研究主題》

「自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める児童の育成」

～語る・論じ合う授業実践を通して～



令和6年11月27日(水)

熊谷市立江南北小学校

# 1. 研究概要

## 研究の構想 ~グランドデザイン~

学校教育目標 やさしく かしこく たくましく  
思いやりのある子 すすんで学習する子 健康でねばり強い子

めざす学校像  
「子供を伸ばす、  
教師が生きる、  
地域に根差す学校」

自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める児童の育成  
~語る・論じ合う授業実践を通して~

### 自分の心に落とし込める場

実態に即した  
振り返り

余韻を残す  
教師の説話

自分なりの  
納得解

保護者・地域にも広める  
保護者だけの道徳授業  
親子で考える道徳授業  
返信のある[TKD通信]

### 思いや考えをより多面的・多角的に膨らませる場

伝えて  
引き出す  
キーワード

語り合い  
タイム

考えの  
見える化

行動の見える化  
ほかほかの木

### 自身や他者の思いや考えと向き合える場

## 道徳の授業

アンケートを  
活かす

実態把握

道徳教育の要 道徳科

道徳コーナー

道徳教育全体計画  
別葉の活用



TKD 集会



TKD...特別の教科道徳

葛藤コーナー



全教育活動で行う道徳教育

全教育活動で行う道徳教育

仮説1 児童が自身や他者の思いや考えと向き合える場、思いや考えをより多面的に多角的に膨らませる場、教材の内容を自分の心に落とし込める場などを意図して設定することによって、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める児童を育成できるであろう。

仮説2 児童が自身の思いや考えを「見える化」できる環境、戸惑いなく学習を進めていける環境、常時道徳性に触れられる環境を意図して整備することによって、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める児童を育成できるであろう。

児童の実態：自分の思いや考えがあっても、それを他者に伝えることに躊躇する児童が多い。  
道徳科が好きな児童が多く、自他についてよく考えるが実際の生活と結びつかないこともある。



4つの実践と3減運動



新 熊谷プロジェクト



指導の指針

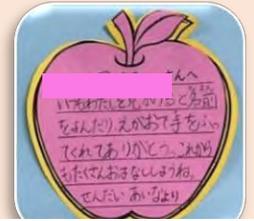


道徳の見える化

学びの土台

# 環境部

～道徳教育の充実を図る～



## 1 自分の思いや考えを「見える化」できる環境

### (1) ぽかぽかの木



友達にしてもらって嬉しかったことや自分がしたよい行いなどを「ぽかぽかの実」に書いて掲示することで、児童の思いや考えを「見える化」してきた。実際に書かれている内容から、道徳の授業で学んだ道徳性が、行動に結びついていることがわかる。

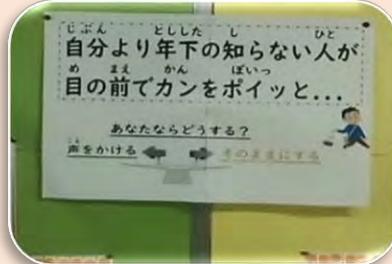
また、「ぽかぽかの実」に書かれた内容は給食の時間に放送で紹介している。

相手にしてもらった実



自分で行動できた実

### (2) 葛藤コーナー



日常生活でありそうな2択の問いを掲示し「あなたならどうする?」と、児童が自分の考えで意思決定をして、シールを貼るコーナーを設置した。シールを貼るときには、その理由も考えながら貼り、TKD集会で友達に伝えられるようにした。

## 2 戸惑いなく学習を進めていける環境

### (1) TKD 集会 (TKD…特別の教科 道徳)



なんでそう思ったの?

友達の考えを聞いて…。

全校児童が体育館に集まり、縦割りグループで葛藤コーナーの問いについて語り合う「TKD集会」を実施している。異学年間の交流を通して、相手の立場による考え方の違いを感じる機会になっている。

## 3 常時道徳性に触れられる環境

### (1) みんなの座右の銘・大切な言葉



児童が大切にしている言葉を集めて、紹介するコーナーを設置している。映像を見ながら語り合っている。

### (2) ふわふわ言葉・ちくちく言葉



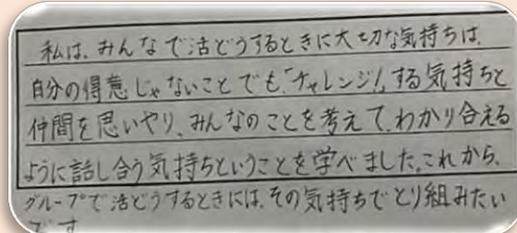
言われて嬉しくなる言葉と悲しくなる言葉を掲示して、「言葉のもつ力」を確認するコーナーを設置している。

### (3) 教員向け道徳コーナー



他学級の道徳科授業の様子が分かるように板書の写真、授業後の振り返り、児童のワークシートを職員室前の廊下に掲示している。

### (4) 教室の道徳コーナー



道徳の授業後に板書や学習の振り返り等を教室の後方に掲示して、児童相互で共有している。担任の思いや本校の合言葉も掲示している。

江南北小の道徳合言葉

T…とことん考え

K…懇々語り

D…どんでんやろう!

# 授業・調査部

～道徳性を養う授業を目指す～

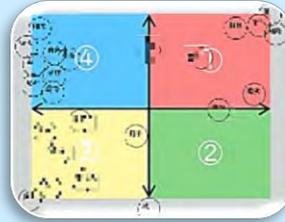
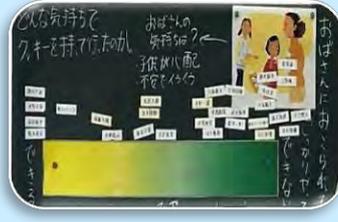
自分の考えを伝えたり、友達の考えと比較したりしながら語り合う。自他の考えを尊重しながら主体的に語り合うことを目指した。

## 1 児童への手立て

### (1) 考えの見える化



【心のバロメーター】

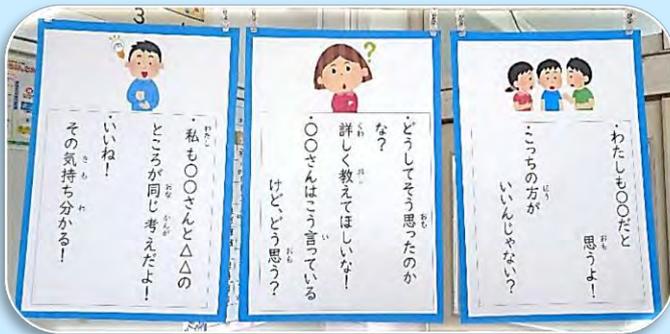


思考ツールを効果的に活用することで・・・

### (2) 語り合いタイムにおけるキーワードの掲示・活用

語り合いタイムとは、本校における児童同士で考えを伝えたり受け取ったりしながら考える時間のこと。全教科で意識して実施している。その語り合いタイムがより深まるためにキーワードを作成した。

語り合いタイム



### (3) 学校共通の道徳ファイル・ワークシートの作成



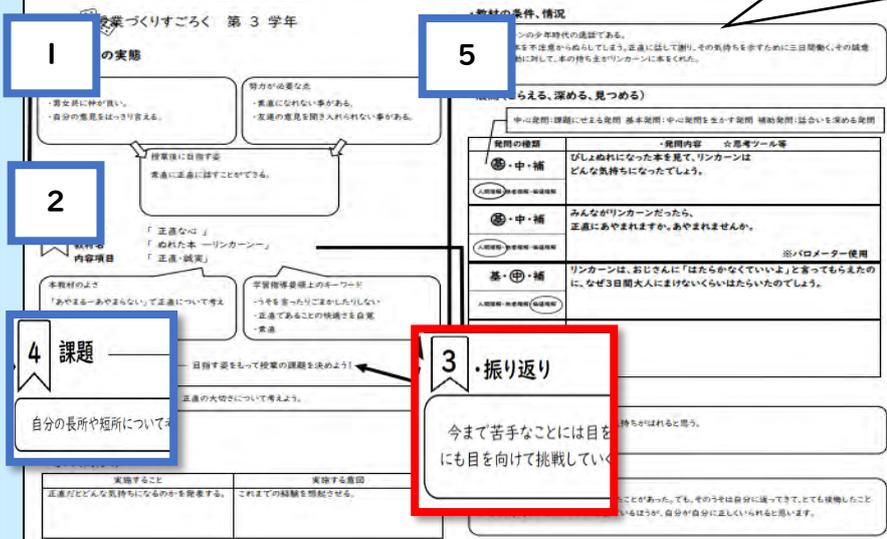
### 道徳ファイル ワークシートの特徴

- ・教材や実態に合わせて活用できるように上段をフリースペースとした。
- ・道徳ファイルにワークシートを綴じこんでいき、考えの軌跡を残せるようにした。
- ・今までの自己の生活を振り返りながら、教材を基に考えたことを記入する。

## 2 教師への手立て ～ 授業改善に向けて ～

### (1) 授業づくりすごろくの作成

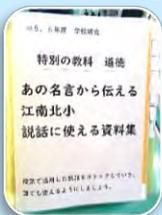
本校独自の授業づくりシート。特徴は、教師の期待する振り返りから課題を設定すること。



- 1 児童の実態、目指す姿
- 2 主眼名、教材名、内容項目  
教材のよさ、学習指導要領のキーワード
- 3 教師の期待する授業の振り返り
- 4 課題
- 5 授業の流れ  
条件情況、導入、展開(基本発問、中心発問の確認・道徳的諸価値についての理解の確認) 終末

教材について考えるにあたり、「すごろく」のように行ったり来たりするイメージで作成した。毎時間作成して、授業づくりと改善に活かしている。

### (2) 説話集・資料集の作成



### (3) 職員による学びの場【ゆる～く学習会(ゆる会)】

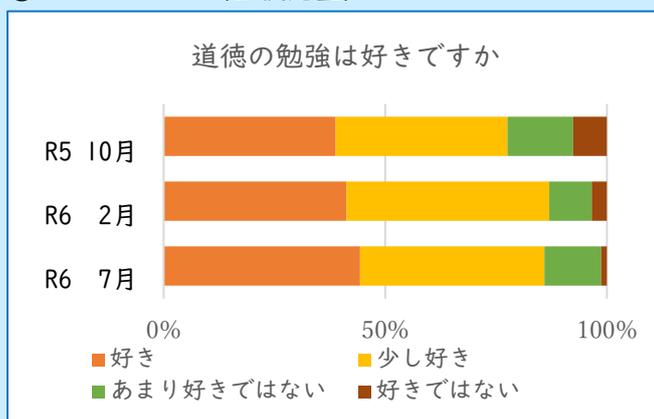


### (4) 一人一授業

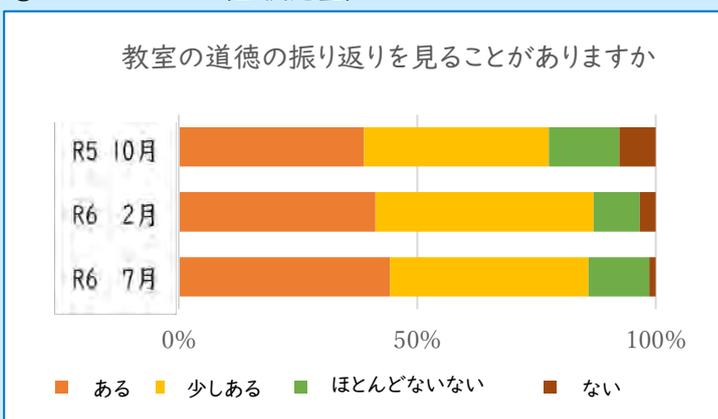


## 【各種アンケート結果等からの考察】(TKD…特別の教科 道徳)

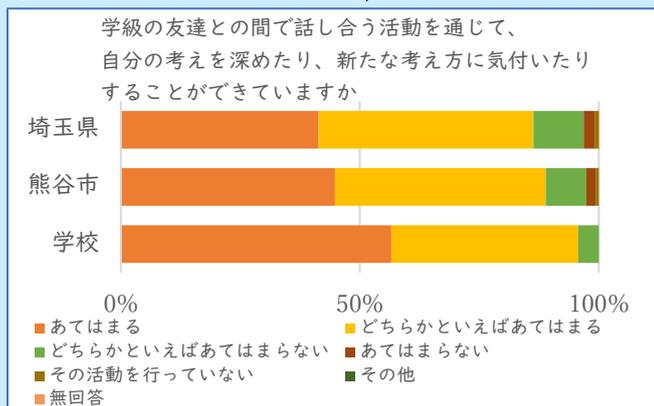
### ①TKDアンケート(全校児童)



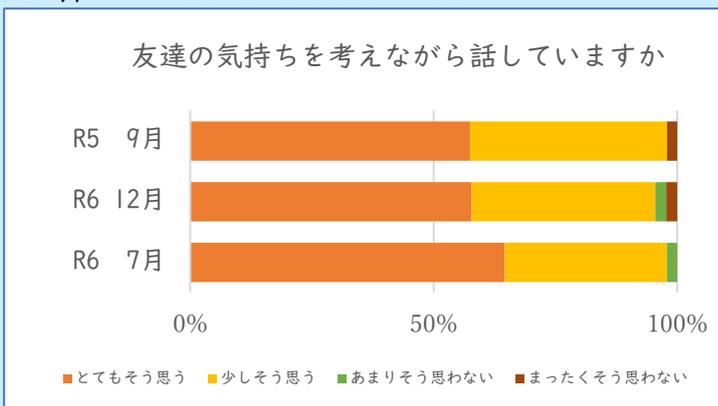
### ②TKDアンケート(全校児童)



### ③全国学力・学習状況調査(R6 4/18実施 第6学年児童24名)

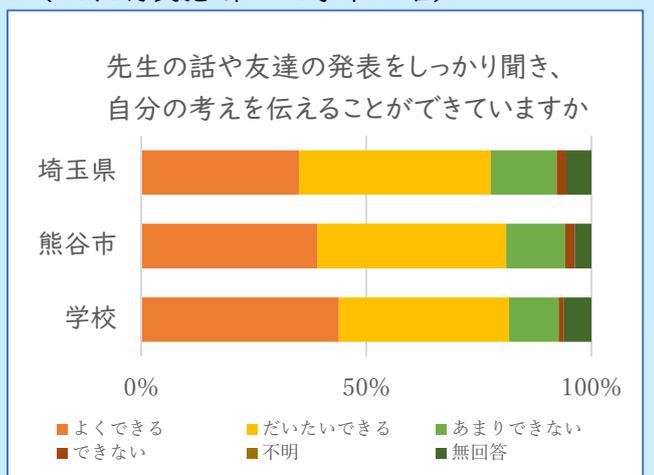


### ④hyper-QU(第5、6学年児童52名)



### ⑤埼玉県・学力学習状況調査

(R6、5月実施 第4～6学年92名)



### ⑥その他の取組

地域・保護者を巻き込んだ内容

【授業参観で親子道徳】

【保護者から返信のあるTKD通信】



子供と語り合ってみました。「難しいなあ」と言いながら、自分の想いを話してくれました。相手のことを思うからこそ、どう伝えたらよいか悩んでいました。これからは色々なことを考え、磨いて、思い回りの心を育てていって欲しいと思います。

## 【成果と課題】

### 〈成果〉

- ①のグラフの結果から、本研究によって道徳好きな児童が増えたことが分かる。これは、児童の実態から仮説を立て、手立てを講じ、様々な取組を行ってきた成果であると考えられる。
- ②のグラフの結果から、友達の考えを見えるようにすることで、自他の考えの共有につながった。これは自身の思いや考えを「見える化」できる環境や常時道徳性に触れられる環境を整えた成果だと考えられる。(仮説2)
- ③と④のグラフの結果から、本研究の道徳科や道徳教育の様々な手立て(語り合いタイム、TKD集会など)によって、自身や他者の思いや考えと向き合える場や、思いや考えをより多面的・多角的に膨らませる場を整えた成果であると考えられる。(仮説1)
- ⑤のグラフの結果から、埼玉県が取り組んでいる「規律ある態度」の課題の一つである「話を聞き発表する」項目が埼玉県や熊谷市と比べて高い数値であった。本校の研究主題の「語る・論じ合う授業実践」に向けて、互いの考えを深めるために、友達に分かるように思いを届けたり、届けられた思いに対して共感したり、疑問を投げかけたりする取組を継続的に行った成果であると考えられる。(規律ある態度)
- ⑥の取組から、学校教育だけでなく、家庭や地域を巻き込んで、道徳性を養うことができた。

### 〈課題〉

- 今後は、場づくりや環境設定の工夫に加え、教材の価値にせまる切り返しや振り返りの生かし方も研究し、児童が自分事として道徳的価値を捉え、自己の生き方について自ら問いかけ、よりよい生き方を求め続けられるようにしていく。
- 引き続きすべての教科で語り合いタイムを位置づけ、子供と教師、子供同士が向かい合いながら学びを深めていく。



### 3. 研究授業

(1) 3年生

1 主題名 よい友達に 内容項目【B 友情、信頼】

2 ねらい 思いや理由を考える活動を通して、本当の友達の意味に気づき、友達を大切にしようとする態度を育てる。

教材名 なかよしだから (出典 東京書籍(新編) 新しい とうとく)

#### 3 学習指導過程

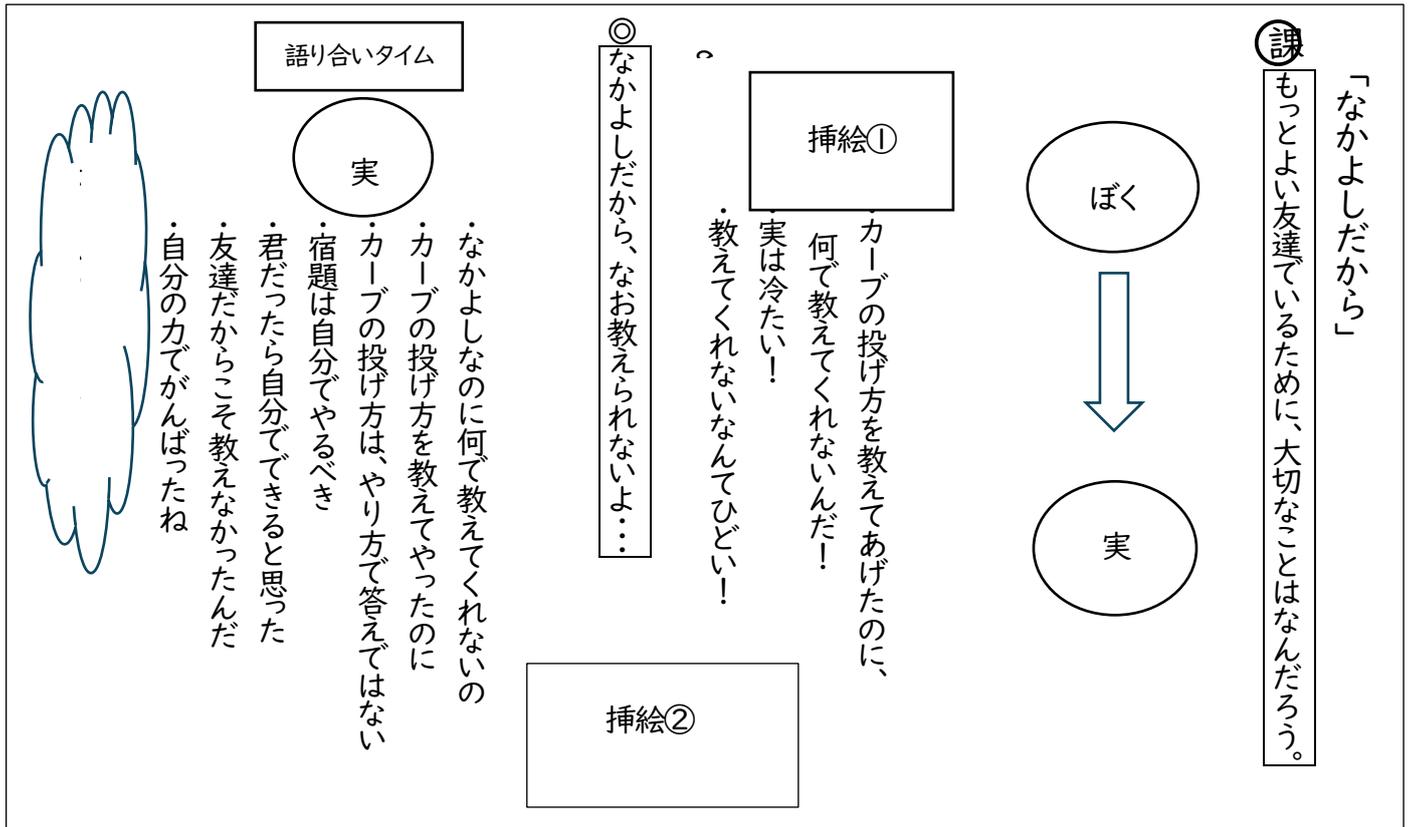
段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	・指導上の留意点(配慮・手立て) ◎評価の視点 ☆語り合いタイム
導入	<p>1 事前アンケートの結果を提示し、「友達の存在」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とはどんな人か。</li> <li>・友達が困っていたらどうしますか。</li> <li>・友達にお願いされたらどうしますか。</li> </ul> <p>◎補 友だちなのに助けももらえなかったら、どう思いますか。</p> <p>◎補 いい友達とは、どんな友達のことだと思いますか。</p> <p>2 本時の課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>もっとよい友達がいるために、大切なことはなんだろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に遊んでくれる人</li> <li>・助けてくれる人</li> <li>・お願いを聞いてあげる人</li> </ul> <p>・心のバロメーター</p>  <p>スッキリ                      もやもや</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな悩みも聞いてくれる人</li> <li>・忘れ物をしたら、貸してくれる人</li> </ul>	<p>・指導上の留意点(配慮・手立て) ◎評価の視点 ☆語り合いタイム</p> <p>○事前にアンケートを行い、友達の存在について考え、友達のよさについて振り返られるようにする。</p> <p>○日々の生活の中で、友達がいけないことをしていた時にどうしていたかを想起させ、その時の気持ちや理由を振り返られるようにする。</p> <p>○様々な場面での友達の存在を想起させながら、どんな友達が本当の友達なのかを問うことで、本時の道徳的諸価値についての問題意識をもたせ、課題につなげられるようにする。</p> <p>○心のバロメーターを使用する。自分の考えを見える化することで、考えを明確にしたり、自他の考えを比較させたりする。</p> <p>○児童が考える「友達像」と、「友達なんて教えてくれない」ことの、異なる「友達像」を想起させ、そこから浮かび上がった疑問から、「もっとよい友達がいる」というテーマで児童に課題をもたせたい。</p>
展	3 資料について確認する。		○教師による読み聞かせを行い、児童

開 ら え る	<p>・登場人物、条件、状況</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>登場人物 ぼく 実 条件・状況</p> <p>「ぼく」は、忘れた算数の宿題の答えを、仲良しの実さんに教えてもらおうと思いつく。前日、カーブの投げ方を教えてあげたから、そのお返しに教えてくれるだろうと考えたのである。ところが、実さんに「なかよしだから、なお教えられないよ。」と断られる。</p> </div>		<p>一人一人が条件や状況を理解できるようにする。</p> <p>○登場人物や状況等を黒板に常に掲示しておくことで、児童が教材の内容を把握し、戸惑いなく考えられるようにする。</p>
深 め る	<p>4 主人公「ぼく」の思いや行動を中心に話し合う。</p> <p>⑨ 宿題を忘れたとき、どんな気持ちになりますか。</p> <p>(1) 答えを教えてもらえなかった「ぼく」は、どんな気持ちだっただろう。</p> <p>(2) 実さんは、なぜ「なかよしだから、なお教えられないよ。」と言ったのだろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆語り合いタイムの視点</p> <p>・カーブの投げ方を教えてもらうこと、宿題の答えを教えてもらうことは同じことなのか。</p> <p>・「ぼく」が手をあげているのを見て、実がにっこりしたのはなぜか。</p> </div>	<p>・大変だ。</p> <p>・先生に注意される。</p> <p>・どうしよう……。</p> <p>・何で教えてくれないんだろう。</p> <p>・カーブの投げ方を教えてあげたのに。</p> <p>・友だちが困っているのにひどいよ。</p> <p>・カーブの投げ方は、やり方だから、宿題の答えとは違う。</p> <p>・本当の友達だからこそ教えないんだ。</p> <p>・自分のことは自分でやらなければいけない。</p> <p>・自分で忘れた宿題は、自分の力でできるから、自分でやるべきだ。</p>	<p>○前日にカーブの投げ方を教えてあげたのに、宿題の答えを教えてもらえなかったぼくの気持ちに共感できるようにする。</p> <p>○補助発問で行うことで、「ぼく」の気持ちにより共感できるようにする。</p> <p>○実に対して「何で」という感情を取り上げ、「ぼく」の気持ちに共感できるように問い返しを行う。</p> <p>☆「実」の気持ちについて、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個人→グループ→全体</span>の順で共有することで、自分の考えを伝えたり、多様な価値観に触れたりできるようにする。</p> <p>○語り合いの際に、「カーブの投げ方と宿題の答えを教えること」や「実がにっこりしたのはなぜか」といった視点を与えることで、多面的、多角的に考えられるようにする。</p> <p>○語り合いに入る前に、2つの語り合いの視点を全体に知らせ、児童が語り合う中で、語り合いのヒントとなるよう板書に提示する。</p> <p>○実の気持ちの理解を深めるために、2つの視点を考えさせることにより、ぼくと実の気持ちを比較させる。</p>

	<p>(3) 実さんは、「ぼく」にどんなことを伝えたかったのだろう。</p> <p>⑩ 友だちなのに助けてもらえなかったら、どう思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の力でできたね。</li> <li>・自分の力で頑張ったね。</li> <li>・君ならできると思ったよ。</li> <li>・友達でも、友達のためにならない時は、ことわることも大切だ。</li> </ul> <p>・心のバロメーター</p>  <p>スツキリ                      もやもや</p>	<p>○語り合いを(2)と(3)の二部に分け、「実さんはぼくにどんなことを伝えたかったのか」を考えさせることで、更に価値理解を深めていく。そして、その後の振り返りに繋げられるようにしていく。</p> <p>○導入と同じ発問をすることで、「もっとよい友達でいるために」についての考えを深めた今の気持ちを可視化させ、その理由について、教師が児童に問うことで、価値理解や自己理解を深めていきたい。</p> <p>○大型 TV に、クラス全員の「心のバロメーター」を映す。友達の気になる考えにインタビューさせ、多様な価値観を共有する。</p>
見 つ め る	5 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までは、友達なら教えてあげることが大切だと思ったけど、友達のことをよく考えられることがよい友達だと思う。</li> <li>・友達がズルいことをしていたら注意する。</li> <li>・友達に頼まれても、よいことか悪いことか考えることが大切だと気付いた。</li> <li>・相手を大切にする。</li> <li>・相手と分かり合うこと。</li> <li>・相手の気持ちを考える。</li> </ul>	<p>○語り合いタイムで話し合ったことを生かしながら考えさせる。</p> <p>○アンケート結果や、課題に触れることで、改めてこれまでの自己を見つめ直し、教材から離れ一般化しながら振り返りが書けるようにする。</p> <p>◎教材の内容を自分事として捉え、「もっとよい友達でいるために、大切なことはなんだろう。」について考えている。(ワークシート)</p>
終 末	6 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「友達はいいもんだ」の曲を聴いて、友達についての想いを深める。</li> </ul>	<p>○教師の投げかけにより、「もっとよい友達でいるために」について余韻を残して終わるようにする。</p>

※子どもたちが、ねらいとする道徳的価値に対する納得解をもつ。

#### 4 板書計画



#### 5 他の教育活動との関連

事前指導	朝の会で「友達とはどのような存在か」「友達」について、児童の実態を把握するためにアンケートを実施する。
道徳科	教材名「なかよしだから」 登場人物に自我関与し、友情について多面的・多角的に考えることを通して、友達のよさを理解し、友達を思った言動をするなど、よりよい友達関係を築こうとする心情を育てる。
事後指導	道徳教育の一環として全校で取り組んでいる、友達のよいところや自分が友達に行ったよい行いを掲示する活動「ぽかぽかの木」を通して、友達のよいところを見つけ、自分と友達の関係について考え、友達とはどんな存在であるか気付かせる。
家庭との連携	本時の学習内容や児童の振り返りを、道徳コーナーに掲示し、家庭でも友達と仲良くできた経験などを話題にもらい、考える機会とする。

#### 6 評価の視点

##### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

・語り合いタイムにおいて、「ぼく」の気持ちだけでなく、実の気持ちやその時の状況について考えている。

##### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

・語り合いタイムで自我関与し、グループや全体で考えを語り合ったり、振り返り活動において、自己を振り返ったりしながら「友情、信頼」について考えている。

(2) 6年生

1 主題名 相手の立場になって 内容項目【B 相互理解、寛容】

2 ねらい 相手と関わる時に大切なことは何かを考えるを通して、広い心で、自分とは異なる立場で物事を考えることの大切さに気づき、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の気持ちや考えも尊重しようとする態度を育てる。

教材名 友とのトラブル（出典 彩の国の道徳「夢に向かって」埼玉県教育委員会）

3 本時の学習指導過程

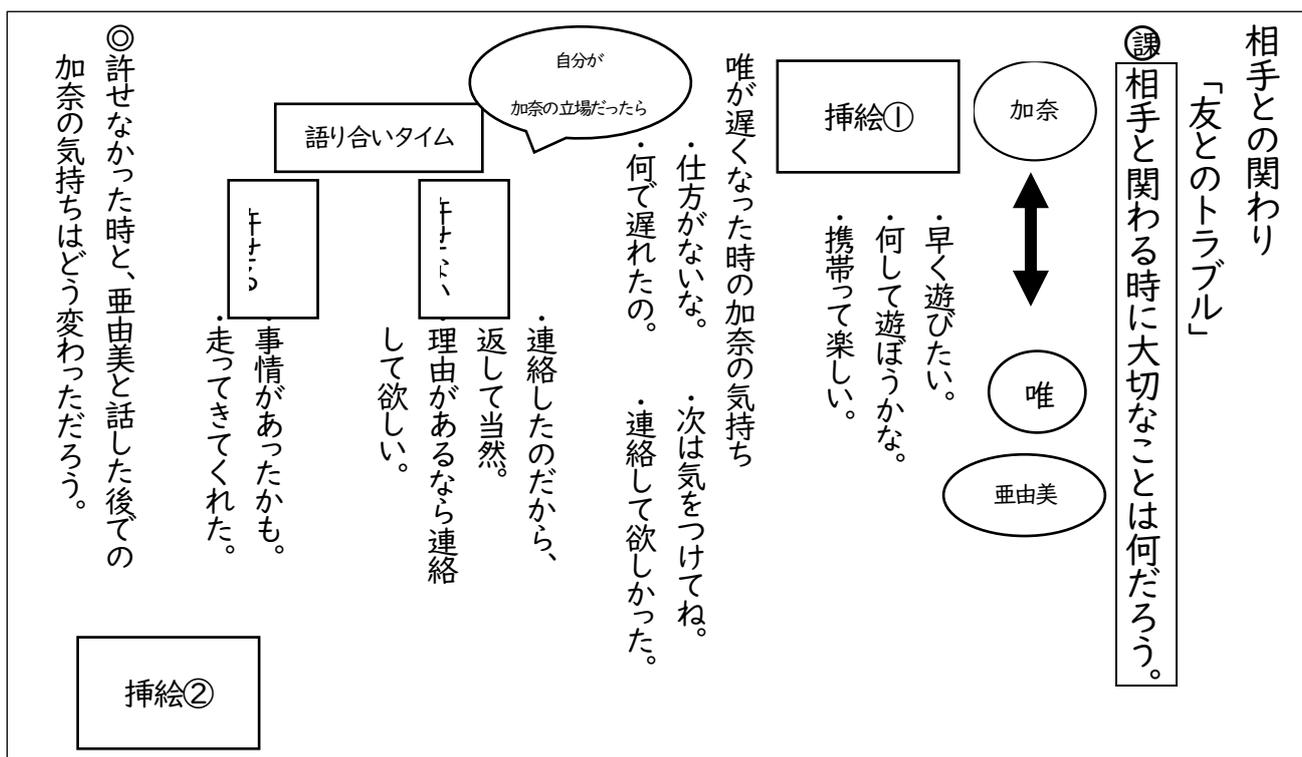
段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	○指導上の留意点(配慮・手立て) ◎ 評価の視点 ☆語り合いタイム				
導入	<p>1 事前アンケートの結果を提示し、「相手との関わり」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とうまくいかなかったこと</li> </ul> <p>2 本時の課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     相手と関わる時に大切なことは何だろう。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けんかをしてしまった。</li> <li>・意見が合わなかった。</li> <li>・言い合いをしてしまった。</li> <li>・自分のことを分かってくれない。</li> </ul>	<p>○事前アンケートを行い、学校内外問わず、日常生活で相手と上手くいかなかったことを想起することで、これまでの経験を振り返られるようにする。</p> <p>○普段は仲良く過ごしているが、なぜ時にはうまくいかない時があるのかを問うことで、本時の道徳的価値についての問題意識をもたせられるようにする。</p>				
展開	<p>3 資料について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物、条件、状況</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">登場人物</td> <td>加奈、唯、亜由美</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">条件・状況</td> <td>加奈と亜由美が携帯電話のメールを通してやり取りをし、この後遊ぶ約束をする。また、加奈はそのことを唯にも連絡しておいてねと亜由美にお願いをする。</td> </tr> </table> </div> <p>4 教師による読み聞かせを聞く。</p>	登場人物	加奈、唯、亜由美	条件・状況	加奈と亜由美が携帯電話のメールを通してやり取りをし、この後遊ぶ約束をする。また、加奈はそのことを唯にも連絡しておいてねと亜由美にお願いをする。		<p>○登場人物や状況等を黒板に常に掲示しておくことで、児童が教材を整理したり、戸惑いなく考えたりできるようにする。</p> <p>○教師による読み聞かせを行い、児童一人一人が条件や状況を理解できるようにする。</p> <p>○ここでは教材の前半部分、「強い口調で言った。」までを読み聞かせることで、教材の展開に左右されることなく、自分事として考えさせる。</p>
登場人物	加奈、唯、亜由美						
条件・状況	加奈と亜由美が携帯電話のメールを通してやり取りをし、この後遊ぶ約束をする。また、加奈はそのことを唯にも連絡しておいてねと亜由美にお願いをする。						

<p>深める</p>	<p>5 主人公「加奈」の思いや行動を中心に話し合う。</p> <p>(1) 携帯を持ち始めて、遊ぶ約束をしている時の加奈の気持ちを考えよう。</p> <p>(2) 唯が遅くなった時の、加奈の気持ちを考えよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆語り合いタイムの視点</p> <p>・自分が加奈の立場なら遅れてやってきた唯に対してどう思うか考える</p> </div> <p>(3) 許せなかった時と亜由美と話した後での加奈の気持ちはどう変わっただろう。</p>	<p>・やっと仲間に入れた。</p> <p>・早く遊びたい。</p> <p>・何して遊ぼうかな。</p> <p>・携帯って楽しい。</p> <p>・仕方ないな。</p> <p>・次は気をつけてね。</p> <p>・何で遅れたの。</p> <p>・連絡して欲しかった。</p> <p>・どれだけ待たせるの。</p> <p>☆加奈の立場だったら</p> <p><b>許せる</b></p> <p>・事情があったのでは。</p> <p>・仕方ない。</p> <p>・携帯をいつも見ているわけではないから、連絡できない時もある。</p> <p><b>許せない</b></p> <p>・1時間も待った。</p> <p>・連絡したのだから、返して当然。</p> <p>・理由があるなら連絡してほしい。</p> <p>・唯の立場が理解できた。</p> <p>・広い心で接していなかったな。</p> <p>・自分勝手に怒ってしまったんだ。</p>	<p>○友達と携帯電話で遊ぶ約束をしている気持ちの高まった加奈に共感できるようにする。</p> <p>○様々な加奈の気持ちを出させることで、語り合いタイムの際に生かせるようにする。</p> <p>○多面的・多角的な視点から、価値の多様性を見取り、受け止めながら児童に問い返しをする。</p> <p>○唯が遅れてきた時点で、自分が加奈の立場だったら許せるか、許せないかを問うことで、自我関与しながら考えさせる。</p> <p>○心のバロメーターを使用する。自分の考えが見える化することで、考えを明確にしたり、語り合いの際に自他の考えを比較しながら考えを広げたり深めたりできるようにする。</p> <p>☆語り合いタイムの際は、語り合いの視点を黒板に掲示しておくことで、全員が加奈の気持ちに自我関与しながら考えられるようにする。</p> <p>○唯に事情があったのではないかと、という児童の声を生かし、唯の事情を知らせる。</p> <p>☆「自分が加奈の立場だったら」について <b>個人→グループ→全体</b> の順で共有することで、自分の考えを伝えたり、多様な価値観に触れたりできるようにする。</p> <p>○語り合いタイム終了時に、気持ちに変化があった児童のその理由や考えを全体で共有する。</p> <p>○教材の後半部分、唯は「今日は…」を読み聞かせ、その後の状況整理をしたり、価値理解への手立てとしたりする。</p> <p>○語り合いタイムで話し合ったことを生かしながら考えられるようにする。</p>
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>⑥ 加奈は唯の家に行った後、どんなことを話しか考えましよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・唯の事情を素直に受け止められなくてごめんね。</li> <li>・私達のことを思って、わざわざ走ってきてくれてありがとう。</li> </ul>	<p>○初めは唯のことが許せなかったことを振り返らせることで、加奈の気持ちの変化に気付けるようにする。</p> <p>○5(3)を踏まえた上で、加奈の発言や、その意図について考えることで、価値理解を深められるようにする。</p>
見 つ め る	6	振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までは、自分の考えを押し付けていたり、相手のことを考えていなかったりしたので、上手いかなかったのだと思う。お互いの気持ちを尊重しながら生活することが大切だと思った。</li> <li>・広い心で接したい。</li> <li>・友達には、優しく接することが大切だと思った。</li> </ul>	<p>○再度導入のアンケート結果や、課題に触れることで、改めて自己を見つめ直し、一般化させながら振り返りを書くよう指導する。</p> <p>◎教材の内容を自分事として捉え、「相手と関わる時に大切なこと」について考えている。 (ワークシート)</p>
終 末	ま と め る	7 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の説話により、「相手との関わり」について意識しながら生活していこうと思えるように余韻を残す。</li> </ul>

※子どもたちが、ねらいとする道徳的価値に対する納得解をもつ

#### 4 板書計画



## 5 他の教育活動との関連

事前指導	<p>修学旅行のグループ決め。</p> <p>事前アンケートを行い、「相手との関わり」についての意識調査をしたり、実体験等を挙げさせたりする。</p>
道徳科	<p>教材名「友とのトラブル」</p> <p>登場人物について自我関与したり、多面的・多角的に考えたりすることを通して、相手と関わる時には自分の気持ちを伝えるだけでなく、相手の立場になって物事を考えることの大切さに気付き、よりよく相手と関わっていくことの態度を育てる。</p>
事後指導	<p>学級会や各教科の話合いの際に、自分の考えを押し付けるのではなく、相手の考えや意見も尊重しながら話し合うことの大切さに気付かせる。</p> <p>各行事等の役割を決める際に生かしていく。</p>
家庭との連携	<p>本時の学習内容や児童の振り返りカードを、道徳コーナーに掲示したり、学年便りに記載し家庭に共有したりすることで、「相手と関わる時に大切なこと」について話題にもらい、家庭で考える機会とする。</p>

## 6 評価の視点

### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

・語り合いタイムにて、唯や亜由美の立場でも考え、自分だけに留まらず相手のことも意識しながら話し合っている。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

・語り合いタイムで自我関与し、グループや全体で考えを語り合ったり、振り返り活動において、自己を振り返ったりしながら「相互理解、寛容」について考えている。

熊谷市立江南北小学校 パネルディスカッション

テーマ  
『豊かな心を育む道德教育の充実』に向けて

熊谷市教育委員会 学校教育課 松浦達也 指導主事  
本庄市立児玉小学校 笹澤有香 教諭  
蕨市立塚越小学校 島藤和也 教諭  
熊谷市立江南北小学校 山崎幸子 教諭

『豊かな心を育む道德教育の充実』に向けて

視点①

道德教育を充実させる取組について

①道德教育を充実させるための取組について

葛藤コーナーの設置 → TKD集会

自分の考えをもち、相手に  
思いを伝え、相手の考えを  
受け入れる場を意図的に  
設定。



①道德教育を充実させるための取組について

4月 道德研修の実施

校長の「道德教育の重点目  
標」を全員で確認。



“全教育活動を通じて行う道  
徳教育”を意識。



①道德教育を充実させるための取組について

重点内容項目に特化した  
別葉の作成と見直し

自校の重点内容項目を意図  
的に指導できるよう、重点内容  
項目との関連だけを明記した  
別葉を作成、夏休みを利用し  
て見直し。

単元	重点内容項目	指導内容	別葉
1. 道徳の基礎	道徳の基礎	道徳の基礎	道徳の基礎
2. 道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展
3. 道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用
4. 道徳の統合	道徳の統合	道徳の統合	道徳の統合

No.1 ①道德教育を充実させるための取組について(熊谷市教育委員会)

「道德の見える化」リーフレット

熊谷市独自の  
「道德の見える化」

道德科は、道德教育の「要(かなめ)」  
計画的に発展的な指導を。



No.2 ① 道徳教育を充実させるための取組について(熊谷市教育委員会)

「考え、議論する道徳」授業づくりに向けて

- 内容項目からブレない授業
- 心の変容を見える化する授業
- 自分事として考える授業
- 多様な価値観に触れる授業
- 多面的・多角的に考える授業
- ねらいとする道徳的価値に沿ったため



No.3 ① 道徳教育を充実させるための取組について(熊谷市教育委員会)

「道徳の見える化」授業の工夫例



No.4 ① 道徳教育を充実させるための取組について(熊谷市教育委員会)

「道徳の見える化」に向けて

- 実生活における「道徳の見える化」
- 家庭との連携
- 道徳科の評価
- 熊谷の子どもたちは、これができます!  
『4つの実践』と『3減運動』



『豊かな心を育む道徳教育の充実』に向けて

視点②

「彩の国の道徳」を活用した取組について

②「彩の国の道徳」を活用しての取組について

「彩の国教育週間」で活用

道徳の授業で考えたことを家庭でさらに語り合い、深めていく取組。



②「彩の国の道徳」を活用しての取組について

授業参観で全学級年間1回道徳授業を公開

彩の国の道徳 新教材「未来に生きる」の活用



②「彩の国の道徳」を活用しての取組について

他教科との関連を意識した計画

郷土の偉人を取り扱う教材について「総合的な学習の時間」との関連において計画。



7 「盲目の学者『萬保己一』」  
彩の国の道徳 夢にむかって  
(小学校高学年)

②「彩の国の道徳」を活用しての取組について(熊谷市教育委員会)

マンガで紹介

萩野吟子 女医のバイオニアは埼玉出身!

- ・ 埼玉県、熊谷市・市史編纂室、熊谷女子高校マンガ愛好会の生徒が協力して作成。
- ・ 市内中学1年生全員に配布するとともに小学校全校図書室に配架。
- ・ 地域教材として活用し、郷土愛の醸成に役立てる。



『豊かな心を育む道徳教育の充実』に向けて

「道徳教育」を充実させるために、日頃から大切にしていること

## (5) 参観者の感想

### <3年生を参観して>

- ・本日はありがとうございました。先生と子どもたちの関係がとてもすてきてました。また、子どもたちの考えを深めるための工夫や語り合うための工夫が散りばめられた素晴らしい授業でした。
- ・とても素晴らしい授業を見せていただきありがとうございました。山崎先生の字がとてもきれいでした。
- ・語り合いタイムの質の高さに感心しました。学級で行ったら、ただの発表会になったり、話せない子に「話して」と言って深めることができずに終わっているグループがありました。視点や話合いの深め方を浸透させていくことが大事なのだと感じました。語り合いは、むしろ聞くことの方が大切で、そこが学級経営の要だと改めて思いました。
- ・学び合いのグループ活動のときに一人一人が自分の考えを持って話し合っていたのが良かったです。
- ・児童の発言を取り上げながら、児童主体で授業を進めていて大変勉強になりました。

### <6年生を参観して>

- ・広い教室を用意していただけたので、とても見やすかったです。頑なに「許さない」と言っていたので、最後はどのような気持ちで終わったのかすごく気になりました。振り返りには、何が大切かはわかっていたようですが、実生活に活かせるのか気になりました。そのような児童をどう取り上げるのか、道徳をやっていく上で大切になるのかなど改めて考えることができました。
- ・板書や発問を何度も何度も練り直したのだろうなと感じ、ただただ頭の下がる思いです。6年生ながら(という表現が適切か分かりませんが)先生の発問に対して一人一人が真剣に受け止め、考え、それをもとに語り合う。まさに、今の時代の道徳に求められている形なのだろうなと感じるとともに、普段、自身が行なっている道徳の授業を振り返ると恥ずかしくなっていました。とても収穫の多い授業でした。
- ・語り合いタイムでは、毎時間の積み重ねが生きているなと思いました。私も頑張ってみたいです。
- ・授業の始まる前と始まってからの生徒の姿勢の変化が素晴らしかった。道徳の授業をする、活動するという気持ちの切り替えがよくわかるくらい授業規律がしっかりとしていた。
- ・子どもたちが素直に自分の意見を言い合える、語り合える、とても良い雰囲気が作り上げられていると感じました。
- ・明るく伸び伸びとした子どもたちに対して、担任の先生の落ち着いた問いかけや説話が印象的でした。メリハリがありよい学級経営をされている様子が見受けられました。
- ・先生の発問に対する生徒の反応がよく、テンポよく授業が進み、話合いの時間や書く時間が十分確保されていました。グループワークの際に途中でメンバーチェンジがあってもスムーズに活動が進むところに驚きました。

### <2学年とも参観して>

- ・ICTの効果的な活用について、導入場面やあらすじの紹介、メタ文字でのバロメーター共有など、たくさんの場面で使われていてとても参考になりました。
- ・どちらのクラスも道徳の授業に主体的な態度で取り組んでいる姿を見て、子供たちをしっかりと育てられていると感じました。
- ・子ども達が、すぐ話し合いを始められて、みんな自分の考えを言えるということ、また、問い返しをする姿を見て、TKDの取り組みでついた力が生きているのを感じました。
- ・子供たちが話合いに慣れていて、とても温かていい雰囲気でした。道徳はまずはそこからのスタートなんだろうな、と思い、ここまでの先生方の学級経営の賜物だと感じる事ができました。素晴らしい授業でした。ありがとうございました。

## 6 道德教育研究大会報告等

第60回全国小学校道德教育研究大会 徳島大会の報告

報告者 寄居町立鉢形小学校 教諭 木村 洋介 先生

第58回全日本中学校道德教育研究大会 神奈川大会の報告

報告者 埼玉県道德教育研究会副会長（加須市立志多見小学校長） 寺井 次郎 先生

第58回関東地区小学校道德教育研究大会 千葉大会の報告

報告者 越谷市立西中学校 教諭 宮崎 里美 先生

第58回関東地区小学校道德教育研究大会 千葉大会 課題別分科会

第6分科会提案資料 提案者 越谷市立蒲生南小学校 教諭 杉之原美香 先生

## 第60回全国小学校道徳教育研究大会 徳島大会の報告

報告者 寄居町立鉢形小学校  
教諭 木村 洋介

令和6年11月14日(木)、15日(金)の両日で、『自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きる子供を育てる道徳教育』を大会主題に掲げ、盛大に開催されました。第1日は、徳島市立国府小学校で公開授業と研究協議が、第2日は、ザ・グランドパレスで課題別分科会、あわぎんホールにて基調提案と指導講話、記念講演が行われました。

第1日の国府小学校では、上記の主題を受け、各学年2学級で授業公開がなされました。どの学級も、共通の「授業構想シート」を活用し、子供の学びの姿を想定した指導過程が構想されていました。授業では、教師が「ファシリテーター」として意見をつなぐ役割だけでなく、「ジェネレーター」として話合いに参加しており、議論が深まる取組となっていました。

第2日は、6つの分科会から開催されました。第3分科会『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を図る授業の工夫」では、入間市立豊岡小学校 岩原綾香教諭から、「子供も教師も心が動く道徳教育の実践～自己マスターの視点を通して～」のテーマのもと、「道徳科の授業実践」や「全教育活動を通じて行う道徳教育の取組」等の提案がありました。道徳科の授業の指導方法に対して多くの質問が寄せられ、道徳科の充実への関心の高さが感じられました。

次に、「自己の生き方についての考えを深める道徳科の指導の充実」と題して、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 堀田竜次先生による指導講話がありました。「道徳科の目標」について、国府小学校での公開授業と関連させながら、具体的にお話をいただきました。また、道徳科の評価について、指導と評価の一体化に向けたご指導をいただきました。

最後に『『よりよく生きる』ということ～作品に託す願い～』と題して、児童文学作家 くすのきしげのり氏による記念講演がありました。作品に対する熱い思いと、心温まる作品の朗読に、会場が涙する感動的な講演となり、全国大会が締めくくられました。

教科化となり小学校では7年目を迎えた今、すべての子供たちの可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた質的転換の必要性を強く感じた研究大会でした。

## 第58回全日本中学校道徳教育研究大会 神奈川大会の報告

埼玉県道徳教育研究会副会長 寺井 次郎  
(加須市立志多見小学校長)

令和6年11月21日(木)、22日(金)の両日で、『自他を大切にすることを育む道徳教育の充実 ～学びのつながりを感じ、自己の考えを深められる授業づくりを通して～』を大会主題に掲げ第58回全日本中学校道徳教育研究大会が開催されました。この大会は第53回関東甲信越中学校道徳教育研究大会を兼ねて開催されました。

初日は川崎市立渡田中学校会場と川崎市立川崎高等学校附属中学校会場に分かれて公開授業と研究協議が行われました。

私は関中道会長さんの学校である渡田中学校で授業を参観してきました。渡田中は川崎市の中心部に位置し、昨年創立70周年を迎えた学校で、かつては生徒数1000人を超えた大規模校でしたが現在は320名ほどの生徒が通っています。当日は全10学級で公開授業が行われました。いろいろな授業を見るのではなく3年1組の「二通の手紙」を最初から最後まで参観しました。大会主題に「学びのつながりを感じ」とあるように生徒同士の意見交換の時間を多くとりつつそれぞれが考えを深めるような授業展開を行っていました。

2日目は川崎市スポーツ・文化総合センター(ルッツかわさき)にて全体会、課題別分科会と指導講話が行われました。分科会の内容は「教材研究のあり方と発問を中心とした授業づくり」「ICTを効果的に活用した道徳の授業づくり」「道徳科の指導と評価」「道徳教育推進教師を中心とした道徳教育の展開」「学校教育目標を具現化するための多様な道徳教育の展開」の5分科会でした。第1分科会では若手とベテランの技量の違いに着目し、授業改善のための効果的な研修の方法の提案などがありました。それぞれの分科会で熱心な議論が行われていました。

最後は文部科学省の井上結香子調査官による指導講話が行われました。井上先生は道徳教育の「要」としての道徳科の重要性を様々な角度から述べられ、特に「発問」の重要性を説きつつ、道徳科の授業を教師自身が楽しんでほしいとおっしゃっておられました。学びの多い2日間の研究大会でした。

## 第58回関東地区小学校道德教育研究大会 千葉・長生大会の報告

報告者 越谷市立西中学校  
教諭 宮崎 里美

令和6年11月29日(金)、『自己を見つめ、考え、共によりよく生きる子どもを育てる道德教育 ～「自分のこと」として主体的に学び合う授業づくりを目指して～』を大会主題に掲げ、千葉県長柄町立日吉小学校にて、公開授業、全体会、課題別分科会、記念講演を参加者が一堂に会して盛大に行われました。

日吉小学校では、上記の主題を受け、『自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うこと』を目指して授業が行われていました。当日は全学年6学級の公開授業が行われ、そのすべての授業で「指導構想の工夫」「主体的に学び合うための教材の活用」「『自分のこと』として考えさせるための指導の工夫」という取組が見られました。『発達段階に沿った聴き合い学習』『動作化・役割演技・ICTの効果的な活用』を取り入れ、新たな気付きや自分の考えを深めることを通して自己肯定感の高い児童の育成を目指す授業が行われていました。

課題別分科会では全6分科会が開催され、越谷市立蒲生南小学校 杉之原美香教諭から、内容項目「A 主として自分自身に関わること」に焦点化した①道德の授業改善に関わる取組②家庭・地域との連携を目指す道德教育③環境整備・調査研究部の取組について提案がありました。①では「価値分析シート」の作成と活用、「彩の国の道德」の活用、②では全学級道德の授業公開、道德だよりの発行の取組、③では生活目標の振り返り、アンケート調査の実施・分析・考察について具体的な事例を挙げて紹介し、幸手市立幸手中学校長 島方勝弘先生から指導助言をいただきました。

最後に「自己を見つめ、考え、共によりよく生きる子どもを育てる道德教育の推進・充実」と題して、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 堀田竜次先生による記念講演がありました。公開授業例を基にしながら道德科の授業はどうあるべきか、また課題別分科会では第6分科会を例に挙げて具体的なお話をいただきました。道德科の授業の評価についてもその特質から留意すべきことや評価に求められていることについてご指導いただきました。

授業では児童が安心して互いの思いや考えを伝え合う環境づくりが大切だと強く感じた研究大会でした。



## 「多様な学びを通して、自己の生活に生かせる資質と能力」の育成

～自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める授業づくりとともに、各教育活動と関連を図る道德教育の実践を通して～

埼玉県 越谷市立蒲生南小学校 杉之原 美香

### 1 研究のねらい

情報化・グローバル化が加速度的に進展する社会の中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発展や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となる。こうした課題に対応していくためには、社会を構成する主体である一人一人が、高い倫理観をもち、人としての生き方や社会の在り方について、時に対立がある場合を含めて、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に重要であり、こうした資質・能力の育成に向け、道德教育は大きな役割を果たす必要がある。

このように、道德教育は、人が一生を通じて追求すべき人格形成の根幹に関わるものであり、同時に、民主的な国家・社会の持続的発展を根底で支えるものでもある。また、道德教育を通じて育成される道德性、とりわけ、内省しつつ物事の本質を考える力や何事にも主体性をもって誠実に向き合う意志や態度、豊かな情操などは、「豊かな心」だけでなく、「確かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり、「生きる力」を育むために極めて重要なものである。

本校においては、全国や埼玉県学力・学習状況調査の質問紙調査、本市アンケート調査の結果を見ると、自己肯定感、規律ある態度、粘り強さ、勤勉性、などの観点に課題があり、よりよく生きようとする道德性を養う道德教育を学力向上の下支えとしてバランスよく推進する必要があると考えた。特に、自己の在り方を自分自身との関わりで捉え、自律的な人間の育成を目指すために、内容項目「A 主として自分自身に関わること」に焦点化した研究を進めながら本校の課題解決に取り組むこととして、上記の主題を設定した。

尚、本校が目指す発達段階に応じた児童像と研究の仮説は以下の通りである。

本校が目指す発達段階に応じた児童像

- |                                                |
|------------------------------------------------|
| 1・2年生：よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行う児童          |
| 3・4年生：過ちは素直に改め、正しいことは自信をもって行う児童                |
| 5・6年生：善悪の判断をし、責任をもって行動するとともに、目標に向かって努力してやりぬく児童 |

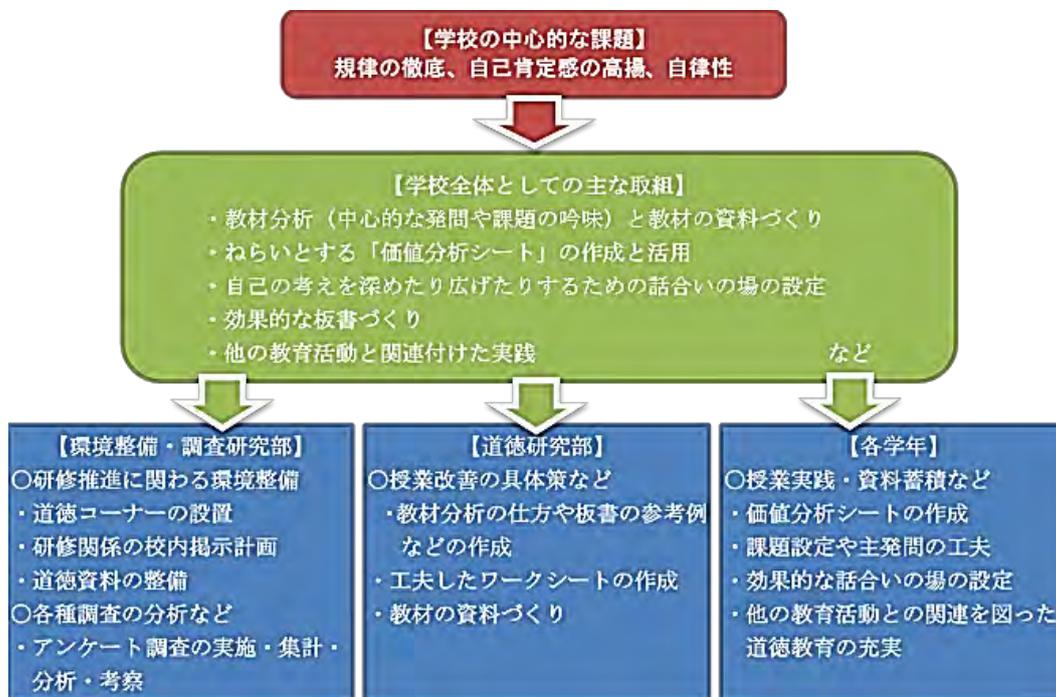
研究の仮説

- |                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------|
| (1) 道德科と他の教育活動の道德的価値を有機的に関連付けた学習指導を実践すれば、主体的に判断してよりよく行動することができるであろう。 |
| (2) 道德科の目標・特質をおさえた学習指導過程を構想し、授業実践をすれば、より深く自己を見つめることができるであろう。         |

## 2 研究の内容

### (1) 研究の組織

全教職員が参画できるように体制を整えている。また、各研究部が本校の課題解決に向けて機能するように、取り組むことを明確にしている。



### (2) 道徳研究部の具体的な取組

#### ① 道徳の授業改善に関わる取組

i 学校全体で共通指導ができるように、教師向け資料「授業の流れ」を作成

- ・ 授業づくりの拠り所

ii 指導内容項目の解釈を確かなものにするための 価値分析シート の作成と活用

- ・ ねらいとする価値を事前に分析
- ・ 授業後に振り返りを行い、加筆修正の実施

iii 毎月1回木曜日の学年研修にて授業案の検討

- ・ 事前に学年内の一人が授業の展開案をたたき台として作成
- ・ 学年研修の時間には、発問や板書の仕方について検討

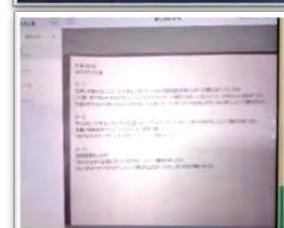
iv 板書や授業メモ のデータ保存・共有

- ・ その後の授業改善の参考にするために、授業の板書や児童のノートをデータとして保存
- ・ 授業後、学年で授業の振り返りを行い、「効果的な主発問」や「児童の反応」等を簡潔に記録し、データとして保存

v 思考を深めるための道徳ノートやワークシートの工夫

- ・ 道徳ノートの書き方を提示し、学校全体で共通指導

vi 学習する子どもの視点に立った活動の工夫



- ・役割演技…特定の役割を与えて即興的に演技する。
  - 登場人物になりきるので、意見や考えが出しやすい。
  - 役割を交代することで、相手の立場も体験できる。
- ・動作化…動きや台詞の真似をして理解を深める。
- ・ハートメーター、心情円盤、心の物差し…「見える化」を通して子どもたちの対話を生み出す。

vii 教材の資料づくり

- ・思考を深める一助とする短冊や場面絵の作成
- ・以前の作成物を見直して更新し、次年度以降も使えるようにパッケージ化

viii 他教科等との関連を図った指導計画と実践

- ・道徳教育の充実を図って道徳性を養うため、「本校が目指す児童像」や「当該学年が目指す児童像」をもとに、ねらいの達成に関わる学習や他の教育活動と関連付けた指導計画を作成して実践

ix 埼玉県道徳教育教材資料集「彩の国の道徳」の活用

- ・年間指導計画に位置付け、年1回全学級において、「彩の国の道徳」を用いた授業を実施



② 家庭・地域との連携を目指す道徳教育の推進

i 道徳の授業公開

- ・道徳教育への理解や協力を得るために、学校公開日等に道徳の授業を公開（全学級年1回）



ii 道徳だよりの発行

- ・内容項目に即した児童の活動を掲載し、保護者に向けて周知
- ・「家庭用彩の国道徳」について掲載し、家庭に向けて話題提供・啓発
- ・感想やテーマ（例 我が家の子育て法等）についての意見を集約し、次号に掲載、相互の協力体制を構築

(3) 環境整備・調査研究部の具体的な取組

① 環境整備に関わる取組

学習のつながりや教育活動との関連付けを図るための取組と教室掲示の整備

- ・道徳の実態調査の結果をふまえ、本校の課題（規律ある態度）との関連を図った「生活目標の振り返り」

② 調査研究に関わる取組

全校児童を対象にした、アンケート調査の実施・分析・考察  
 ・児童の実態把握や実践の検証とともに、指導の工夫改善につなげるために、年2回実施

「お・は・よ・う」は、学校教育目標を児童向けに具現化したキャッチフレーズの頭文字です。



毎月末に、自分自身の言動を振り返って書いている。

### 3 研究のまとめ

#### (1) 研究の成果

- ・ 道徳に関する実態調査（校内調査）から、以下の成果がみえた。
  - ①道徳の時間において「考えを話す」ことが好きと回答した割合  
令和4年9月 73% → 令和5年7月 80%
  - ②道徳の時間において「考えを聞く」ことが好きと回答した割合  
令和4年9月 94% → 令和5年7月 97%
  - ③道徳の時間において「友達と意見を伝えあうと自分の考えが深まる」と思うと回答した割合  
令和4年9月 84% → 令和5年7月 92%
- ・ 埼玉県学力学習状況調査「規律ある態度」質問紙調査から、以下の成果がみえた。
  - ①「くつそろえ」について、肯定的回答をした児童の割合  
6年生 令和4年度 81.5% → 令和5年度 91.1%  
5年生 令和4年度 80.9% → 令和5年度 87.1%
  - ②「返事をする」について、肯定的回答をした児童の割合  
6年生 令和4年度 85.9% → 令和5年度 88.9%  
5年生 令和4年度 84.0% → 令和5年度 87.1%
- ・ 昨年度からの研究実践や日常的な実践を振り返り、授業改善の具体策を構築して取り組む教師集団になってきている。
- ・ 教材分析を含めた授業づくりに関する資料をデータで保存、整理することで、効率的に授業づくりができる環境が整ってきた。

#### (2) 研究の課題

- ・ 道徳に関する実態調査（校内調査）から、以下の課題がみえた。
  - ①「真面目に、真心をもって生活することは大切だ」と回答している児童が95%いるが、「真面目に、真心をもって生活することができている」と回答している児童は82%にとどまるなど、わかってはいるが、行動に結びつかないと回答している児童が少なからずいる。
- ・ 埼玉県学力学習状況調査「規律ある態度」質問紙調査（令和4年度、5年度ともに4月実施）から、以下の課題がみえた。
  - ①「あいさつ」、「話を聞き発表をする」については、小4、5、6年のいずれにおいても、達成率が80%に届かなかった。

#### (3) 研究の課題

- ・ 「規律ある態度」の定着については、道徳科のみならず、「すべての授業での一人一人の学びを確かなものにするために必要不可欠である」という認識のもと、引き続き学校全体で共通指導が図れるようにしていく。
- ・ 各教育活動での道徳教育がその特質に応じて意図的、計画的に推進され、相互に関連が図られることで、道徳性が豊かに養われていくことを踏まえ、学校教育全体を通して道徳性を養う道徳教育のより一層の充実を図る。

## 7 「道徳教育の研究」第54集の編集委員の一覧(順不同)

(※ 企画推進部員より)

鈴木久美子	行田・埼玉中	寺井 次郎	加須・志多見小	福田 和己	羽生・西中
本多 齋士	皆野・国神小	飛川 成正	秩父・高篠中	坂口 洋美	さいたま・美園中
高橋 伸治	川口・安行東小	清水美津子	幸手・東中	前田友美子	越谷・蒲生小
瀧田 俊介	行田・西小	伊藤さゆり	吉川・栄小	高橋 有希	幸手・さくら小

### 編集後記

本年度も「道徳教育の研究」第55集を発行することができました。発行にあたりましては、大勢の皆様にご協力をいただきました。ここに、心より感謝申し上げます。

さて、学習指導要領が改訂され、道徳科がスタートし、6年が過ぎました。道徳科では教科書を主たる教材として使用し「考え、議論する道徳」道徳授業の充実、児童生徒の健やかな成長に資する評価の工夫、心の教育推進に向けて取り組むべき課題は山積しており、各校での取組の一層の充実が求められています。

そこで、本研究会では、令和6年度の研究主題を「人としての生き方を深め、よりよく生きる児童・生徒を育てる道徳教育の創造」、副題を～学習指導要領が求める道徳教育の実践を通して～とし、道徳科に係る見識豊かな講師の先生方による御講演、夏季研修会での授業充実に係る研修、研究委嘱校による先進的な授業研究等、学校現場に生きる活動の推進を目指して参りました。特に本研究大会である「第63回埼玉県道徳教育研究大会」は、熊谷市立江南北小学校で開催され、県内各地区からの参加者により、大盛況の大会となりました。

1年間の取組をまとめた本冊子が、学校教育全体で取り組む道徳教育や道徳科の授業充実の一助として、県内の多くの先生方に御活用いただくことを編集委員一同、切に望みます。

最後に、文部科学省初等中等局教育課程課教科調査官 堀田竜次先生、十文字学園女子大学教授 浅見哲也先生、埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 芳賀一行先生、さいたま市教育委員会教育課程指導課主席指導主事 宍戸貴久先生には、格別の御指導をいただきました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

※ 本冊子の作成に際し、埼玉県連合教育研究会、日本教育公務員弘済会埼玉支部よりご支援いただいています。